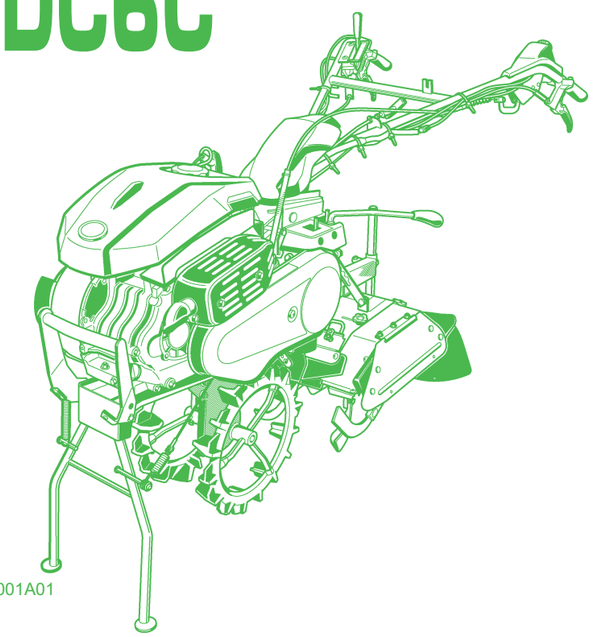
MSD4C(W)・6C(W)・MSDC6C

管理機

取扱説明書

MSD4C(W)・MSD6C(W)
MSDC6C



1MDQX00001A01

ご使用前に必ずお読みください
身近なところに大切に保管してください



このラベルは「(社)日本陸用内燃機関協会排出ガス自主規制適合エンジン」であることを示しています。

操作装置のシンボルマーク

運転操作及び保守管理のために、操作装置のシンボルマークが使用されています。シンボルマークの意味は下記のとおりですのでよく理解して戴き誤操作のないようご注意ください。

STOP	エンジン停止		チョークレバー
			ガソリン燃料

専門用語の説明

ON	燃料コックレバー［開］	**OFF**	燃料コックレバー［閉］

お客様へ

ご使用の機械についてわからないことや故障が生じたときは，下記の点を明確にして，お買いあげ先へお問合わせください。

●ご使用機の商品名(区分)と機械番号(製造番号)は…？

商 品 名(区　　分)

機械番号(製造番号)

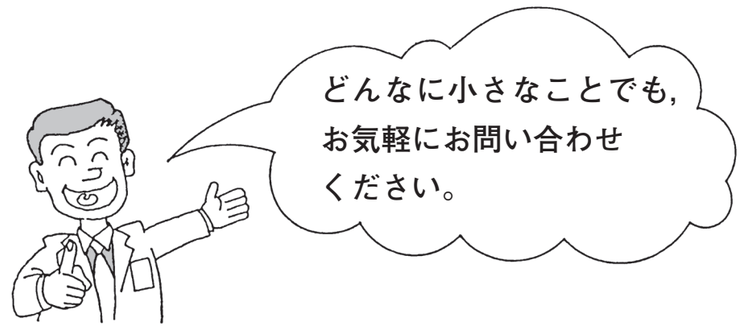
●ご使用状況は…？

(何速で，どんな作業のとき)

●どのくらい使用されましたか？

(約 _____ アール使用後)

●トラブルが発生したときの状況を，できるだけ詳しくお教えください。



(ご相談窓口) お買いあげ先

TEL　　(　　)

MSD4C(W)/MSD6C(W)/MSDC6C
BD．I．1-1．0．AK

はじめに

このたびは製品をお買上げいただきありがとうございました。
この取扱説明書は本製品の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明しています。ご使用前によくお読みいただいて十分理解され、お買上げの製品がすぐれた性能を発揮し、かつ安全で快適な作業をするためこの冊子をご活用ください。また、お読みになったあとも製品に近接して保存し、わからないことがあったときには取出してお読みください。なお、品質・性能向上あるいは安全上、使用部品の変更を行なうことがあります。その際には、お買上げの製品とこの説明書の内容が一致しない場合がありますので、あらかじめご了承ください。

⚠ 安全第一

本書に記載した注意事項や機械に貼られた⚠の表示があるラベルは、人身事故の危険が考えられる重要な項目です。よく読んで必ず守ってください。
なお、⚠表示ラベルが汚損したり、はがれた場合はお買上げの販売店に注文し、必ず所定の位置に貼ってください。

注意表示について　本取扱説明書では、特に重要と考えられる取扱い上の注意事項について、次のように表示しています。

⚠ **危険**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負うことになるものを示します。
⚠ **警告**	注意事項を守らないと、死亡又は重傷を負う危険性があるものを示します。
⚠ **注意**	注意事項を守らないと、ケガを負うおそれのあるものを示します。
重要：	注意事項を守らないと、機械の損傷や故障のおそれのあるものを示します。
補足：	その他、使用上役立つ補足説明を示します。

本製品の使用目的について

本製品は、農業用機械ですので農作業以外では使用しないでください。
使用目的以外の作業、また夜間作業や改造はしないでください。
使用目的以外の作業や改造をした場合は、保証の対象になりませんのでご注意ください。（詳細は保証書をご覧ください。）

仕様について

この取扱説明書では、仕様の異なる製品を下記のように表示していますので、お買上げの製品の仕様をお確かめのうえ、お間違いのないようお願いいたします。
なお、説明は**［MSD6C 仕様］**を基本とし、**［MSD6C 仕様］**と取扱いが異なる場合はそのつど追加説明してあります。従って、機種及び仕様区分によっては付いていない装置の説明もあります。

- 二輪仕様 …… W仕様
- Vセンタロータリ仕様 …… V仕様
- むぎロータリ仕様 …… F仕様

販売型式	エンジン最大出力	走行部	耕うん軸	中耕ロータリまたはむぎロータリ
MSD4C	4.2馬力	1輪ゴムラグ仕様	標準ロータリ	中耕ロータリ
MSD4CW	4.2馬力	2輪ゴムラグ仕様	標準ロータリ	中耕ロータリ
MSD6C	6.3馬力	1輪ゴムラグ仕様	標準ロータリ	中耕ロータリ
MSD6CV	6.3馬力	1輪ゴムラグ仕様	Vセンタロータリ	中耕ロータリ
MSD6CW	6.3馬力	2輪ゴムラグ仕様	標準ロータリ	中耕ロータリ
MSD6CWV	6.3馬力	2輪ゴムラグ仕様	Vセンタロータリ	中耕ロータリ
MSDC6C	6.3馬力	ゴムクローラ仕様	標準ロータリ	中耕ロータリ
MSDC6CV	6.3馬力	ゴムクローラ仕様	Vセンタロータリ	中耕ロータリ
MSD6CWVF	6.3馬力	2輪ゴムラグ仕様	Vセンタロータリ	むぎロータリ

その他について

商標について

商　標	商標権者について
AdBlue®	AdBlue はドイツ自動車工業会（VDA）の登録商標です。

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。本文中では、それらの名称には必ずしも商標表示（™、®）を付記していません。

目次

安全に作業をするために 3

サービスと保証 11

ご相談窓口 11
認定番号 11
補修用部品の供給年限について 11

各部の名称と装置の取扱い 12

管理機の外観 12
主クラッチレバー 13
メインスイッチ 13
スロットルレバー 13
ハンドル高さ調節レバー 13
ロータリクラッチレバー 14
ロータリ変速レバー 14
ハンドル回動レバー 14
リコイルスタータ 15
チョークレバー 15
燃料コックレバー 16
燃料タンクと燃料キャップ 16
主変速レバー 16
副変速レバー 17
ロータリ牽制装置 17
マフラ 18
スタンド［一輪仕様］ 18
サイドスタンドとスタンドレバー［一輪仕様］ 18
スタンドとスタンドレバー［二輪仕様、クローラ仕様］ 19
抵抗棒 20
エアクリーナ 20
トルクリミッター 20
ロープ掛け用フック 21

作業前の点検 22

調子よく作業するために 22
安全に作業するために 24

運転のしかた 26

管理機の準備 26
新車時の扱いかた 26
1. ならし運転（最初の 10 時間まで） 26
運転前の点検 26
1. 運転前の日常点検 26
エンジンの始動と停止のしかた 26
1. 始動のしかた 26
1.1 リコイル始動のしかた 26
2. 停止のしかた 28
発進のしかた 29

作業のしかた 31

上手な作業のしかた 31
1. 作業前の準備 31
2. 耕うん作業手順 31
3. ハンドル正位置での旋回手順 31
4. ハンドル逆位置での旋回手順 31
各部の調節 32
1. エアクリーナの調節 32

2. エアクリーナネットの装着 32
3. ハンドル高さの調節 32
4. ハンドルの回動 33
5. 耕深調節のしかた 34
6. 正転作業［F 仕様以外］ 35
7. 逆転作業 36
8. 輪距の調節のしかた［二輪仕様のみ］ 37

管理機の点検・整備のしかた 39

廃棄物の処理について 39
洗車時の注意 39
定期点検箇所一覧表 40
管理機の給油一覧表 41
日常点検 42
1. 前回の異常箇所 42
2. 機械の周りを歩いて 42
3. 燃料の給油 42
4. エンジンオイルの交換 42
5. ミッションオイルの交換 43
6. エアクリーナの清掃とオイル交換 44
7. 燃料チューブの交換 44
8. 燃料フィルタとタンクの清掃 45
9. ファンカバーの清掃 45
10. 点火プラグの点検 45
11. ゴムクローラの調節［ゴムクローラ仕様のみ］ 46
12. 主クラッチケーブルの調節 47
13. 副変速ケーブルの調節 48
14. ハンドル上下ケーブルの調節 48
15. ロータリクラッチケーブルの調節 49
16. スタンドケーブルの調節［二輪仕様、クローラ仕様］ 49
17. サイドスタンドケーブルの調節［一輪仕様］ 50
18. チェーンケースの注油 50
19. スロットルレバーの点検 51
20. 耕うん爪と爪軸の取付けかた 51
20.1 中耕ロータリ［標準仕様］の取付けかた 52
20.2 V センタロータリ［V 仕様］の取付けかた 54
20.3 F 仕様の取付けかた 55
使用後の手入れ 56
1. エンジン始動不良を防ぐために 56
2. 長期格納時の手入れ 56
3. 燃料の抜取り 56

管理機を運搬するとき 57

自動車（トラック）への積込み、運搬 57

付表 58

主要諸元 58
走行速度一覧表 61
標準付属部品 61
主な消耗部品一覧表 62

トラブルと処置 64

索引 65

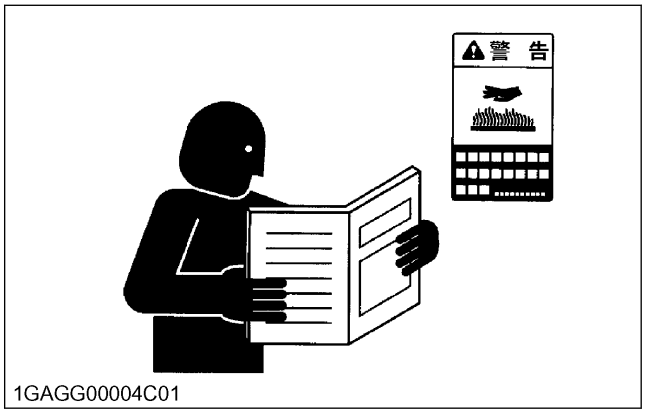
安全に作業をするために

本機をご使用になる前に、必ず本書をよく読み理解したうえで、安全な作業をしてください。安全に作業をしていただくため、ぜひ守っていただきたい注意事項は本章のとおりですが、これ以外にも、本文の中で危険、警告、注意、重要、補足としてそのつど取り上げています。

管理機を使用する前の注意事項

1. 正しい運転方法

- 機械を動かす前に、取扱説明書と機械に貼ってある安全ラベルをよく読み、理解したうえで運転してください。
- 機械の運転操作、特に主クラッチの**[切]**は素早くできるよう、よく練習し、じゅうぶんに慣れてから作業してください。



1GAGG00004C01

2. 運転してはいけない人

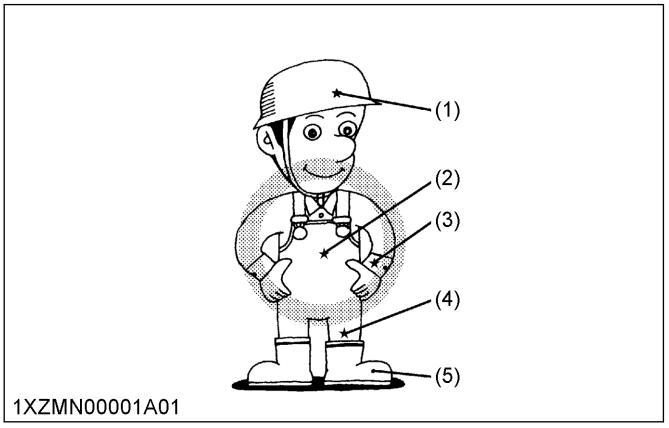
次の項目に該当する場合は、機械を使用しないでください。

- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人
- 視力不足などのため表示内容が読めない人
- 飲酒時や体調が悪いとき、また妊娠中の人
- 16 才未満の人
- ハンドルを操縦する体力に自信のない方

3. 作業に適した服装

- だぶついた服、腰タオルなど、回転部分や操縦装置に引っ掛かり事故の原因になるような服装はやめてください。
- ヘルメット、安全靴、保護メガネや手袋などの保護具を必要により着用してください。

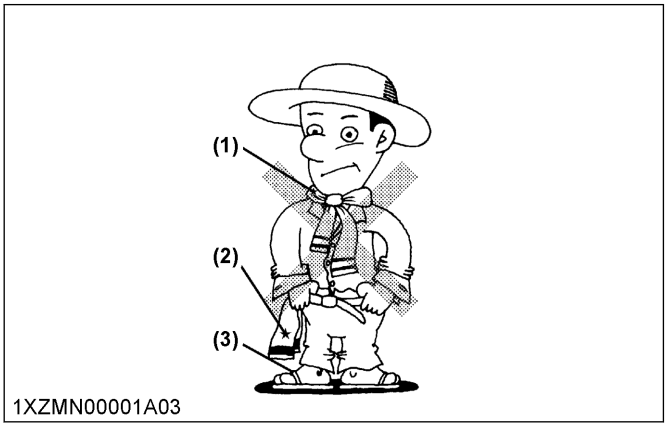
作業時の服装（良い例）



1XZMN00001A01

(1) ヘルメット
(2) 活動的な服装
(3) 袖口きっちり
(4) スソきっちり
(5) 滑りにくい靴

作業時の服装（悪い例）



1XZMN00001A03

(1) 巻きタオル
(2) 腰タオル
(3) サンダル

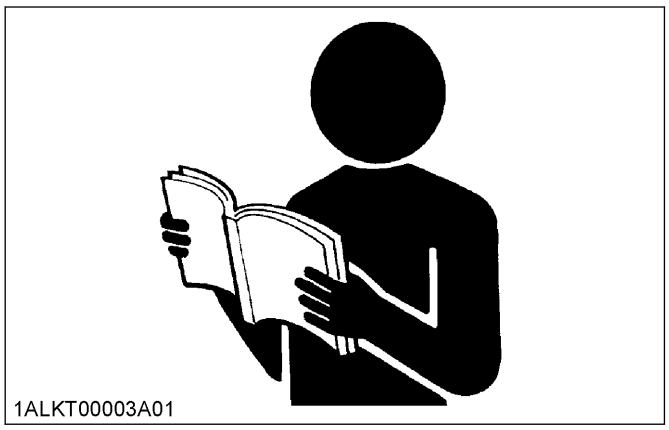
4. 周囲への注意

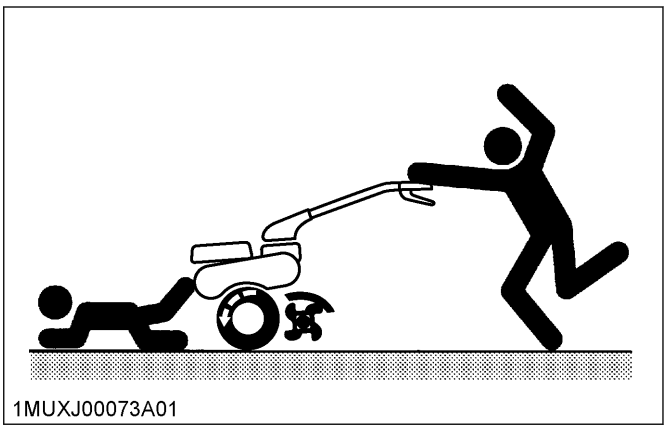
- 子供、ペットを近づけないでください。
- 見物人を近くに寄せないでください。
- 共同作業者が居るときは、互いに注意してください。

5. 他人に貸すときの注意

- 事前に運転のしかたを教え、取扱説明書を必ず読んでもらってください。
- 本書および安全ラベルの内容が理解できない人や子供には絶対運転させないでください。

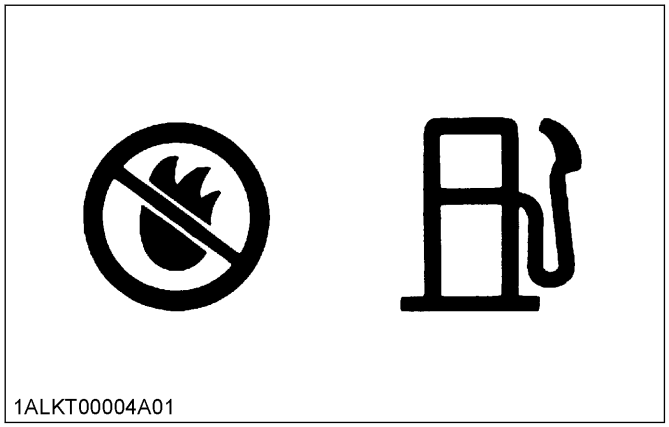
⚠ 安全に作業をするために


1ALKT00003A01


1MUXJ00073A01

6. 給油および注油するとき（火気厳禁）

- 燃料の給油および各部への注油時は必ずエンジンを停止し、規定量以上入れないでください。
- エンジン回転中やエンジンが熱い間は火災のおそれがあるので給油はしないでください。
- 煙草を吸ったり火気を近づけないでください。
- 給油口の赤色ゲージ以上に燃料を入れないでください。
- 燃料補給後、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。
- こぼれた燃料は拭き取ってください。


1ALKT00004A01

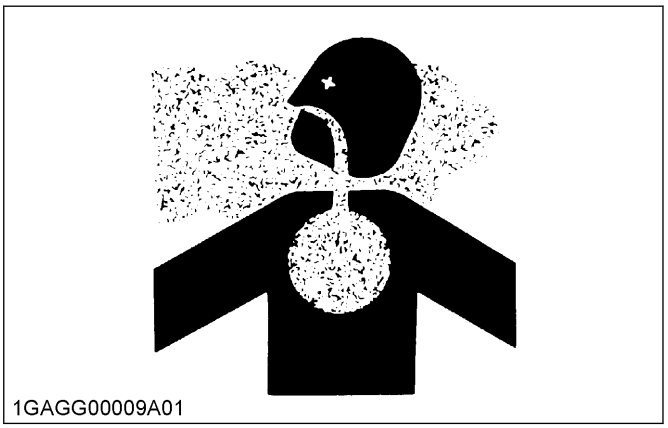
始動時の注意事項

1. エンジンを回すとき

- 必ず本機の主クラッチレバーを**[切]**位置にし、主変速レバーおよびロータリ変速レバーを中立位置にして、付近に人（特に子供）を近づけないでください。もし主クラッチや変速が入っていると車体や爪軸が急に動いて事故になるおそれがあります。
- リコイルスタータを引っ張る方向に人がいないか、突起物や障害物がないか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。

2. 排ガスに注意

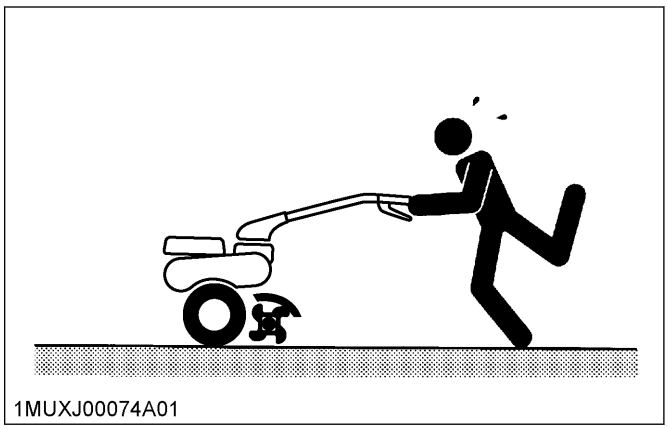
- 換気が不十分な所では、暖機運転や作業はしないでください。
  排ガスにより一酸化炭素中毒のおそれがあります。
- ハウス内では排ガスが充満しないように、じゅうぶんに換気を行ってください。
  排ガスによる中毒を起こし、死亡事故にいたるおそれがあります。


1GAGG00009A01

移動、作業時の注意事項

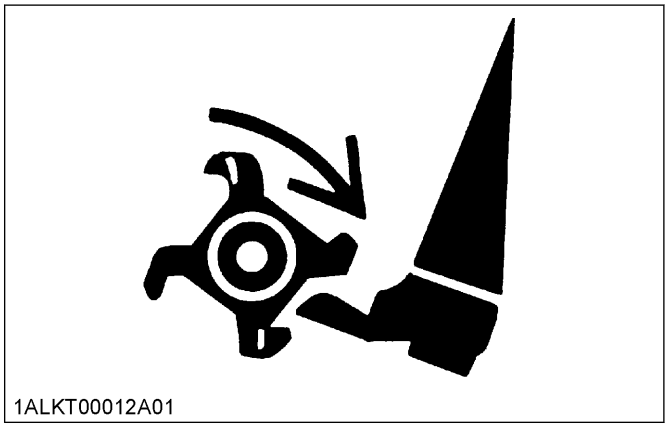
1. 発進するとき

- 速い速度での走行はじゅうぶん注意してください。
- 車速の最低速で主クラッチレバーの**[入]**はゆっくり、**[切]**は素早くの操作を習熟したうえで使用してください。
- 小走りになるようなスピードを出したり、急発進、急旋回はしないでください。転倒などのおそれがあります。
- 後進の発進時は、ハンドルが持ち上がりやすいので、エンジンの回転を下げ、しっかりハンドルを押さえながらゆっくり主クラッチを入れてください。


1MUXJ00074A01

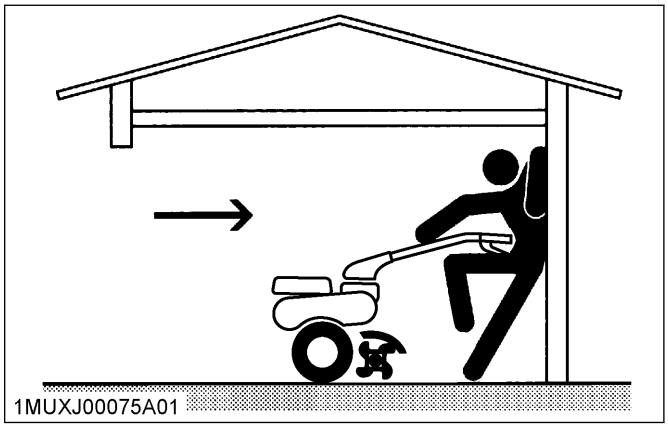
2. 移動するとき

- 移動の際は、必ずロータリの回転を止めてください。


1ALKT00012A01

3. ハウス、車庫など屋内での移動

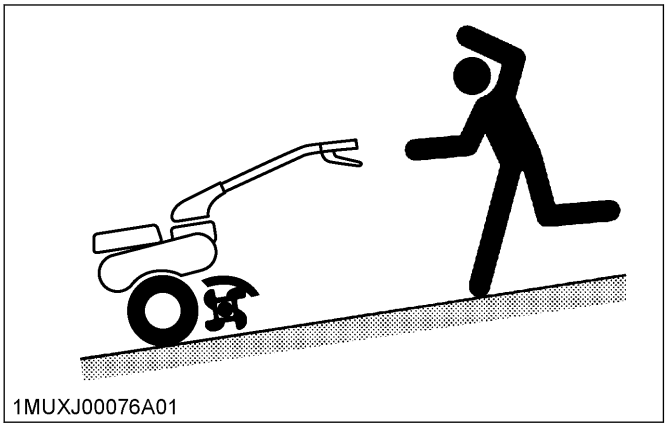
- 後方の壁、支柱、天井など障害物にはさまれるおそれがあるのでエンジン回転を下げて後進してください。


1MUXJ00075A01

- 屋根の低いハウス内や車の荷台では、エンジンを停止して手で引き出してください。

4. 坂道を移動するとき

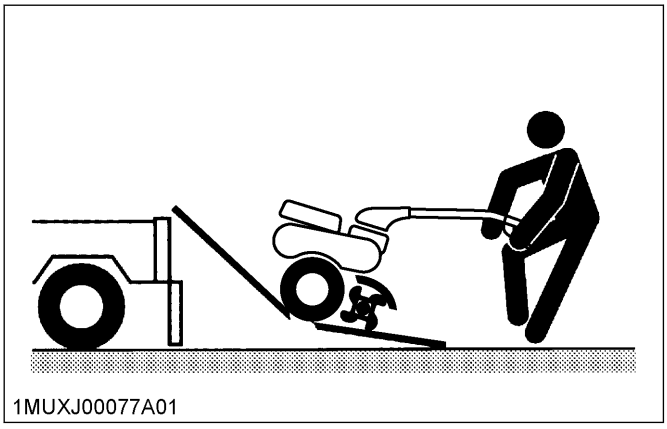
- 坂道、ほ場の出入り、あぜの乗越えなどの途中で主クラッチレバーを切ったり、主変速レバーを中立位置にすると、機体が思わぬ方向に進み危険です。


1MUXJ00076A01

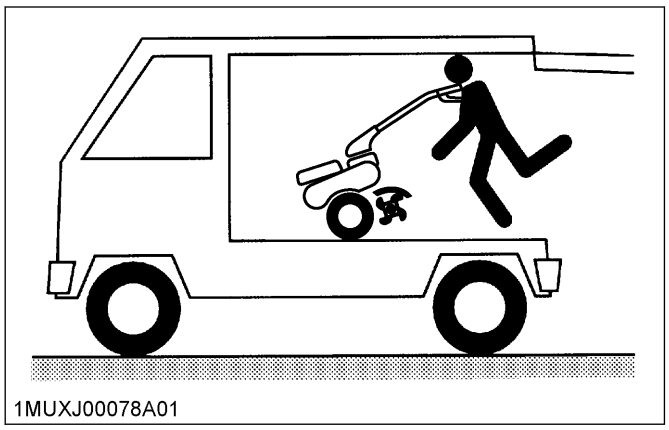
- 変速操作は、機械が平たんな場所以外では行わないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 坂道や凹凸、カーブの多い路上で高速運転すると、転倒したりして危険ですから必ず低速運転してください。

5. 運搬や積降ろしするとき

- 積込みや積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。
- アユミ板はすべり止めのついた、機体重量に耐える物で、トラックの荷台の高さ 1 に対しアユミ板の長さ 4 以上の物を使用し、確実に固定してください。


1MUXJ00077A01

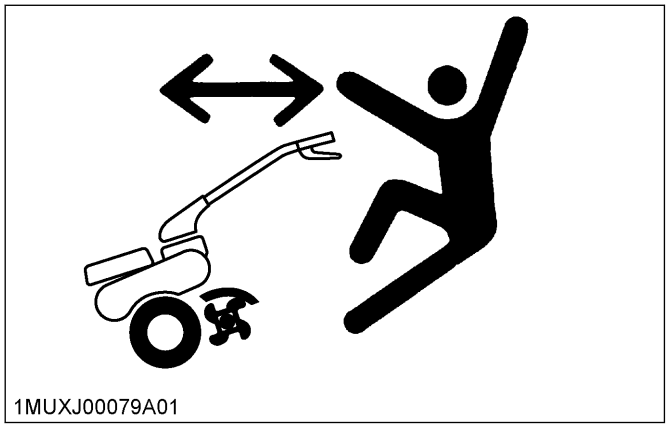
- 足元に注意し、車速は最低速で、上りは前進 1 速、下りは後進 1 速で行い、途中で主クラッチを切ったり、変速操作をしないでください。落下や転倒のおそれがあります。
- 車などの輸送車で運搬するときは、荷台に天井がある車を使用すると天井に首や体をはさまれるおそれがありますので、必ず荷台に天井がない車を使用してください。


1MUXJ00078A01

- 運搬時は燃料コックレバーを必ず**[OFF]**（閉）位置にし、給油キャップは漏れないようしっかり締めてください。燃料漏れが発生し、火災や爆発のおそれがあります。
- 機体の固定は前部プロテクタとロープ掛け用フックの 2 箇所を使ってロープ掛けを行い、確実に床に固定してください。ハンドルを使っての固定はしないでください。
- 積込み中は、機械の前には絶対に立たないでください。

6. 耕うん作業するとき

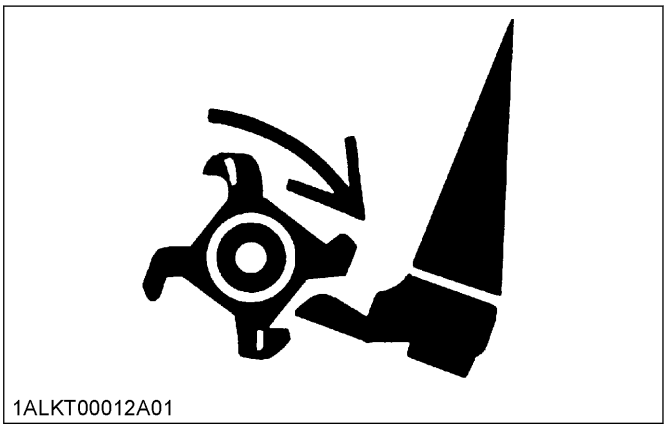
- いつでも主クラッチが切れる姿勢で運転してください。爪軸（ロータリ）作業開始時や作業中、機体が思わぬ方向に飛び出し転倒や人身事故のおそれがあります。


1MUXJ00079A01

- 作業前に、ほ場の状態をよく確認して、石、材木、針金、空カン、空ビンなどの異物を取り除いてください。
- 作業前と作業後には機械の点検および整備を行ってください。特にエンジン本体、マフラ周辺、配線部にワラくずなどの異物がたまっていると、火災の原因になります。
- 周辺の枯れ草やたい積ワラなどの異物は作業前に取り除くか移動させてください。機械のマフラが接触すると、発火するおそれがあります。
- ほ場の中や周囲にある支柱、樹木や段差などの障害物または作業に支障のある物は、作業前に位置を確認し、後進時にはさまれたり、転倒および転落しないよう安全な距離を保って、近づかないよう作業してください。
- ハウスや小屋の中、果樹園など障害物がある場所では、周囲をよく確認しながら作業してください。特に後進および旋回するときは、エンジン回転を下げ、ハンドルをしっかり押さえて行ってください。
- 長いワラや草など作業に支障のある物は、作業前に取り除いてください。機体が思わぬ方向に飛び出し、転倒など事故のおそれがあります。

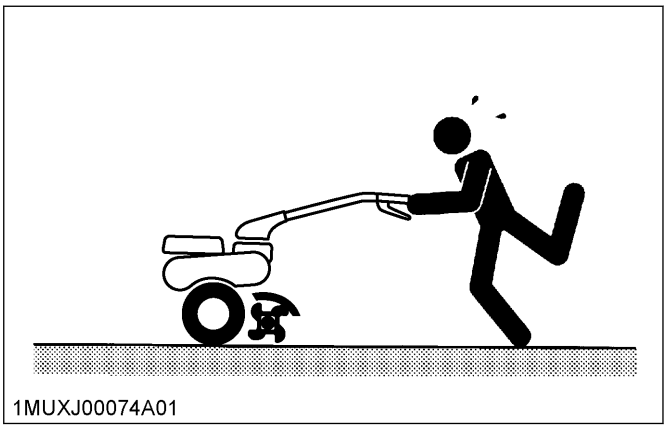
7. 回転している爪に注意

- ハンドル部を持上げ移動および旋回するときは、ロータリの回転を止めてください。ロータリの回転部に巻き込まれるおそれがあります。


1ALKT00012A01

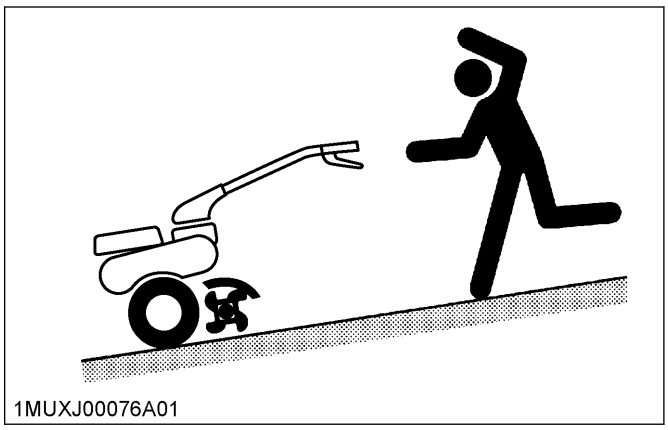
8. ほ場がかたいとき

- かたいほ場では車速を遅めにして、耕深も浅めで作業を行ってください。機体が飛び出すおそれがあります。


1MUXJ00074A01

9. 機械から離れるとき

- エンジンを必ず停止し、平たんで安定した場所に停車してください。移動や落下するおそれがあります。
  やむなく傾斜地に止めるときは車止めをしてください。

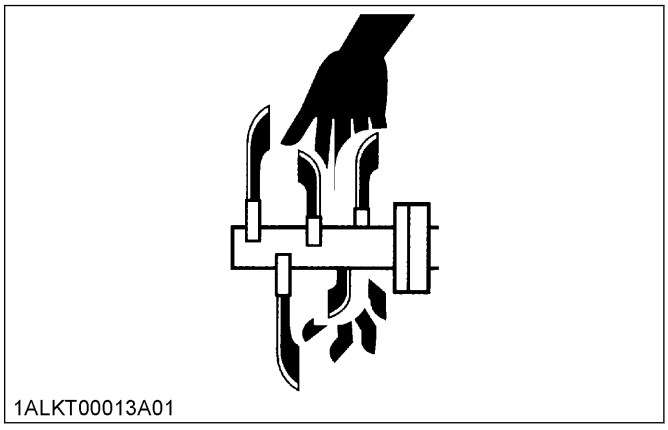

1MUXJ00076A01

- 周囲に草やワラなど燃えやすい物がある場所に止めないでください。火災のおそれがあります。

作業が終わったとき

1. 掃除をするとき

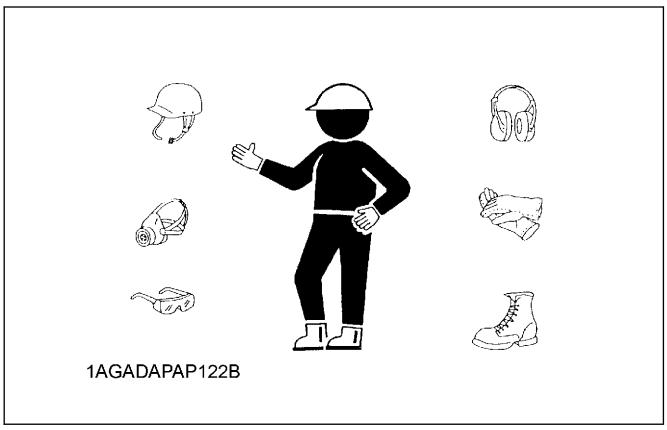
- 爪軸（ロータリ）などに巻き付いた草、ワラ、および泥土などを取り除くときは、巻き込まれるおそれがあるので、必ずエンジンを停止してください。


1ALKT00013A01

点検整備時の注意事項

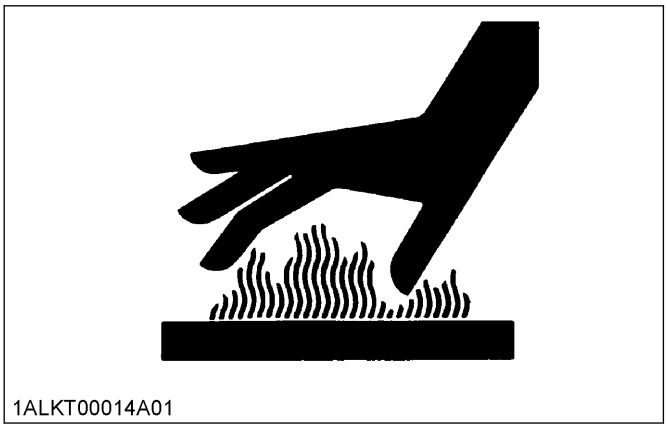
1. 点検および整備時の服装と保護具

- 点検整備にはヘルメット、安全靴と安全な服装を着用してください。
  作業内容によっては保護めがね、防塵マスク、防音具、および保護手袋などの保護具を着用してください。
  各保護具は使用前に機能を確認してください。


1AGADAPAP122B

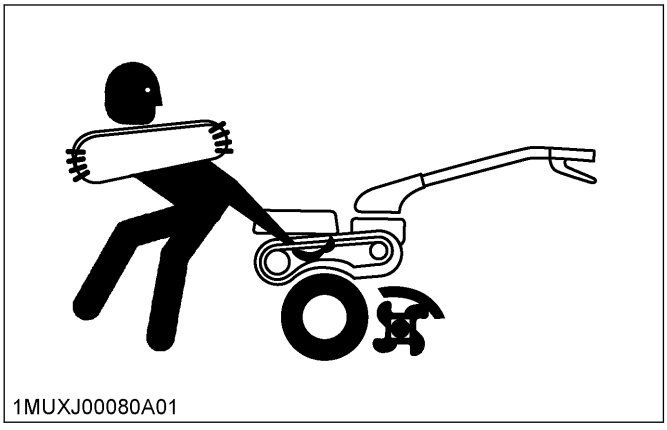
2. 点検、整備、アタッチメント脱着時の注意

- 点検、整備、アタッチメントの脱着などは、機械が転倒しない平たんな所に機械を安定させて、エンジンを止め、高温部が冷めてから行ってください。


1ALKT00014A01

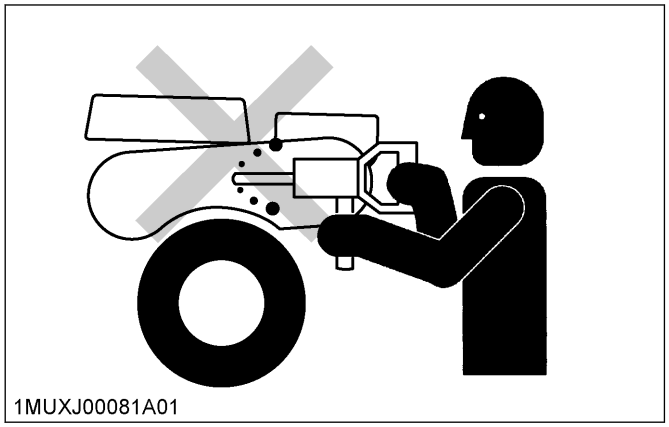
3. カバー類は必ずつける

- ベルトカバー、PTO 軸カバーなどの防護カバーを取り外すときは、必ずエンジンを停止してください。巻き込まれるおそれがあります。
- 取り外したカバー類は元どおり組み付けてください。


1MUXJ00080A01

4. 機械の改造禁止

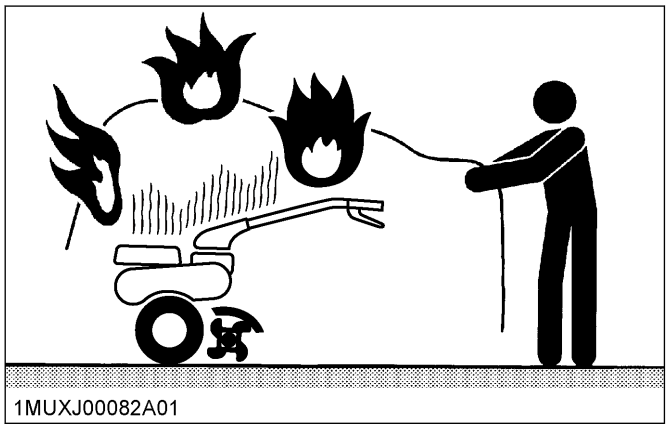
- 機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか人身事故にもつながるおそれがあります。



1MUXJ00081A01

5. 格納するとき

- 機体に保管用カバーやシートをかけるときは、火災予防のため、高温部が冷めてから行ってください。

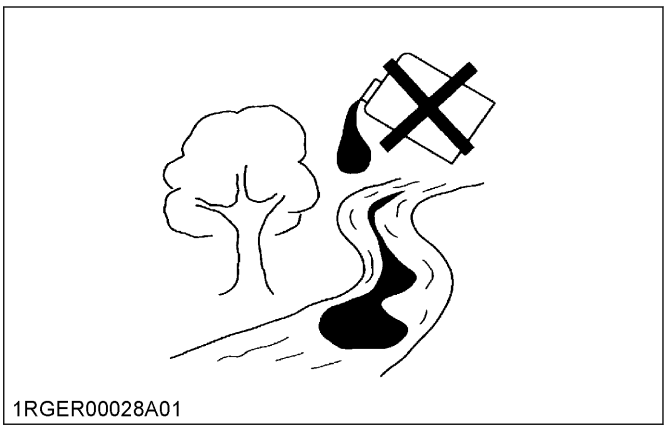


1MUXJ00082A01

- 乾いた草やワラなど可燃物のある所での保管はしないでください。
  火災のおそれがあります。

6. 廃棄物の処理

- 廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
  - 機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。
  - 地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。
  - 廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水（AdBlue）、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。



1RGER00028A01

7. 夜間作業の禁止について

- 本機は夜間作業灯を装備していませんので、夜間作業はしないでください。思わぬ事故につながるおそれがあります。

安全に作業するための安全ラベル

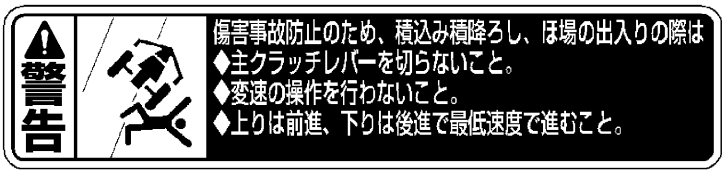
1. 安全ラベルと貼付け位置

(1) 品番　91850000360



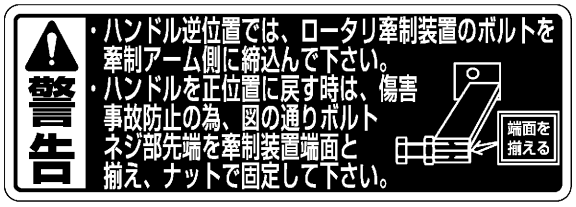
1AFADACAP025A

(2) 品番　91850000400



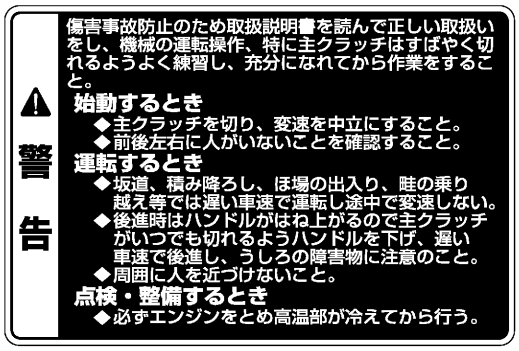
1AFADACAP026A

(3) 品番　91850000430



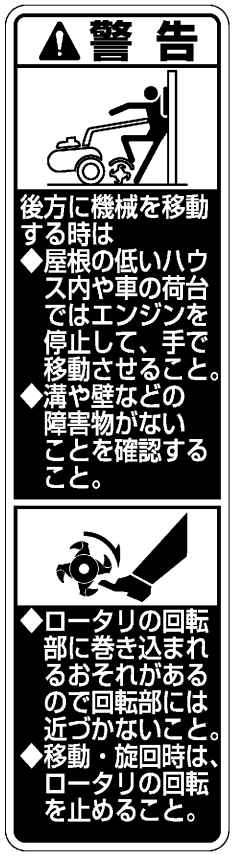
1AFADACAP065A

(4) 品番　91850000280［F仕様のみ］



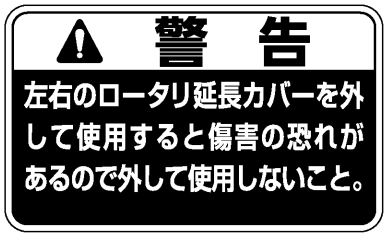
1AFADACAP066A

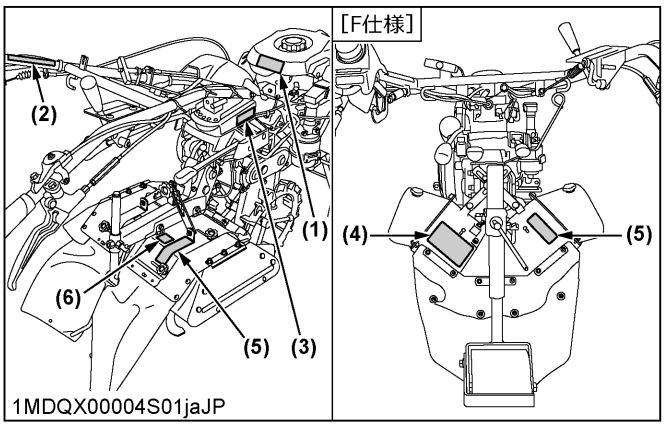
(5) 品番　91850000390



1AFADACAP064A

(6) 品番　91890000100［F仕様以外］





1MDQX00004S01jaJP

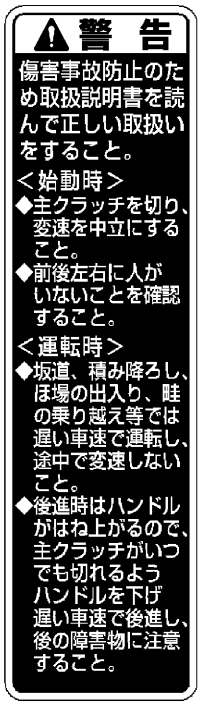
1MDQX00002A01jaJP

(1) 品番　91850000370



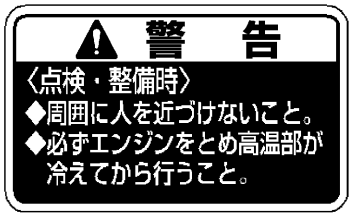
1AFADACAP027A

(2) 品番　91850000380
［F仕様以外］

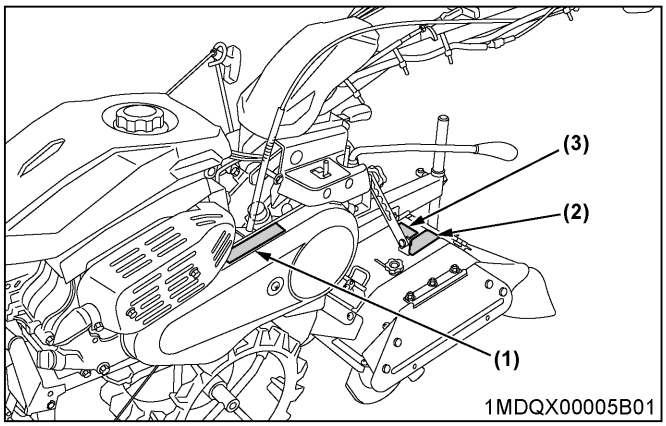


1AFADACAP020A

(3) 品番　91850000420
［F仕様以外］



1AFADACAP022A



1MDQX00003A01jaJP

2. 安全ラベルの手入れ

- 安全ラベルは、いつもきれいにして傷つけないようにしてください。
  もし安全ラベルが汚れている場合は、石鹸水で洗い、やわらかい布で拭いてください。
- 高圧洗浄機で洗車すると、高圧水により安全ラベルが剥がれるおそれがあります。高圧水を直接、安全ラベルにかけないでください。
- 破損や紛失した安全ラベルは、製品購入先に注文し、新しい安全ラベルに貼り替えてください。
- 新しい安全ラベルを貼る場合は、貼付け面の汚れを完全に拭き取り、乾いた後、元の位置に貼ってください。
- 安全ラベルが貼り付けられている部品を新部品と交換するときは、安全ラベルも同時に交換してください。

サービスと保証

この製品には、保証書が添付してありますのでご使用前によくご覧ください。

ご相談窓口

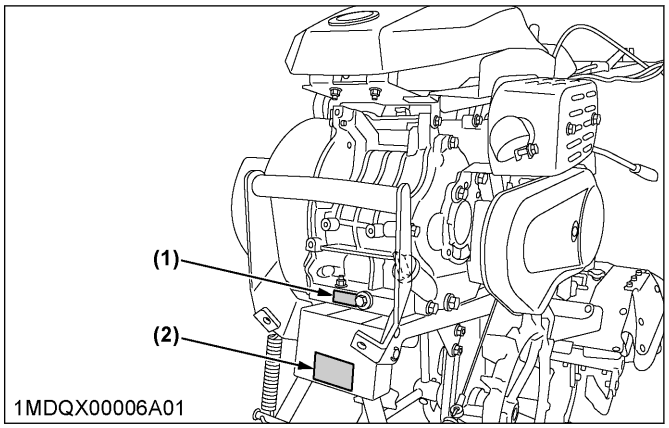
⚠ 警告

- **機械を改造しないでください。改造すると機能に影響を及ぼすばかりか、人身事故にもつながるおそれがあります。**
  改造した場合や取扱説明書に述べられた正しい使用目的と異なる場合は、メーカ保証の対象外になるのでご注意ください。
- **トレーラ走行はできません。**
  小型特殊自動車の認定を受けておりません。
  公道を走行すると、道路運送車両法に違反します。
  公道を移動するときは、自動車（トラック）に積んで運搬してください。

ご使用中の故障やご不審な点およびサービスについてのご用命は、お買上げいただいた購入先にそれぞれご相談窓口を設けておりますのでお気軽にご相談ください。
その際、次の事項を併せてご連絡ください。

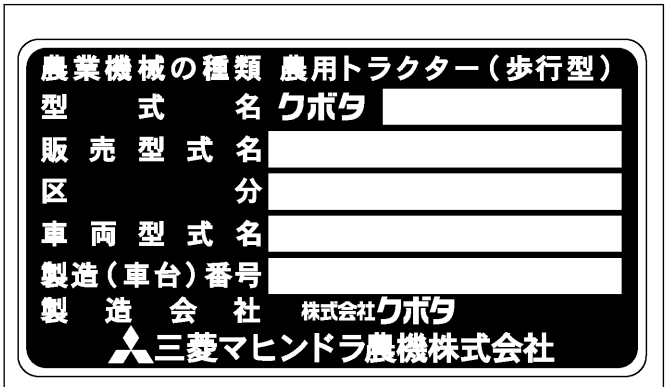
- 型式名、販売型式名と製造番号
- エンジン番号

なお、部品ご注文の際は、購入先に純正部品表を準備しておりますので、そちらでご相談ください。



(1) エンジン番号
(2) 製造（車台）番号

銘板



1TCGZ00007A01jaJP

認定番号

安全性検査の農機型式名および番号が必要な場合は、次の型式名および番号をご使用ください。

販売型式名	農機型式名	安全性検査合格番号
MSD4C	クボタ TS552NW	申請中
MSD4CW		
MSD6C	クボタ TS752NW	申請中
MSD6CW		
MSDC6C	クボタ PC752N	申請中

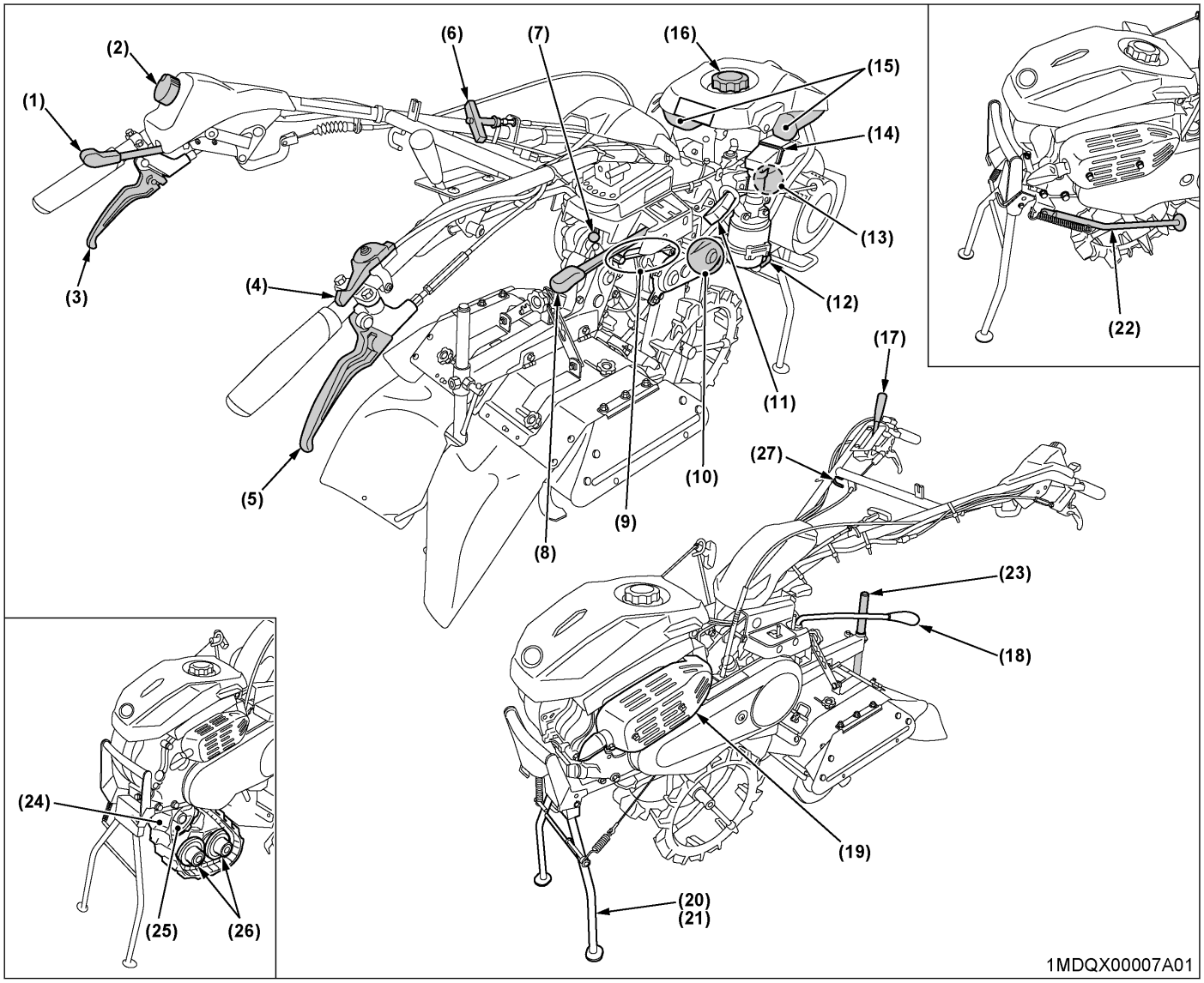
補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期限）は製造打切り後 9 年といたします。ただし、供給年限内であっても特殊部品につきましては、納期などの条件についてご相談させていただく場合があります。
補修用部品の供給は原則的に既述の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても部品供給のご要請があった場合には、納期および価格についてご相談させていただきます。

各部の名称と装置の取扱い

管理機の外観

この項目では各部の名称と装置の取扱いを説明しています。

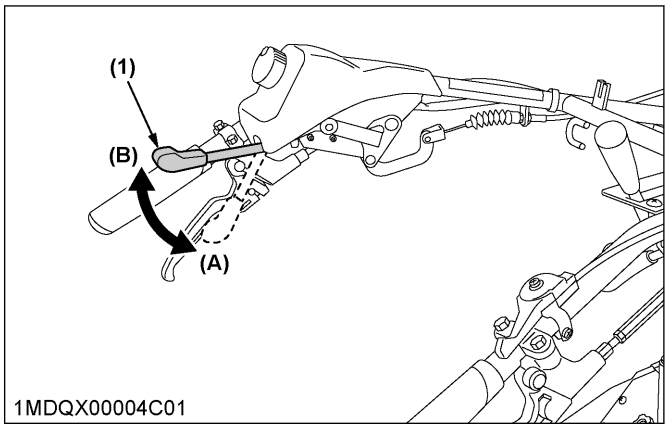


(1) 主クラッチレバー 13
(2) メインスイッチ 13
(3) ハンドル高さ調節レバー 13
(4) スロットルレバー 13
(5) ロータリクラッチレバー 14
(6) サイドスタンドレバー［一輪仕様］ 18
スタンドレバー［二輪仕様、クローラ仕様］ 19
(7) ハンドル回動レバー 14
(8) ロータリ変速レバー 14
(9) ロータリ牽制装置 17
(10) トルクリミッター 20
(11) リコイルスタータ 15
(12) 燃料コックレバー 16
(13) チョークレバー 15
(14) エアクリーナ 20
(15) 燃料タンク 16
(16) 燃料キャップ 16
(17) 副変速レバー 17
(18) 主変速レバー 16
(19) マフラ 18
(20) センタースタンド［一輪仕様］ 18
(21) スタンド［二輪仕様、クローラ仕様］ 19
(22) サイドスタンド［一輪仕様］ 18
(23) 抵抗棒 20
(24) ゴムクローラ 46
(25) スプロケット 46
(26) 転輪 46
(27) ロープ掛け用フック 21

主クラッチレバー

⚠ 警告
- **傾斜地や後進するときなどは、ハンドルが持ち上がり危険な場合がありますので、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。**
- **狭い場所や後進の運転についてはエンジンの回転を低速にし、後方や上方など周りの安全を確かめ、ゆっくりと主クラッチレバーを操作してください。**

主クラッチレバーは、エンジンからの動力を断続します。
- 主クラッチレバーを**[入]**位置にするとクラッチが入ります。
- 主クラッチレバーを**[切]**位置にするとクラッチが切れます。

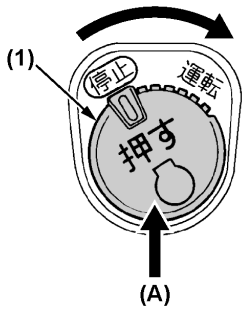
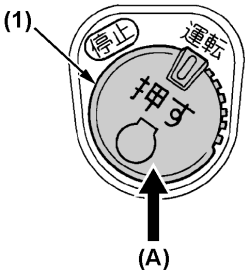


(1) 主クラッチレバー
(A) ***[入]***位置
(B) ***[切]***位置

メインスイッチ

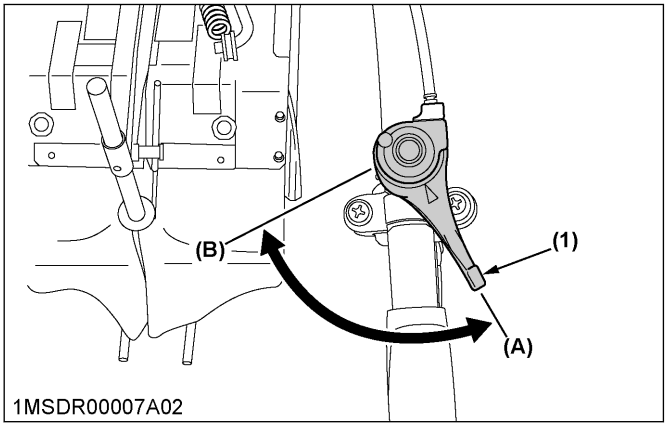
メインスイッチは、エンジンの運転または停止に使用します。
- メインスイッチを押しながら**[運転]**位置に回すと、エンジンの始動が可能になります。
  エンジンの始動はリコイルスタータで行います。
- メインスイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。

補足：
- **非常時はメインスイッチを押してください。エンジンが停止します。**

運転時	停止時
	
1MUXJ00027B01	1MUXJ00027B02
(1) メインスイッチ *(A)* 押しながら回す	*(1)* メインスイッチ *(A)* 押す

スロットルレバー

スロットルレバーはエンジン回転の調整をします。
- **[高]**の方向に回すとエンジン回転が上がります。
- **[低]**の方向に回すとエンジン回転が下がります。

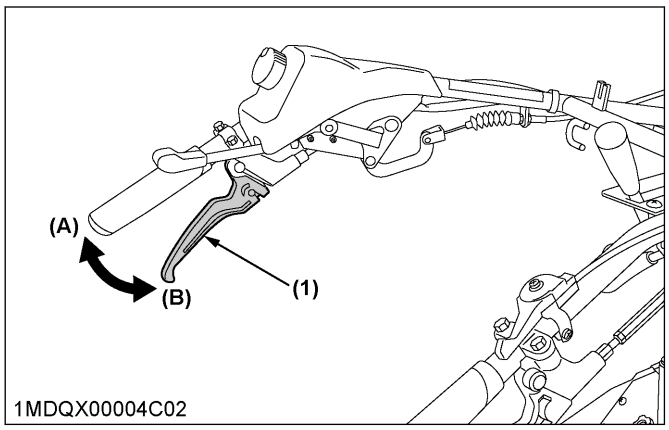


(1) スロットルレバー
(A) ***[低]***
(B) ***[高]***

ハンドル高さ調節レバー

⚠ 警告
- **ロータリを持ち上げているときは危険なため、ハンドル高さ調節レバーの操作はしないでください。**
- **走行時または作業時は危険なため、ハンドル高さ調節レバーの操作はしないでください。**
- **操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認すると共にゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。**

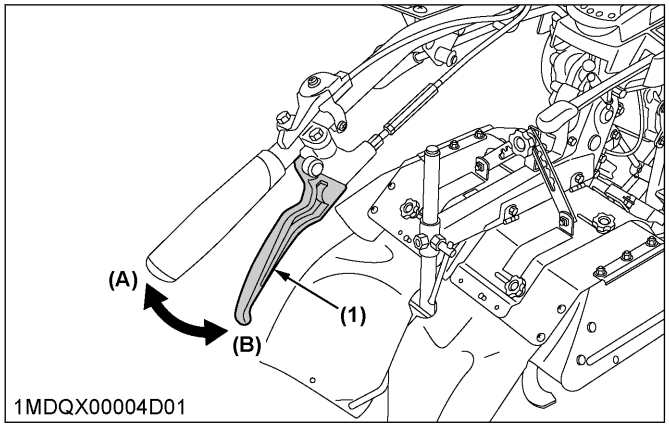
ハンドルの高さは 5 段の調節ができます。
- ハンドル高さ調節レバーを握るとハンドルが上下に動きます。
- ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。
  このときハンドルが固定されていることを確認してください。



(1) ハンドル高さ調節レバー　*(A)* 握る　*(B)* 離す

ロータリクラッチレバー

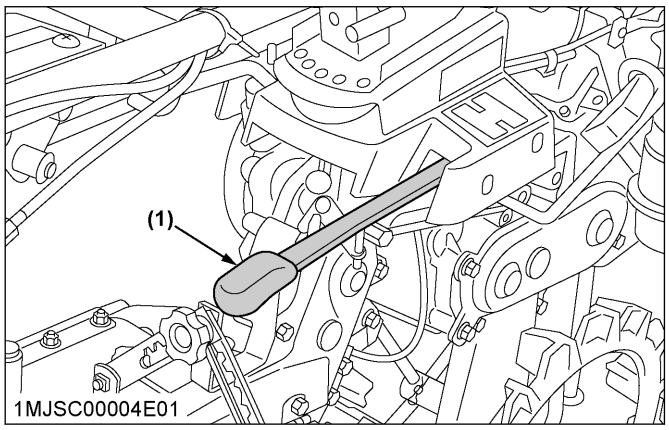
ロータリに伝わる動力を断続します。
- レバーを握るとロータリが**[切]**になります。
- レバーを離すとロータリが**[入]**になります。



(1) ロータリクラッチレバー　*(A)* 握る（***[切]***位置）　*(B)* 離す（***[入]***位置）

ロータリ変速レバー

ロータリ正転の低速と高速、ロータリ逆転の低速と高速の変速ができます。



(1) ロータリ変速レバー

次表を参考にして変速位置に確実に入れます。

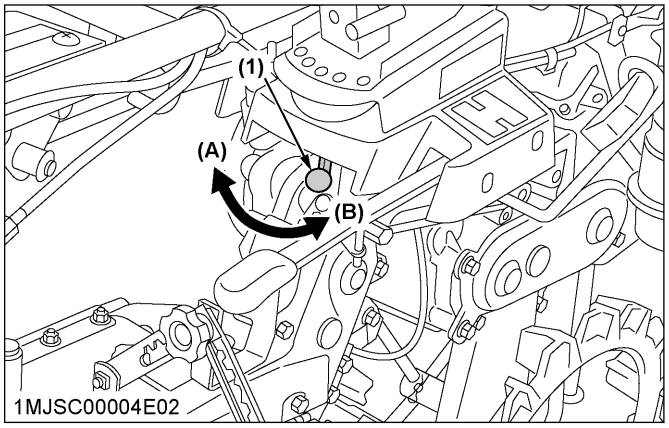
ハンドルの向き	速度段	主変速	副変速	ロータリ正・逆	適応作業
正位置	1	1	低	正	中耕、除草、培土
				逆	土揚、覆土、溝掘
	2	1	高	正	中耕、除草、培土
				逆	土揚、覆土、溝掘
	3	2	低	正	中耕、除草、培土
				逆	土揚、覆土
	4	2	高	正	中耕、除草、培土
				逆	–
	R1	R1	低	中立	1. 後進する場合はロータリ爪は止まります。 2. 後進はスロットルレバーを**[低]**にしてください。
	R2	R1	高		
逆位置	1	1	低	正	土揚、覆土、溝掘
				逆	–
	2	1	高	正	土揚、覆土、溝掘
				逆	–
	R1	R1	低	正	畝整形、マルチ
				逆	–
	R2	R1	高	正	畝整形、マルチ
				逆	–

ハンドル回動レバー

⚠ 警告
- **エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行ってください。**
- **ハンドル回動後は、各レバーが正常に動くか確認してください。**

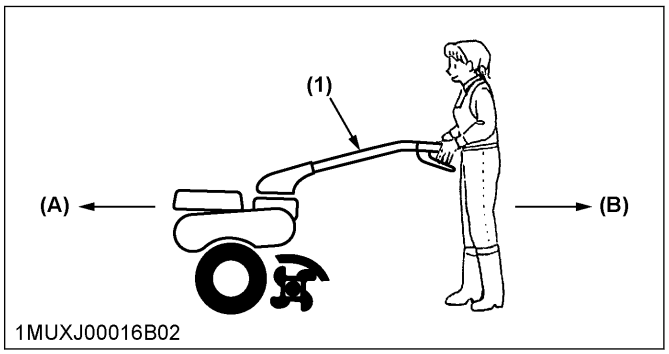
重要：
- **主変速レバーを中立位置にしてからハンドル回動を行ってください。**

ハンドル回動レバーを解除の方向に操作すると、ハンドルが正位置で 5 箇所、逆位置で 3 箇所の調節ができます。



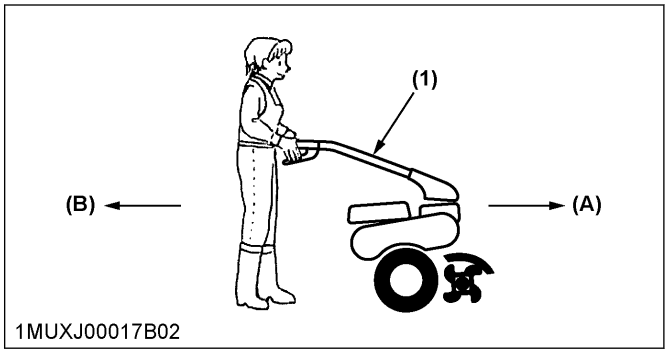
(1) ハンドル回動レバー
(A) 解除
(B) ロック

ハンドル正位置



(1) ハンドル
(A) 前進
(B) 後進

ハンドル逆位置



(1) ハンドル
(A) 前進
(B) 後進

ハンドルの向き	適応作業	使用できるアタッチメントの例
正位置	中耕、除草、培土、土揚、覆土、溝堀	培土器、排土板、土入れ爪軸、ミニマックスロータ
逆位置	土揚、覆土、溝堀、畝整形、マルチ	土入れ爪軸、ミニマックスロータ、平うねマルチセット

ハンドル逆位置では後進牽制が作動し、後進段数が 2 段に規制されます。後進牽制が確実に作動しているか確認するために、主変速レバーが 2 速に入らないことを確認してください。ハンドル正位置では主変速レバーが 2 速に入ることを確認してください。

リコイルスタータ

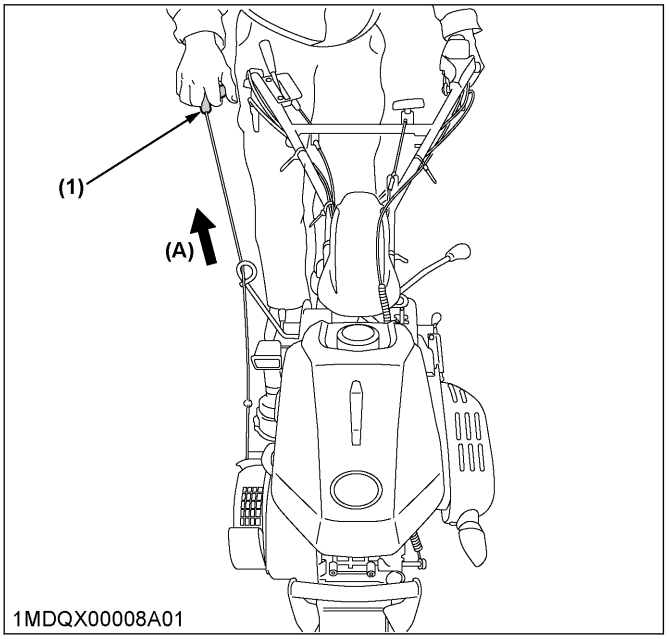
⚠ 警告

- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いかを確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**

補足：

- **主クラッチレバーが[入]位置では始動牽制装置が作動してエンジンは始動しません。**

エンジン始動時に使用します。
主クラッチレバーを**[切]**位置に、主変速レバーとロータリ変速レバーを中立位置に、メインスイッチを**[運転]**位置にして、リコイルスタータハンドルを引っ張ると始動します。

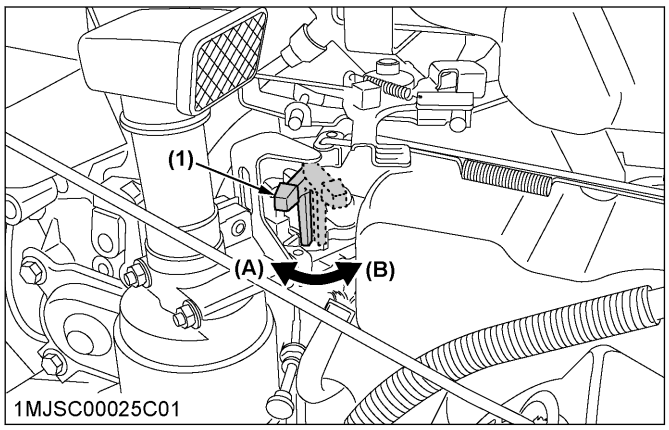


(1) リコイルスタータハンドル
(A) 引っ張る

チョークレバー

エンジンがかかりにくいときに使用します。

- 始動時は、チョークレバーを**[始動]**位置に切り換えます。
- 始動後は、チョークレバーを**[運転]**位置に切り換えます。



(1) チョークレバー

(A) ***[始動]***位置（始動時）
(B) ***[運転]***位置（始動後）

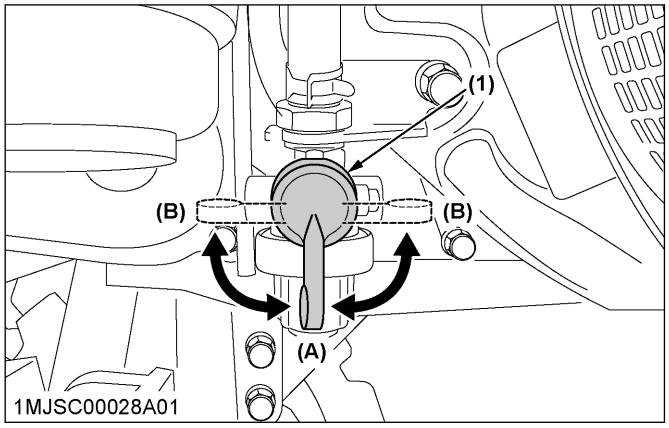
燃料コックレバー

重要：

- **燃料コックレバーを開いた状態で、前に倒したり車両で運搬すると、エンジン始動が困難になる場合があります。**

燃料タンクからエンジンへの燃料の供給と停止を切り換えます。
エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを**[OFF]**（閉）位置にしてください。

- **[ON]**（開）位置は、燃料コックを開き、エンジンへ燃料を供給します。
- **[OFF]**（閉）位置は、燃料コックを閉じ、エンジンへの燃料の供給を停止します。



(1) 燃料コックレバー

(A) ***[ON]***（開）位置
(B) ***[OFF]***（閉）位置

燃料タンクと燃料キャップ

⚠ 警告

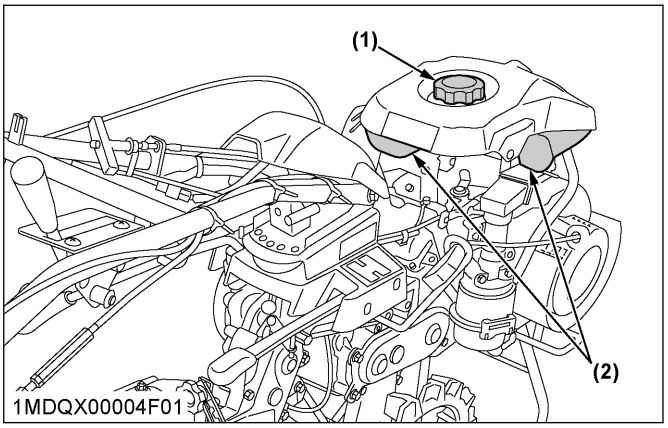
- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **前述の作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。**

燃料タンクの下限まで液面がきたら燃料を補給してください。
燃料キャップを外し、給油口から自動車用レギュラーガソリンを補給します。
センタースタンドを立てた状態で給油してください。

重要：

- **燃料タンク内にゴミや水およびその他異物が混入しないように、注意してください。**

規定量	2.3 L



(1) 燃料キャップ
(2) 燃料タンク

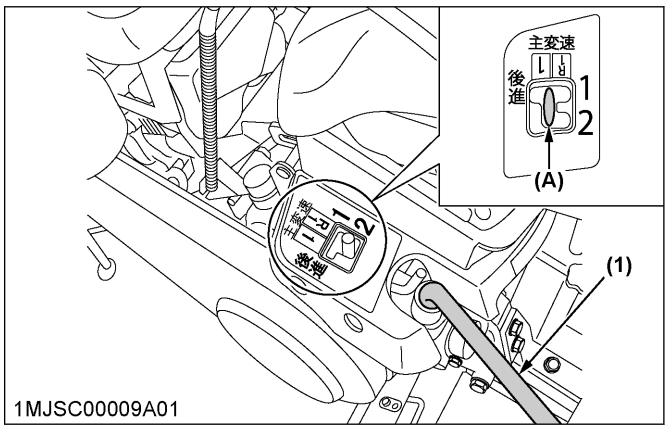
主変速レバー

⚠ 警告

- **エンジンを始動する前に、必ず主変速レバーを中立位置にしてください。**
- **変速操作は主クラッチを切ってから行ってください。**
- **走行中は変速しないでください。**

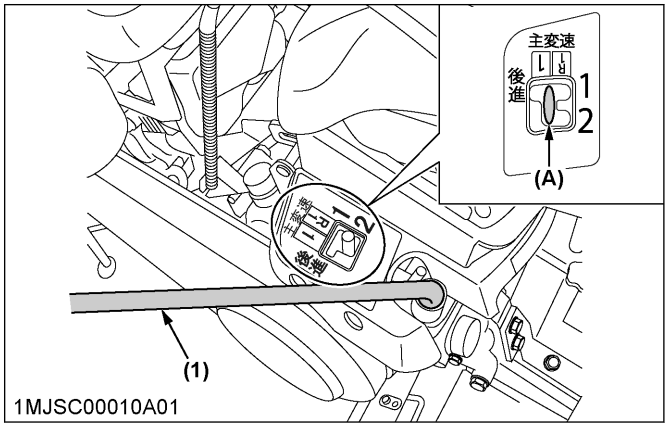
変速は案内板の表示位置に合わせてシフトします。
主変速レバーの変速は前進 2 段、後進 1 段です。ハンドルが正位置のときの変速は、副変速レバーとの組合せで前進 4 段、後進 2 段です。
（詳細は走行速度一覧表（61 ページ）を参照）
レバーの根元を持ち上げるとレバーを回動できます。

ハンドル正位置時



(1) 主変速レバー　　*(A)* 中立位置

ハンドル逆位置時



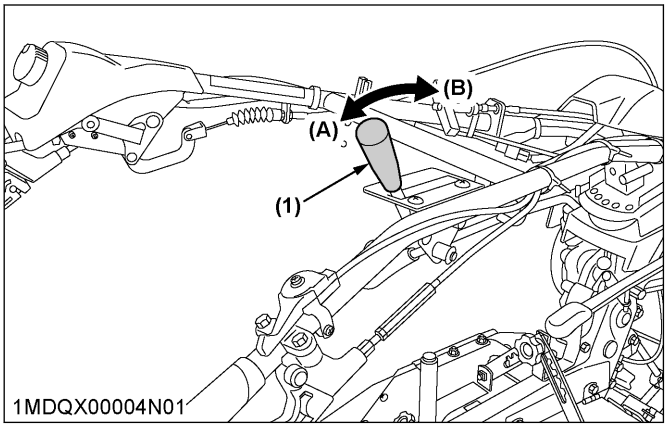
(1) 主変速レバー　　*(A)* 中立位置

副変速レバー

重要：

- **副変速操作時は主クラッチレバーを[切]位置にしてから行ってください。**
- **走行中に副変速レバーの切換え操作は絶対にしないでください。**
- **ロータリの耕うん爪が土に潜っていると、副変速の切替えができない場合があります。必ず耕うん爪をいったん浮かせてから副変速レバーを操作してください。**

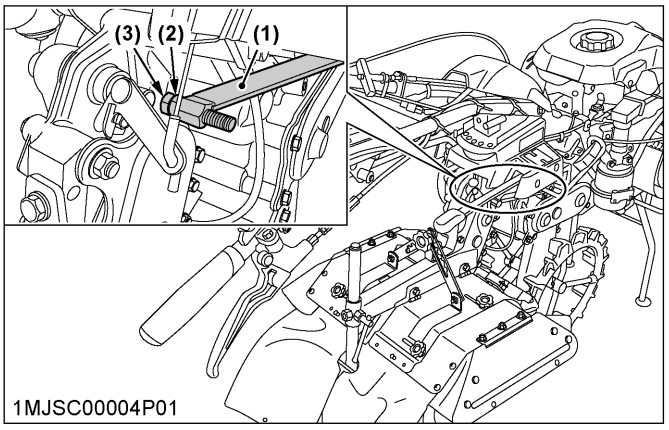
副変速レバーは、車速を低速と高速の 2 段に変速できます。
（詳細は走行速度一覧表（61 ページ）を参照）



(1) 副変速レバー　　*(A)* 低速
(B) 高速

ロータリ牽制装置

ロータリ牽制装置により、ハンドル正位置で後進する際はロータリが回転しません。
ハンドル逆位置では、ロータリ牽制装置のナットをゆるめて、ボルトをロータリ牽制装置側に締め込んでください。

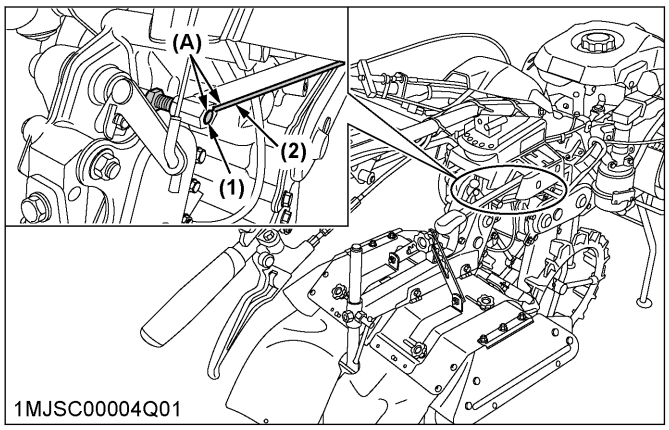


(1) ロータリ牽制装置
(2) ナット
(3) ボルト

ハンドルを正位置に戻すときは、ボルトのネジ部先端をロータリ牽制装置の端面とそろえ、ナットを確実に締め付けてください。

⚠ 警告

- **ハンドル正位置での作業時には必ずロータリ牽制装置のボルトを元の位置に戻してください。傷害事故のおそれがあります。**



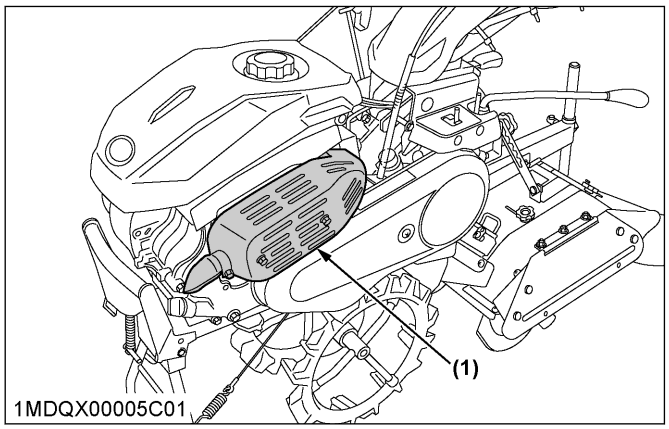
(1) ボルト先端
(2) ロータリ牽制装置の端面
(A) そろえる

マフラ

⚠ 警告

- **マフラがじゅうぶんに冷えるまで手を触れないでください。そうしないと、やけどをするおそれがあります。**
- **マフラ周辺は高温になります。マフラ周辺に可燃物が接触しないようにしてください。ワラなどの可燃物がある場所には、駐停車しないでください。**
- **清掃時、ワラや草などの可燃物はマフラーなどの高温部に飛ばさないでください。**

マフラには燃料の燃焼によって発生したガスの排気、爆発音の吸音や消音の役割があります。

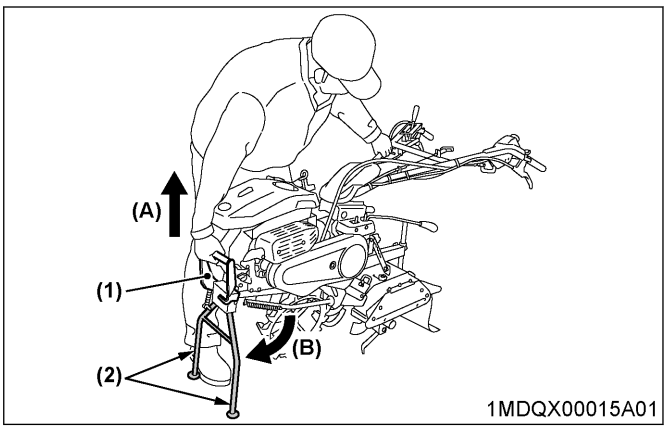


(1) マフラ

スタンド［一輪仕様］

スタンドの立て方

前部プロテクタを持ち上げながら足でスタンドを立てます。



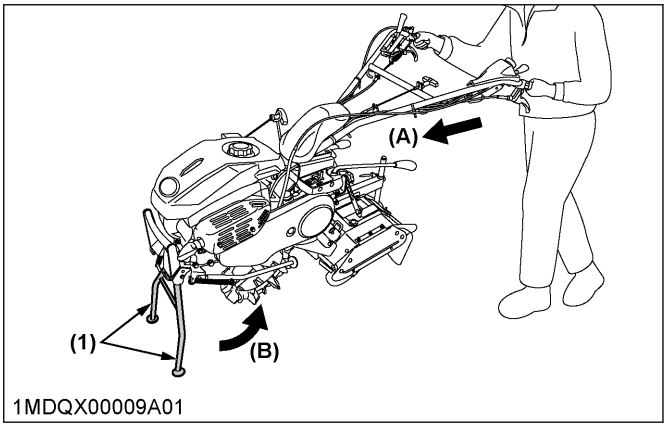
(1) 前部プロテクタ
(2) スタンド
(A) 持ち上げる
(B) 足で立てる

補足：

- **抵抗棒を最上まで上げて、爪が接地した状態で操作すると、楽にスタンドを立てることができます。**

スタンドの格納のしかた

ハンドルを前方に押し、スタンドを格納します。

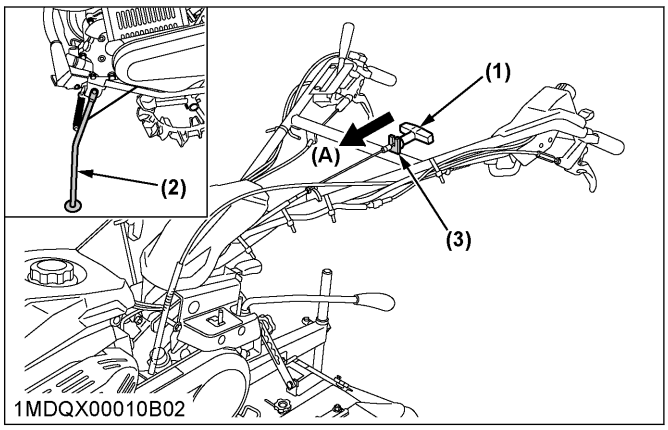


(1) スタンド
(A) 押す
(B) 格納

サイドスタンドとスタンドレバー［一輪仕様］

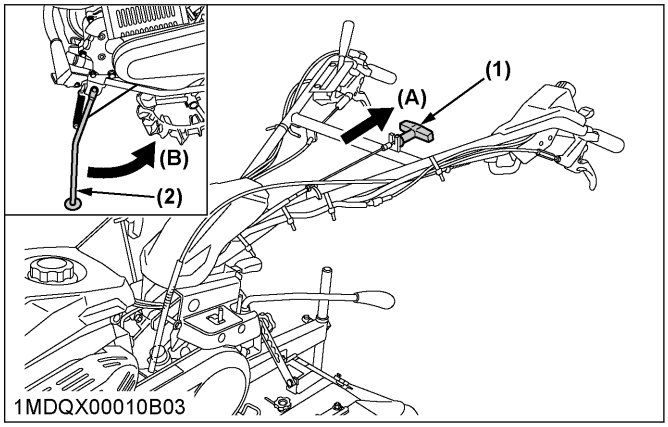
サイドスタンドの立て方

サイドスタンドレバーを前に出すと、サイドスタンドが立ちます。



(1) サイドスタンドレバー　*(A)* 出す
(2) サイドスタンド
(3) スタンドレバー固定位置

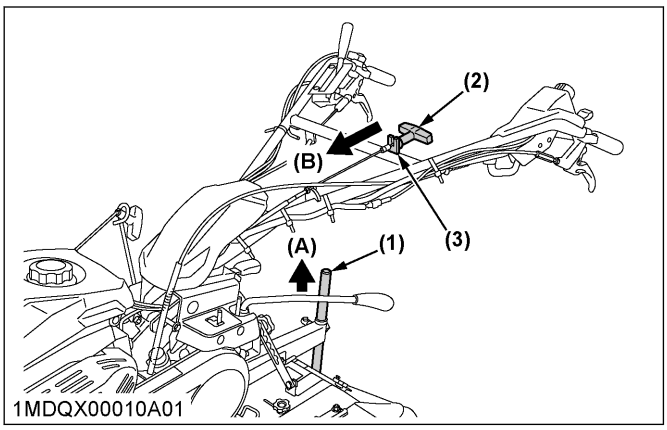
サイドスタンドの格納のしかた
スタンドレバーを手前に引くと格納します。



(1) サイドスタンドレバー　*(A)* 引く
(2) サイドスタンド　*(B)* 格納

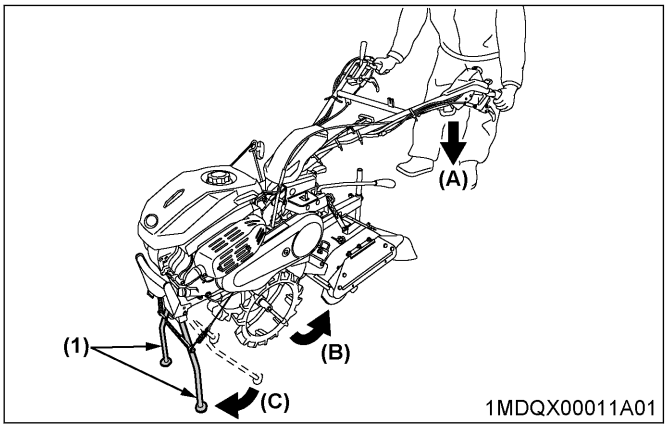
スタンドとスタンドレバー［二輪仕様、クローラ仕様］

スタンドの立て方
1. 抵抗棒を最上位置まで上げます。
2. スタンドレバーを前へ出します。



(1) 抵抗棒　*(A)* 上げる
(2) スタンドレバー　*(B)* 出す
(3) スタンドレバー固定位置

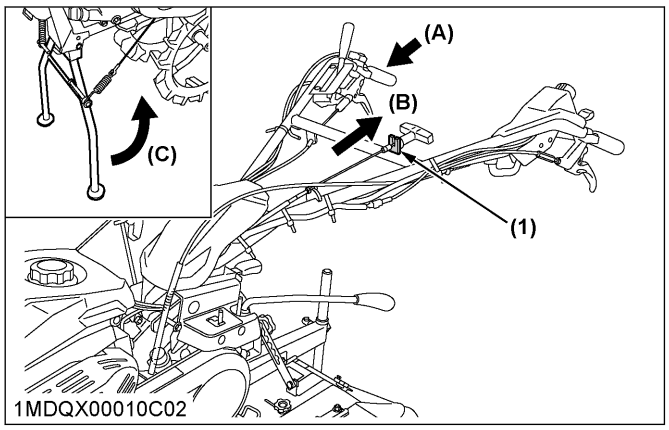
3. ハンドルを押し下げて爪軸を支点にして車輪を浮かすと、スタンドが前に出て立ちます。（ハンドル正位置のとき）



(1) スタンド　*(A)* 押し下げる
(B) 浮かす
(C) 前に出る

重要 :
- **スタンドレバーを手前に引いて固定した状態（スタンド格納時）で、足を使ってスタンドを立てると、スタンドレバーのワイヤーが破損しますので、絶対にしないでください。**

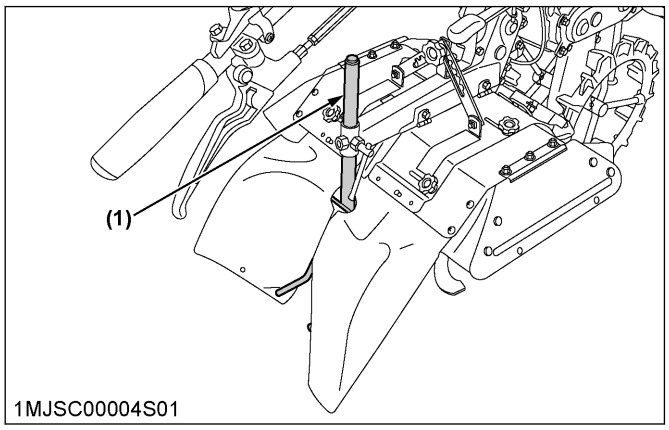
スタンドの格納のしかた
1. ハンドルを前方に押し、スタンドを倒します。
2. スタンドレバーを手前に引くと格納します。



(1) スタンドレバー固定位置　　*(A)* 押す
(B) 引く
(C) 格納

抵抗棒

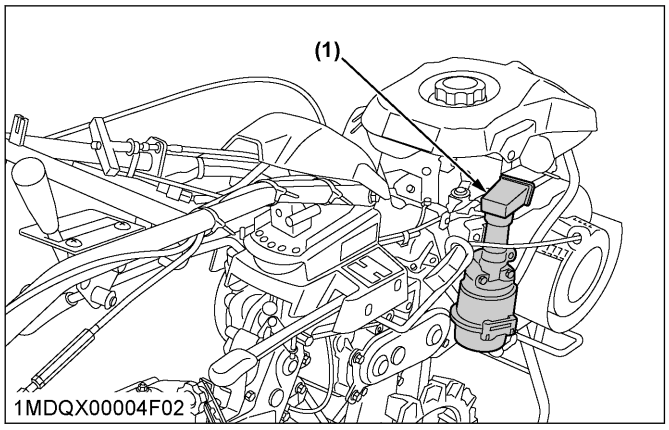
管理機の耕深調節をする装置です。
（詳細は耕深調節のしかた（34 ページ）を参照）



(1) 抵抗棒

エアクリーナ

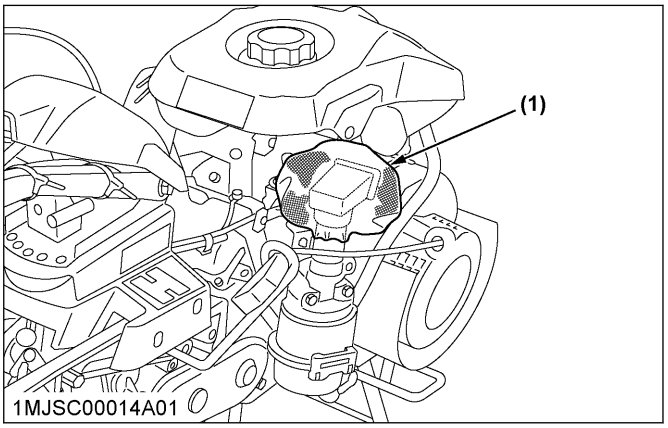
エンジンに清浄な空気を供給するための装置です。
エアクリーナの吸込口が回動します。作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えてください。



(1) エアクリーナ

重要：

- **チリやホコリが多い環境で作業する際には、エアクリーナネットを吸込口に装着してください。**

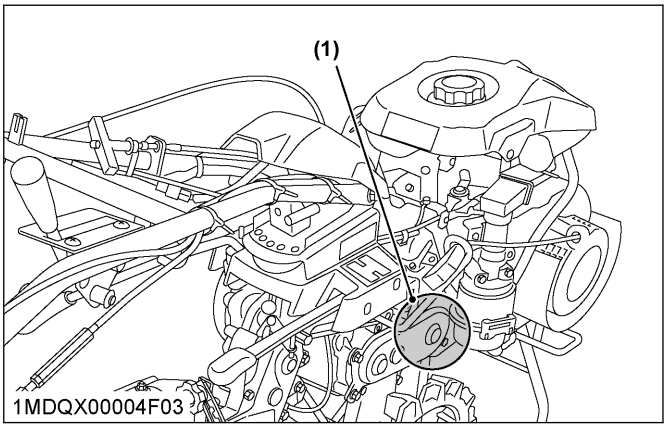


(1) エアクリーナネット

- **洗車する際は、エアクリーナに直接水をかけないでください。また、エアクリーナ内に水が入らないようにしてください。エアクリーナ内に水が入ると故障の原因になります。**

トルクリミッター

走行部が障害物により回転できない場合や、走行部に大きな力が加わった場合、機体保護のため内部でトルクリミッターが働き、走行部の回転が止まります。
トルクリミッターの働きによる停止は故障ではありません。



(1) トルクリミッター

トルクリミッターが働いて回転が止まった場合、次の要領に従って行えば正常に戻ります。

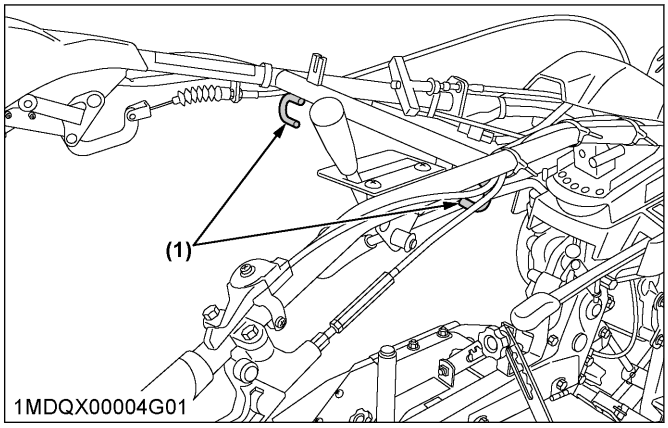
1. すぐに主クラッチレバーを**[切]**位置にします。
2. エンジンを止めます。
3. 車軸回りの障害物を取り除きます。
4. エンジンを再始動させたのち、スロットルレバーを**[低]**位置に戻します。
5. 主クラッチレバーをゆっくり**[入]**位置にします。
6. 車軸が回転すれば正常です。

重要：

- **機体の内部でトルクリミッターが働いた場合、すぐに本機を止めて前述の手順 1 から 6 に従って対処してください。**

ロープ掛け用フック

機体をロープで固定するときに使用します。



(1) ロープ掛け用フック

作業前の点検

⚠ 警告
- **平たんな場所に機械を安定させて点検してください。**
- **点検前にエンジンを停止してください。**

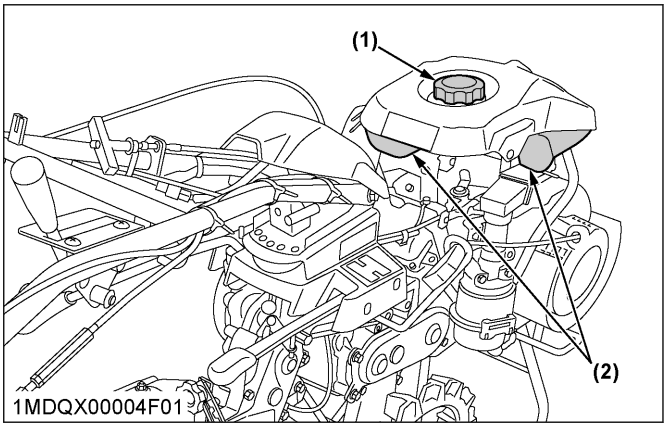
調子よく作業するために

⚠ 警告
- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **給油漏れを防ぐため、サイドスタンドを立てての給油はしないでください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **前述の作業をおこたると、爆発、火災のおそれがあります。**

（詳細は管理機の点検・整備のしかた（39 ページ）を参照）

燃料
- 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
- 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

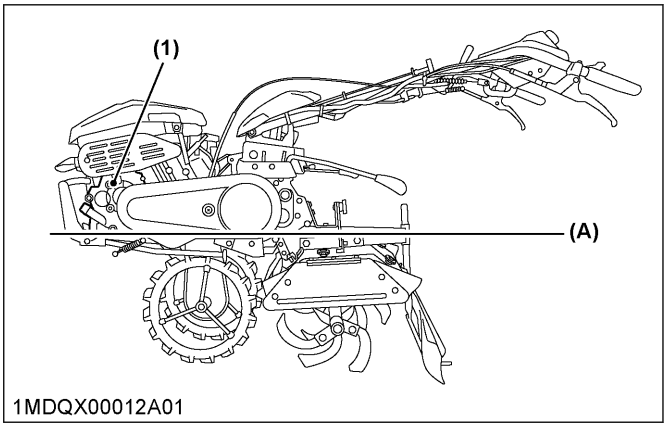
  重要：
  – 水やゴミを混入しないようにしてください。
- タンク容量 ： 約 2.3 L（赤色ゲージ以下にします。）
- センタースタンドを立てた状態で給油してください。



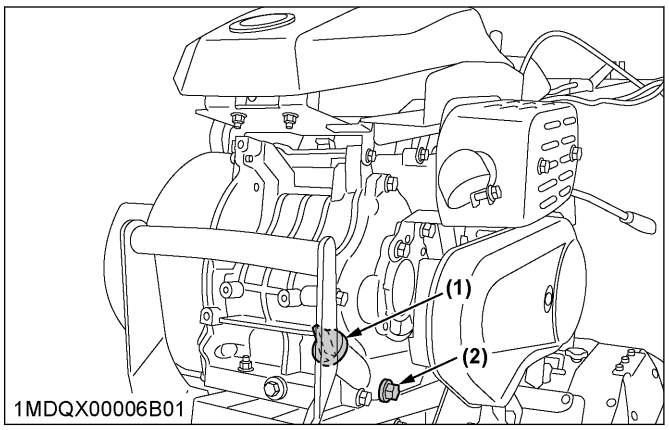
(1) 燃料キャップ
(2) 燃料タンク

エンジンオイル
- エンジンを水平にして、オイルゲージで規定量あるか点検します。
  1. オイルゲージを抜いて、ウエスなどの布で拭きます。
  2. オイルゲージをもう一度給油口に差し込み、抜いてからオイルが規定量あるか点検します。

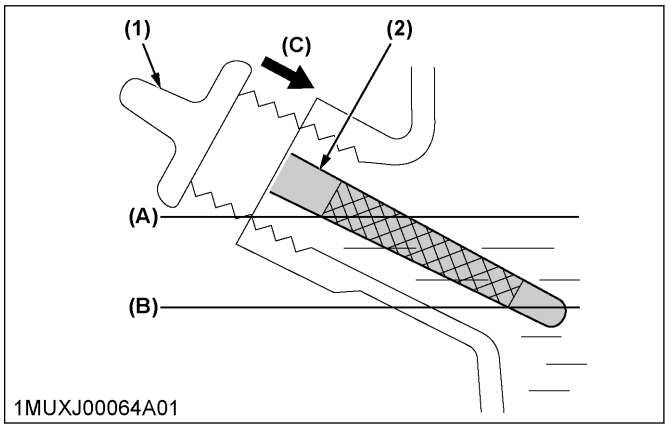
エンジン水平状態



(1) エンジン　　*(A)* 水平



(1) 給油プラグ
(2) 排油プラグ

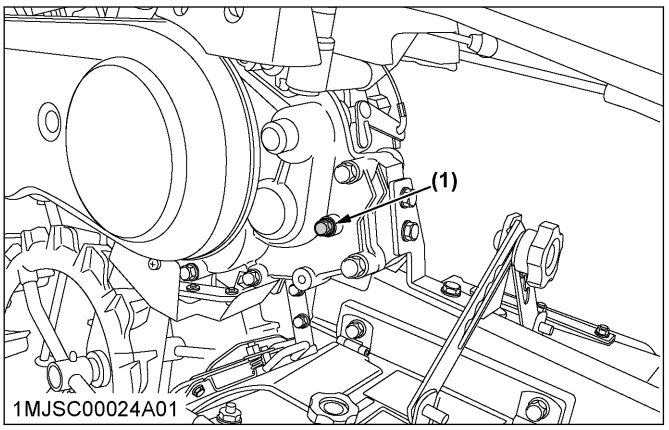


(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ
(A) オイルが溢れない位置（上限）
(B) ゲージの先端（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

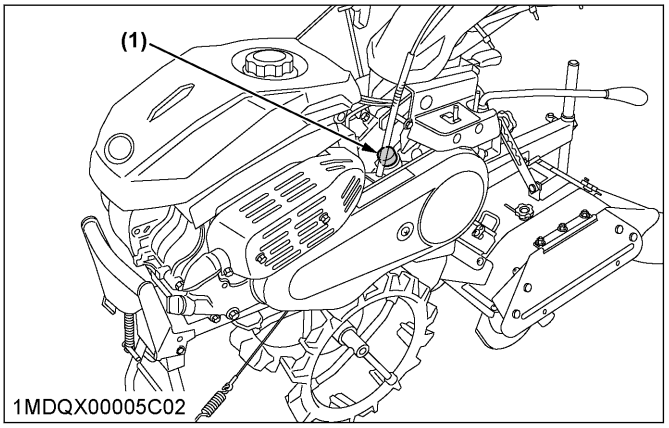
- 不足している場合は、純正オイルを補充します。
  （ガソリンエンジン用）スーパーG 10W-30
  （詳細はエンジンオイルの交換（42 ページ）を参照）

ミッションオイル

- エンジンを水平にして、検油ボルトを外し、検油口までオイルがあるか点検します。
- 不足している場合は、検油口の下端まで純正オイルを補充します。
  （ミッション用）NEW UDT またはスーパー UDT-2



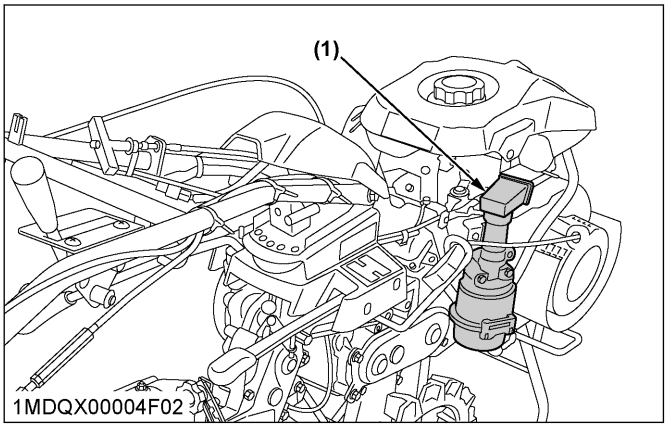
(1) ミッションオイル検油プラグ



(1) 給油プラグ

エアクリーナ

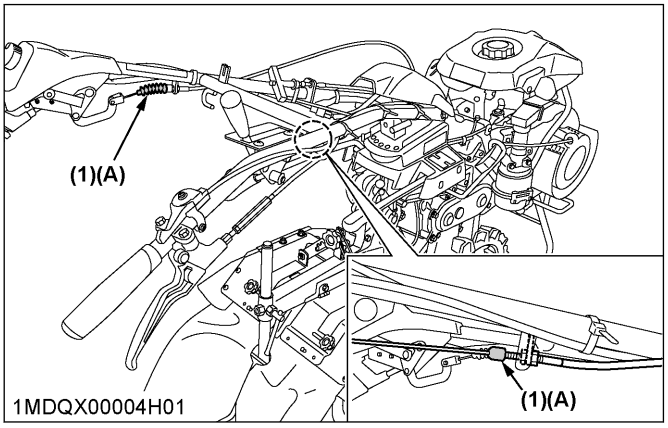
- 新車（納車）時は、オイルを入れます。
  （詳細はエアクリーナの清掃とオイル交換（44 ページ）を参照）
- オイルカップの規定線**[OIL LEVEL]**まであるか点検します。
- 不足している場合は、エンジンオイルを補充します。
- オイルカップのオイルが汚れていないか点検します。
- エアクリーナエレメントにゴミが付着していないか点検します。
- エアクリーナネット使用時は、エアクリーナネットにゴミが付着していないか点検します。



(1) エアクリーナ

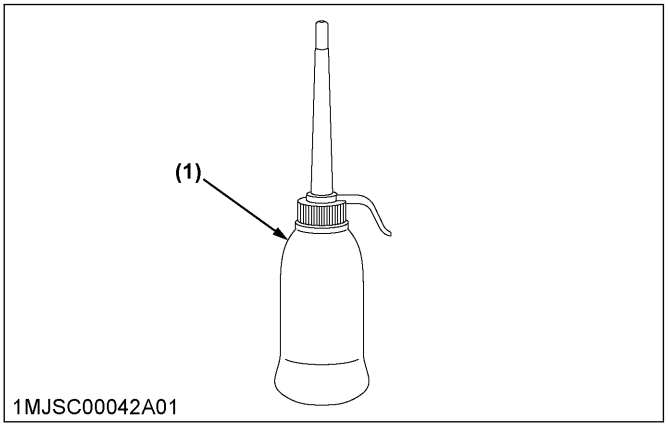
各ケーブル

- ケーブルのキャップを外し、オイル差しを使用してエンジンオイルを 2 滴～3 滴注油してください。



(1) キャップ　*(A)* 注油

推奨オイル差し



(1) オイル差し

その他

- エンジン、ミッションなどから油漏れがないか点検します。
- 各しゅう動部へエンジンオイルを注油します。
- 各部の損傷およびボルト、ナットのゆるみがないか点検します。

安全に作業するために

主クラッチレバー

- クラッチの**[入]**と**[切]**が確実に行えるか点検してください。
- 不良の場合は調節してください。
  （詳細は主クラッチケーブルの調節（47 ページ）を参照）

ロータリクラッチレバー

- ロータリクラッチレバーの**[入]**と**[切]**が確実に行えるか点検します。
- 不良の場合は調節します。
  （詳細はロータリクラッチケーブルの調節（49 ページ）を参照）

主変速レバーと副変速レバーとロータリ変速レバー

- 変速が案内板の表示位置で確実に行えるか点検します。

ロータリ牽制装置

- ロータリ牽制装置のボルトの位置を確認します。

電気配線

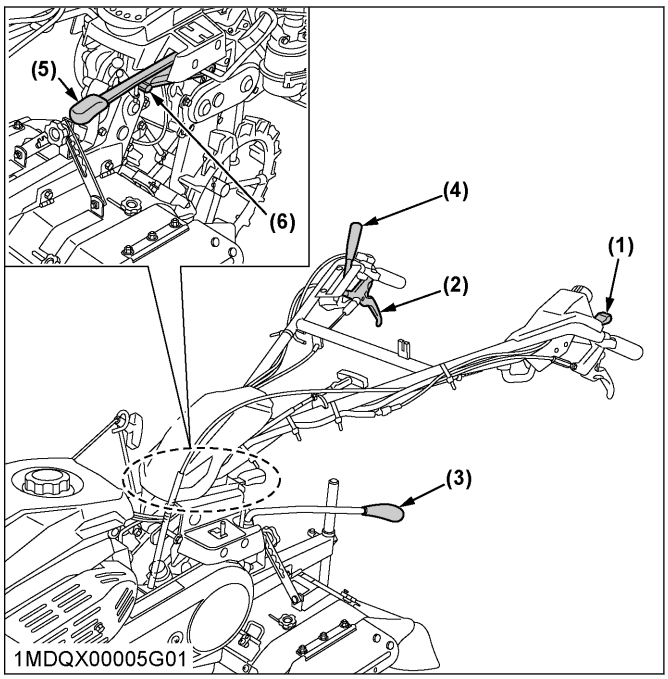
- 被覆が溶けたり被れていないか、また配線がはさまれていないか点検してください。

エンジン周辺部

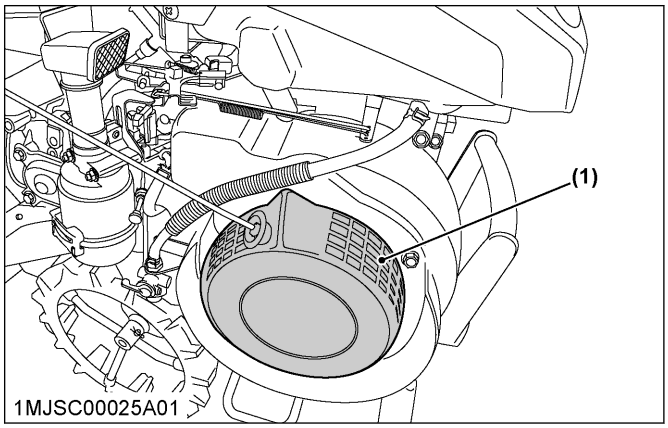
- ファンカバーやマフラカバー内にゴミやワラクズの付着が無いか点検してください。

燃料

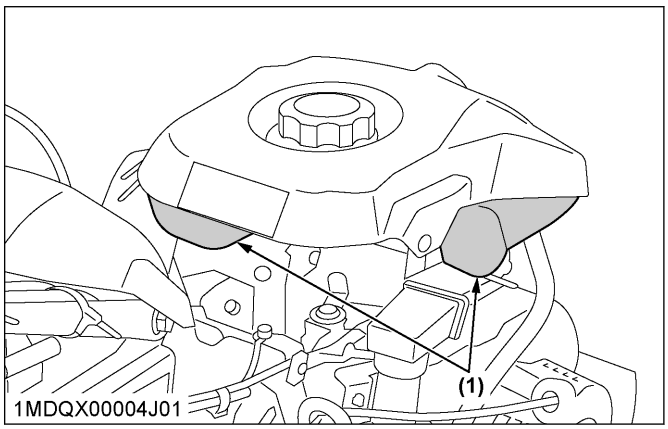
- タンクや燃料チューブからガソリン漏れが無いか点検してください。
  漏れがある場合は、修理点検してください。
- 自動車用レギュラーガソリンを補給してください。
- タンク容量の規定量（赤ゲージ位置）以上入れないでください。
- 給油後、ガソリンが漏れないよう確実に燃料キャップを締めてください。



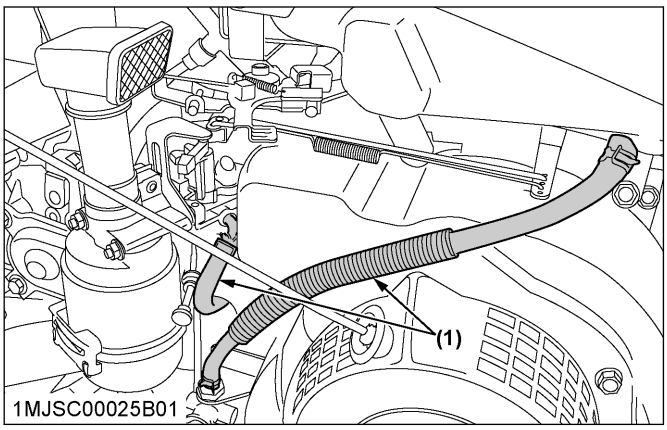
(1) 主クラッチレバー
(2) ロータリクラッチレバー
(3) 主変速レバー
(4) 副変速レバー
(5) ロータリ変速レバー
(6) ロータリ牽制装置



(1) ファンカバーの吸気口



(1) 燃料タンク



(1) 燃料チューブ

運転のしかた

管理機の準備

工場出荷時はエンジンオイルやミッションオイル、エアクリーナのオイルが入っていません。
日常点検方法に従い確認し、必要に応じて給油してください。
（詳細は日常点検（42 ページ）を参照）

新車時の扱いかた

1. ならし運転（最初の 10 時間まで）

この期間中は機械の各部になじみをつけるため、エンジンを高速回転させたり、過酷な使用はさけ無理をさせないようにしてください。

運転前の点検

1. 運転前の日常点検

故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
日常点検は一日一回、運転前に欠かさず行ってください。
（詳細は日常点検（42 ページ）を参照）

エンジンの始動と停止のしかた

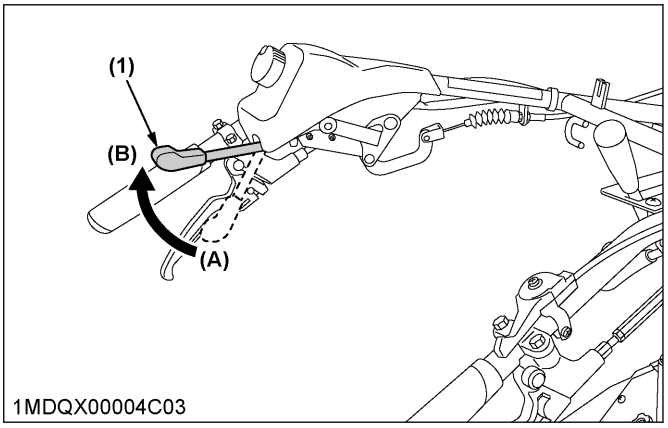
1. 始動のしかた

⚠ 警告

- **マフラの排気出口方向に、燃えやすい物を置かないでください。火災が発生する原因となります。**
- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**
- **エンジンの運転中は、危険なのでマフラなどの操作レバー以外の物には、触れないでください。やけどや傷害のおそれがあります。**
- **夜間作業はしないでください。**
- **エンジンを始動するときは、主クラッチレバーを必ず[切]位置にしてください。**
- **主変速レバーとロータリ変速レバーを中立位置にしてください。**

1.1 リコイル始動のしかた

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。



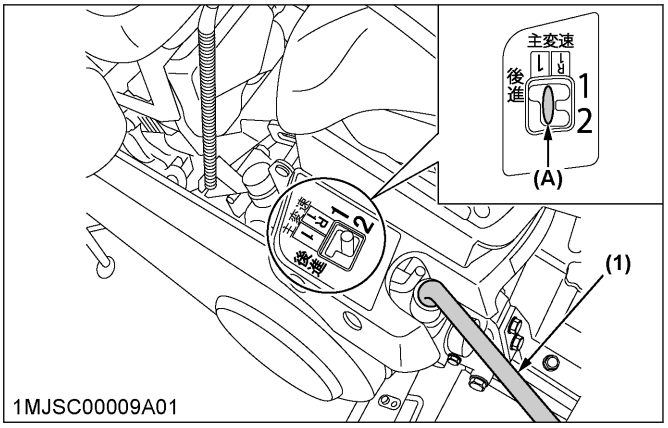
(1) 主クラッチレバー
(A) ***[入]***位置
(B) ***[切]***位置

補足：

- **主クラッチレバーが[入]位置では始動牽制装置が作動してエンジンは始動しません。**

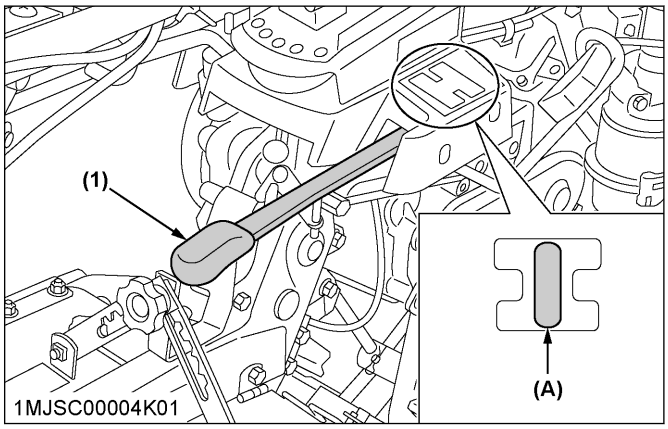
2. 主変速レバーを中立位置にします。

イラストはハンドル正位置時のイラストです。



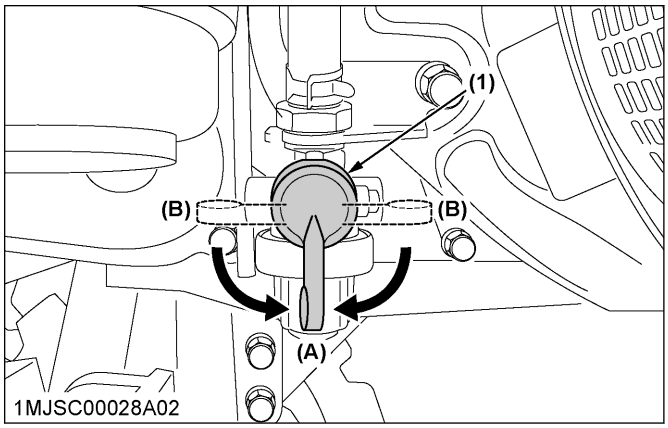
(1) 主変速レバー
(A) 中立位置

3. ロータリ変速レバーを中立位置にします。



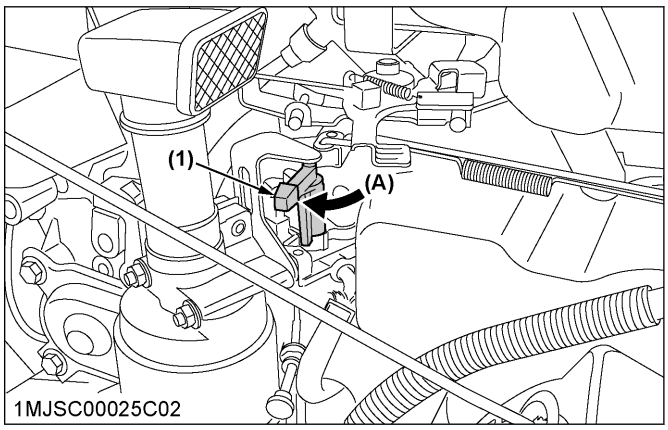
(1) ロータリ変速レバー　　*(A)* 中立位置

4. 燃料コックレバーを**[ON]**（開）位置にします。



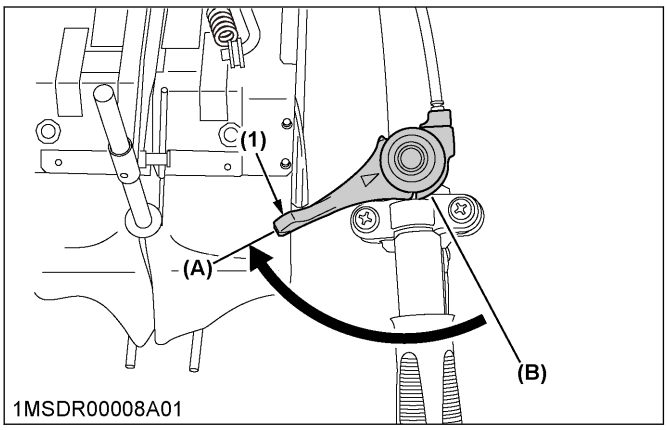
(1) 燃料コックレバー　　*(A)* ***[ON]***（開）位置
(B) ***[OFF]***（閉）位置

5. チョークレバーを**[始動]**位置にします。



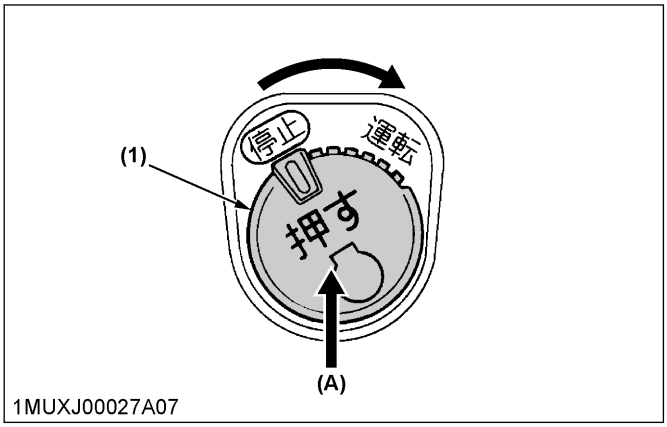
(1) チョークレバー　　*(A)* ***[始動]***位置

6. スロットルレバーを**[高]**位置にします。



(1) スロットルレバー　　*(A)* ***[高]***位置
(B) ***[低]***位置

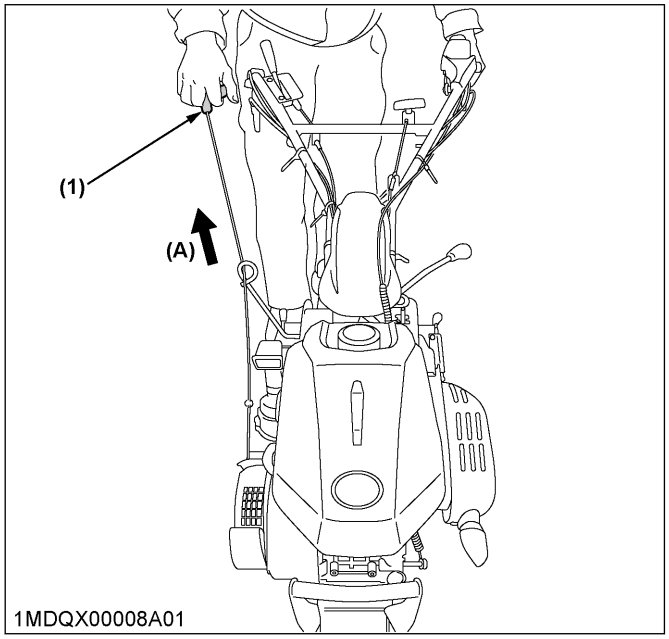
7. メインスイッチを押しながら**[運転]**位置まで回します。



(1) メインスイッチ　　*(A)* 押しながら回す

8. リコイルスタータハンドルを握って、引っ張ります。エンジンが始動したら、リコイルスタータハンドルを静かに元に戻します。

⚠ 警告
- **リコイルスタータを引っ張る方向に人が居ないか、突起物や障害物が無いか確かめてから始動してください。傷害事故のおそれがあります。**



(1) リコイルスタータハンドル　*(A)* 引っ張る

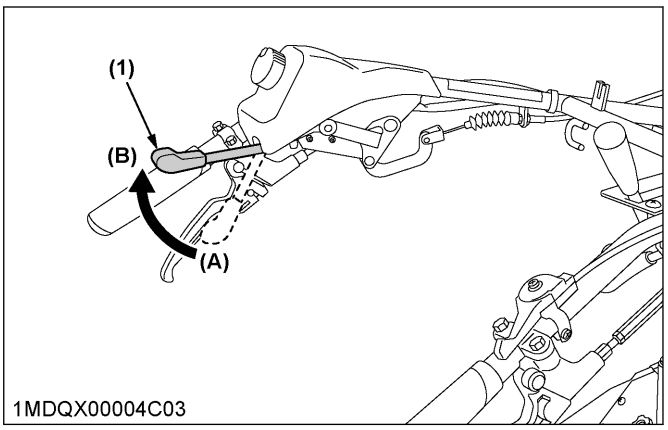
9. エンジンの運転状態を確認しながら、チョークレバーを**[運転]**位置に戻します。
10. 2 分～3 分暖気運転をしてから、作業を始めてください。

重要 :
- **運転中はリコイルスタータを引かないでください。**

2. 停止のしかた

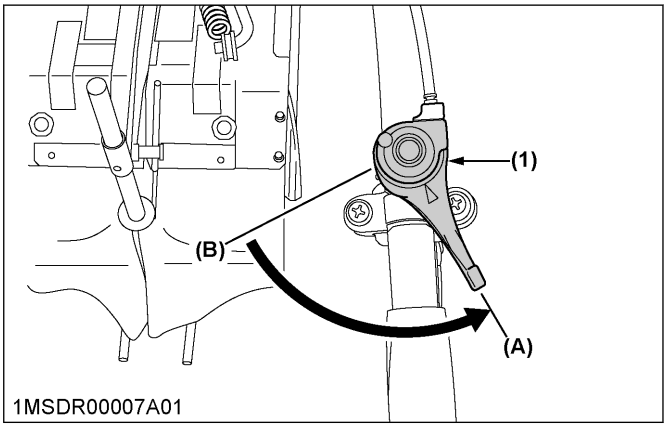
⚠ 警告
- **停止直後はしばらくマフラが熱くなっています。手を触れないでください。やけどのおそれがあります。**

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。



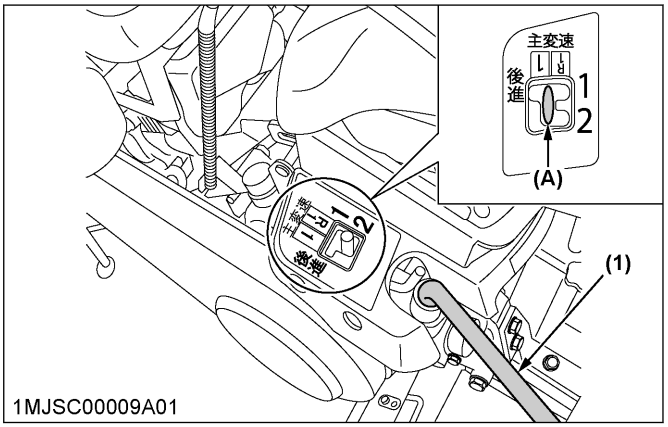
(1) 主クラッチレバー　*(A)* ***[入]***位置　*(B)* ***[切]***位置

2. スロットルレバーを**[低]**位置にします。



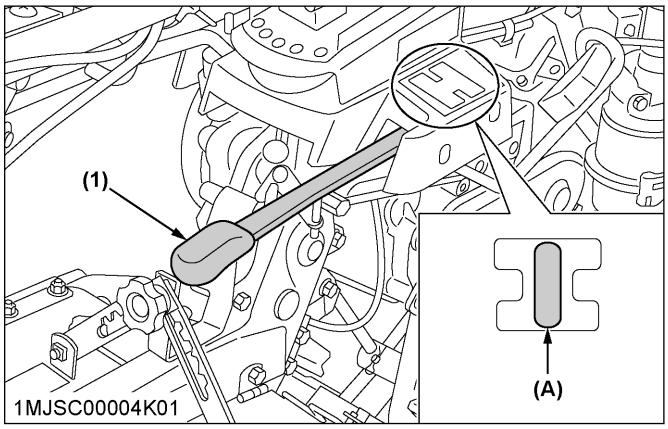
(1) スロットルレバー　*(A)* ***[低]***位置　*(B)* ***[高]***位置

3. 主変速レバーを中立位置にします。



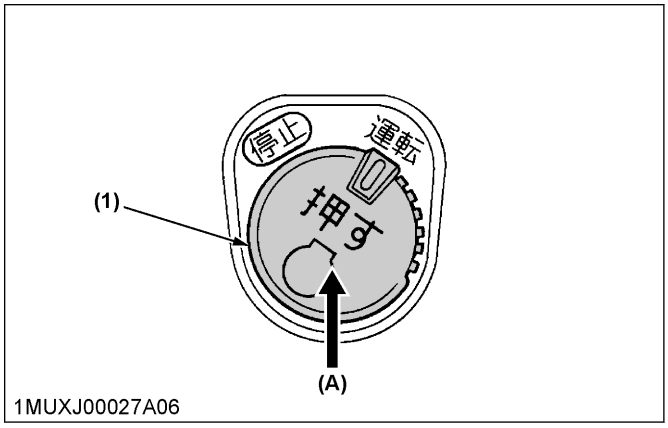
(1) 主変速レバー　*(A)* 中立位置

4. ロータリ変速レバーを中立位置にします。



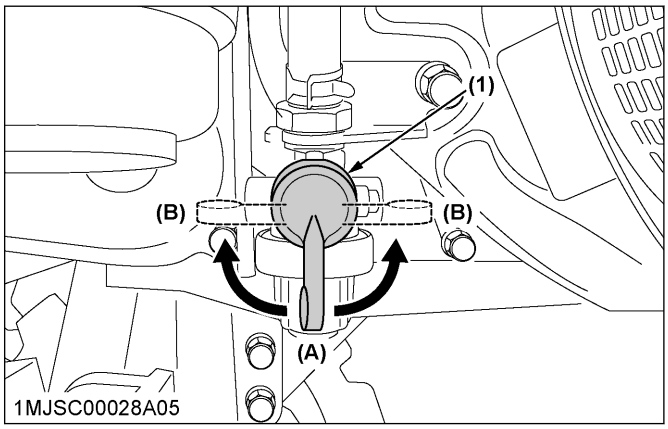
(1) ロータリ変速レバー　　*(A)* 中立位置

5. メインスイッチを押すと左に回って**[停止]**位置に戻り、エンジンが停止します。



(1) メインスイッチ　　*(A)* 押す

6. 燃料コックレバーを**[OFF]**（閉）位置にします。



(1) 燃料コックレバー　　*(A)* ***[ON]***（開）位置
(B) ***[OFF]***（閉）位置

重要：

- **燃料コックレバーを開いたままの状態で前に倒したり、保管したり、車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。**

発進のしかた

⚠ 警告

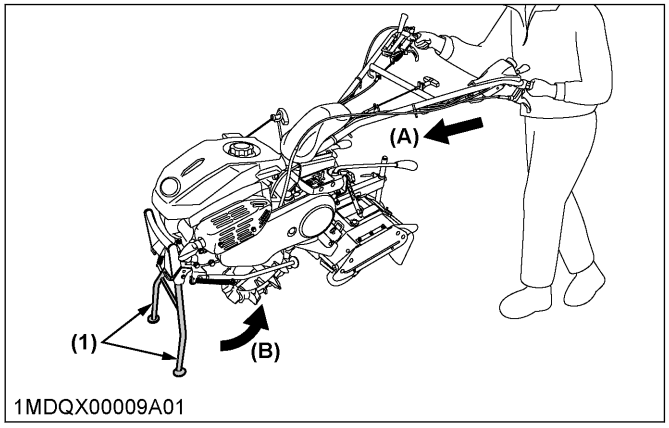
- **傾斜地や狭い場所で作業する場合や後進で運転するときは、エンジンの回転を低速にし、後方や上方など周囲の安全を確かめ、主クラッチレバーをゆっくり操作してください。**
- **運転中は周囲に人を近づけないでください。傷害事故のおそれがあります。**
- **危険を感じたら、早めに主クラッチを切ってください。または、メインスイッチを押してエンジンを停止させてください。**
- **主クラッチレバーの操作は、ゆっくり行ってください。急激な操作を行うと機体が飛び出し危険です。**
- **ハンドル逆位置にしたとき、後進牽制が確実に作動しているか確認するために、主変速レバーが 2 速に入らないことを確認してください。**
- **後進牽制している変速位置には無理にレバー操作をしないでください。**

1. スタンドを格納します。

[一輪仕様]

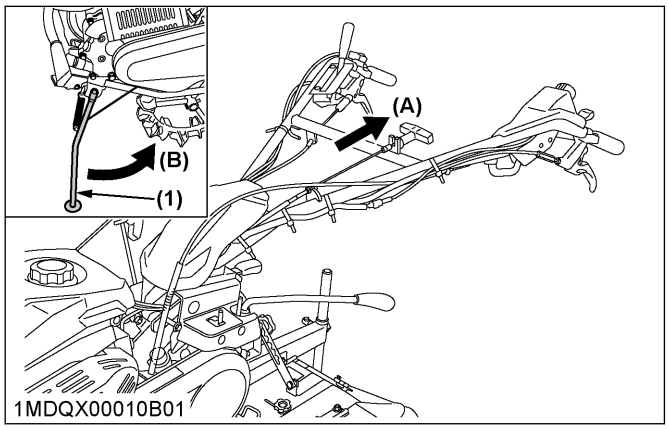
次の方法でスタンドを格納してください。

- ハンドルを前方に押し、センタースタンドを格納します。



(1) センタースタンド　*(A)* 押す　*(B)* 格納

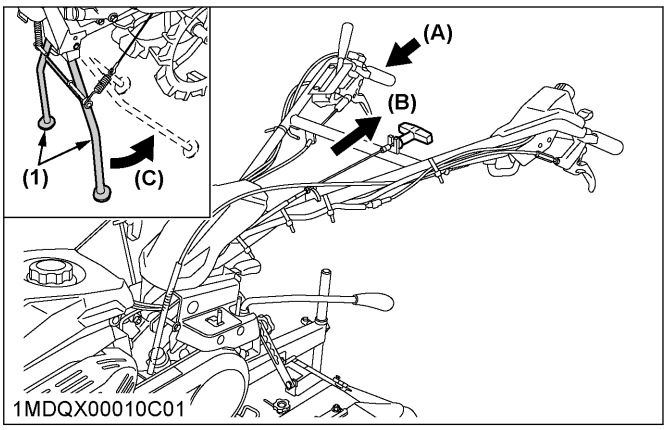
- サイドスタンドレバーを手前に引き、サイドスタンドを格納します。



(1) サイドスタンド　*(A)* 引く　*(B)* 格納

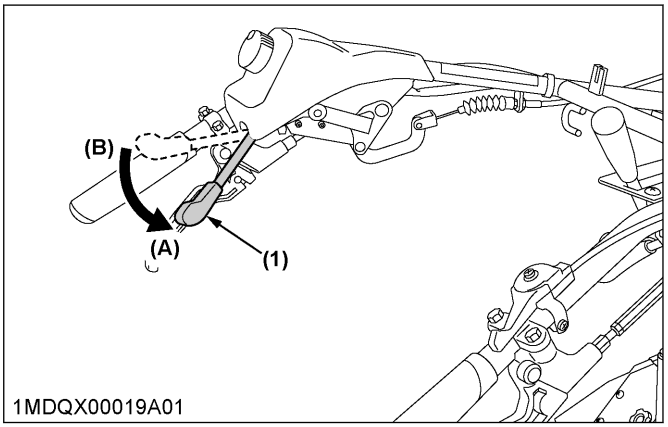
[二輪仕様、クローラ仕様]

a. ハンドルを前方に押し、センタースタンドを倒します。
b. スタンドレバーを手前に引き、センタースタンドを格納します。



(1) センタースタンド　*(A)* 押す　*(B)* 引く　*(C)* 格納

2. 主クラッチレバーが**[切]**位置にあることを確認した後、主変速レバーを必要な変速位置にします。
3. 主クラッチレバーを**[入]**位置にして発進します。



(1) 主クラッチレバー　*(A)* ***[入]***位置　*(B)* ***[切]***位置

4. スロットルレバーを操作して速度を調整します。

作業のしかた

上手な作業のしかた

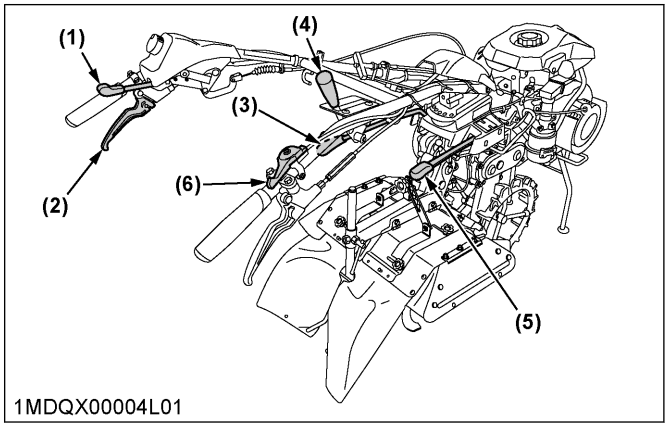
次の操作手順を守り安全作業を心掛けてください。

1. 作業前の準備

作業目的に合わせて管理機各部の設定を行ってください。
（詳細は各部の名称と装置の取扱い（12 ページ）、各部の調節（32 ページ）を参照）

2. 耕うん作業手順

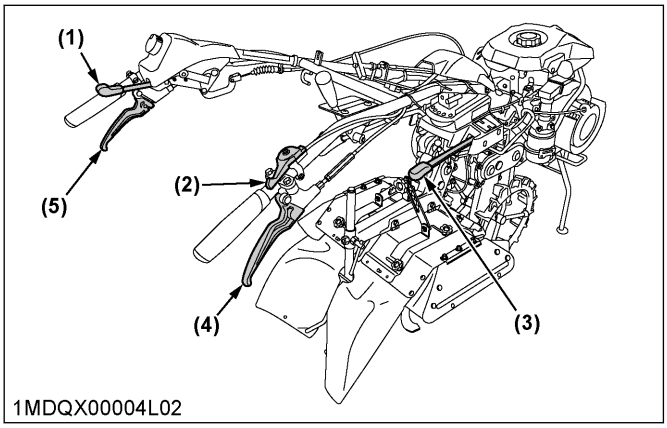
1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。
2. ハンドル高さ調節レバーを握り、作業しやすい位置にハンドル高さを調節します。
3. 主変速レバー、副変速レバー、およびロータリ変速レバーを作業に応じた位置に入れます。
4. 主クラッチレバーをゆっくり下げ**[入]**位置にし、発進します。
5. スロットルレバーを操作し、速度やロータリ回転数を調整します。
6. 変速するときは必ず主クラッチレバーを**[切]**位置にしてから行ってください。



(1) 主クラッチレバー
(2) ハンドル高さ調節レバー
(3) 主変速レバー
(4) 副変速レバー
(5) ロータリ変速レバー
(6) スロットルレバー

3. ハンドル正位置での旋回手順

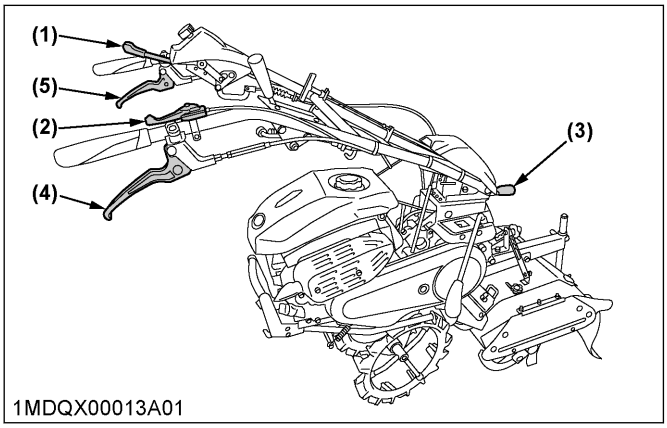
1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。
2. スロットルレバーを**[低]**位置にします。
3. ロータリ変速を中立位置にします。または、ロータリクラッチレバーを握ります。
4. ハンドル高さ調節レバーを握り、ハンドル位置を下げます。
5. ハンドルを持ち上げ、主クラッチレバーをゆっくり下げ**[入]**位置にし、旋回します。
6. 旋回後耕うん作業を行います。
（詳細は耕うん作業手順（31 ページ）を参照）



(1) 主クラッチレバー
(2) スロットルレバー
(3) ロータリ変速レバー
(4) ロータリクラッチレバー
(5) ハンドル高さ調節レバー

4. ハンドル逆位置での旋回手順

1. 主クラッチレバーを**[切]**位置にします。
2. スロットルレバーを**[低]**位置にします。
3. ロータリ変速を中立位置にします。または、ロータリクラッチレバーを握ります。
4. ハンドル高さ調節レバーを握り、ハンドル位置を上げます。
5. ハンドルを押し下げ、主クラッチレバーをゆっくり下げ**[入]**位置にし、旋回してください。
6. 旋回後耕うん作業を行います。
（詳細は耕うん作業手順（31 ページ）を参照）

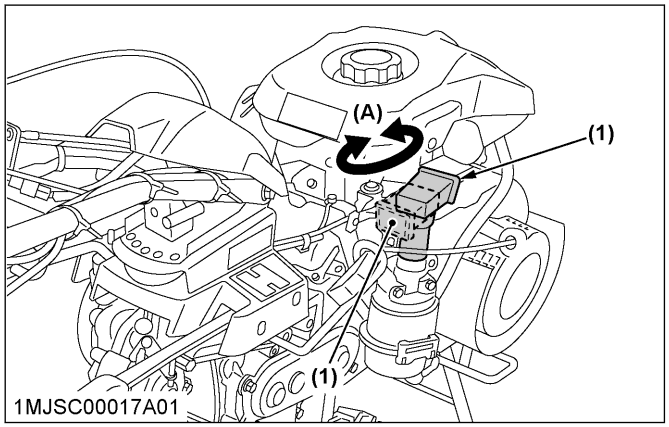


(1) 主クラッチレバー
(2) スロットルレバー
(3) ロータリ変速レバー
(4) ロータリクラッチレバー
(5) ハンドル高さ調節レバー

各部の調節

1. エアクリーナの調節

エアクリーナの吸込口が回動します。
作業に応じ、チリやホコリの少ない方に吸込口の向きを変えてください。

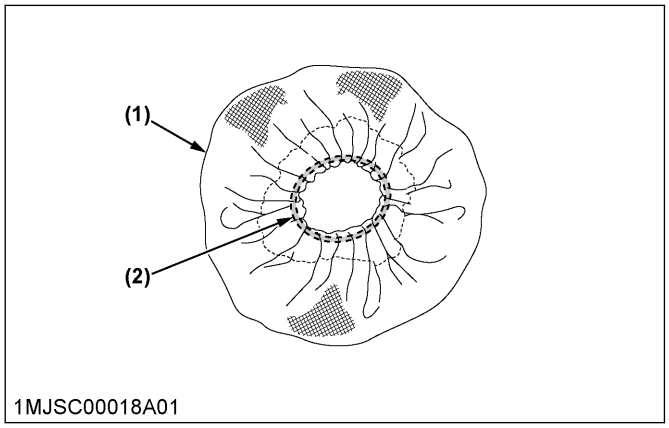


(1) エアクリーナ吸込口　　*(A)* 回動

2. エアクリーナネットの装着

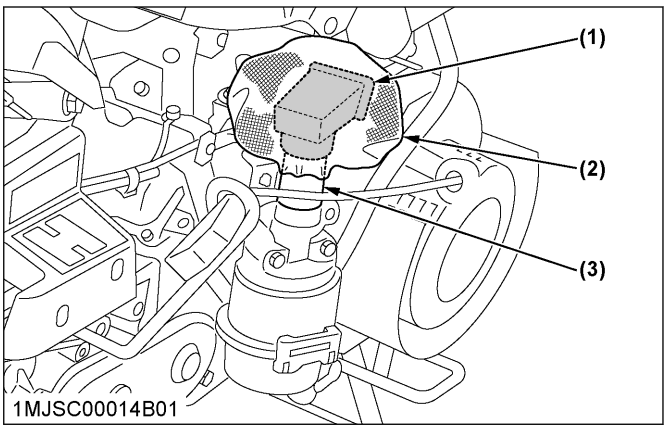
チリやホコリが多い際に吸込口に装着します。

1. エアクリーナネットのゴムバンドを手で持って広げます。



(1) エアクリーナネット
(2) ゴムバンド

2. エアクリーナネットを吸込口に装着します。ゴムバンドがエアクリーナネットのパイプに掛かっていることを確認してください。



(1) 吸込口
(2) エアクリーナネット
(3) パイプ

エアクリーナネットの取り外しは、前述の取り付け手順を逆にして行ってください。

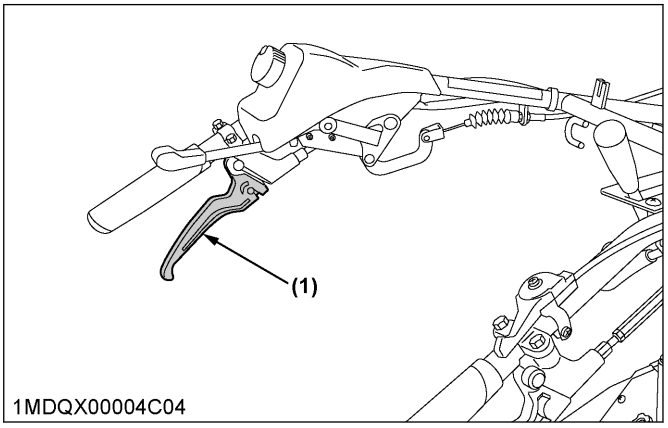
3. ハンドル高さの調節

⚠ 警告

- **ロータリを持ち上げているときは危険なため、ハンドル高さ調節レバーの操作はしないでください。**
- **走行時または作業時は危険なため、ハンドル高さ調節レバーの操作はしないでください。**
- **操作するときは必ず主クラッチを切り、周囲を確認するとともにゆっくり操作し、操作後はハンドルが確実に固定されているか確認してください。**

ハンドルの高さは任意の高さに 5 段階の調節ができます。

1. ハンドル高さ調節レバーを握るとハンドルが上下に自由に動きます。
2. ハンドル高さ調節レバーを離すと固定されます。このときハンドルが固定されていることを確認してください。



(1) ハンドル高さ調節レバー

4. ハンドルの回動

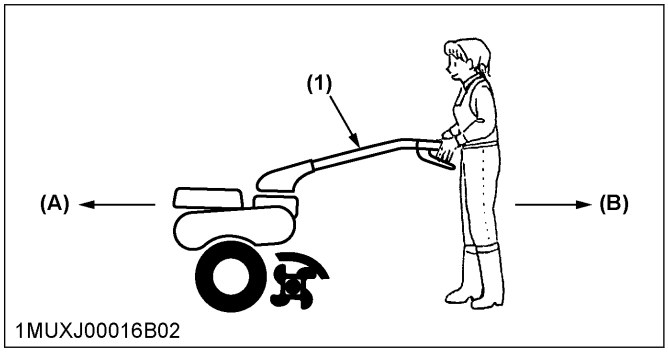
⚠ 警告

- **エンジンを必ず停止し、平たんな場所にスタンドを立て、安定させて行ってください。**
- **ハンドル回動後は、各レバーが正常に動くか確認してください。**
- **ハンドル逆位置にしたとき、後進牽制が作動しているか確認してください。**
- **ハンドル逆位置で前進作業をするときは、ロータリ牽制装置のボルトをロータリ牽制装置側に締め込んでください。**
- **ハンドルを正位置に戻したときは、ロータリ牽制装置のボルトの位置を元に戻して、ロータリ牽制が作動していることを確認してください。**

重要：

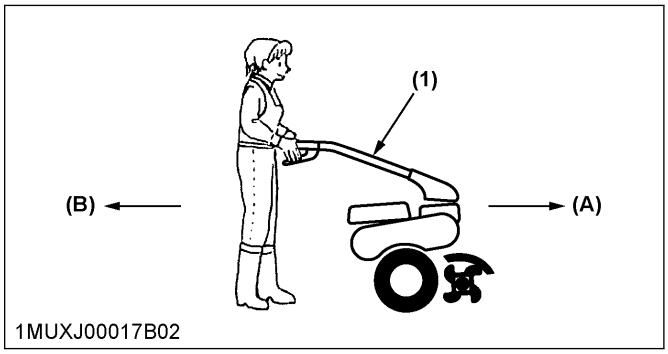
- **主変速レバーを中立位置にしてからハンドル回動を行ってください。**
- **回動するとき、ケーブル類が引っかからないように、ゆっくり行ってください。**
- **ハンドルを正位置から逆位置に回動するときは時計方向に、逆位置から正位置に戻すときは反時計方向に回動してください。逆に回動すると機械が破損することがあります。**

ハンドル正位置



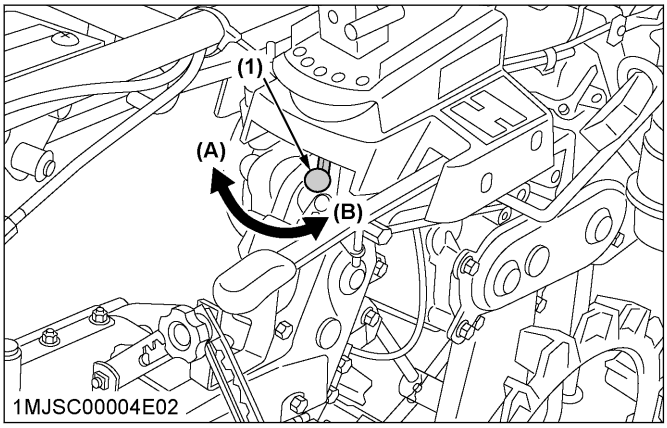
(1) ハンドル
(A) 前進
(B) 後進

ハンドル逆位置

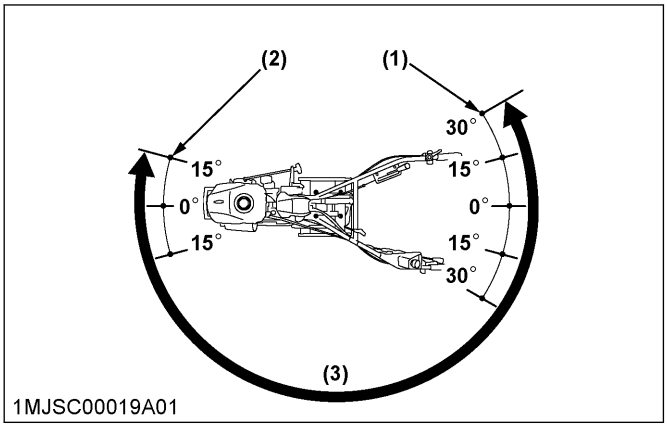


(1) ハンドル
(A) 前進
(B) 後進

1. ハンドル回動レバーを解除位置に操作すると、ハンドルが正位置で 5 箇所、逆位置で 3 箇所の調節ができます。



(1) ハンドル回動レバー
(A) 解除
(B) ロック



(1) ハンドル正固定位置
(2) ハンドル逆固定位置
(3) 回動範囲

補足：

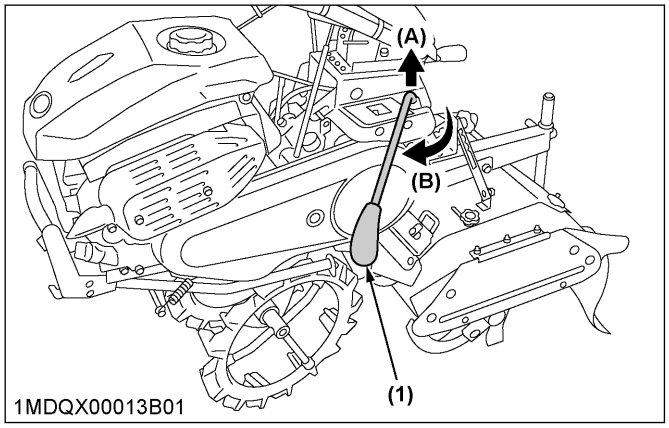
- **ハンドル逆位置では後進牽制が作動します。**

2. ハンドルの位置を変更した後は、ハンドル回動レバーをロック位置に戻します。

⚠ 警告

- **ハンドル回動レバーをロック位置に戻した後、ハンドルを左右に振ってハンドルが動かないことを確認してください。**

3. 主変速レバーの根元を持ち上げて、変更したい位置へ回転させてセットしてください。

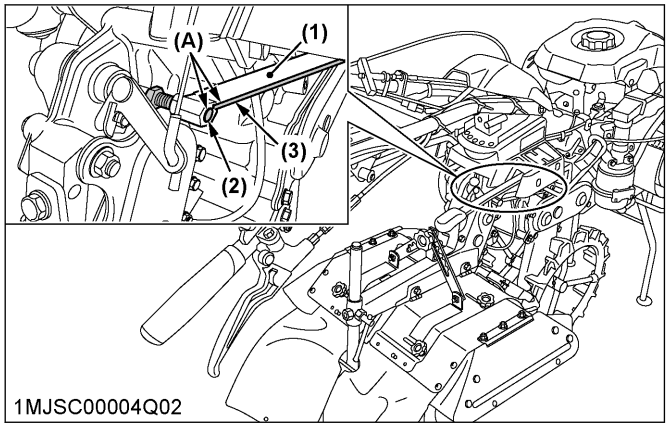


(1) 主変速レバー　　*(A)* 持ち上げる
(B) 回す

補足：
- **手がマフラに接近しないように、主変速レバーは、図の位置以上には回動しません。**

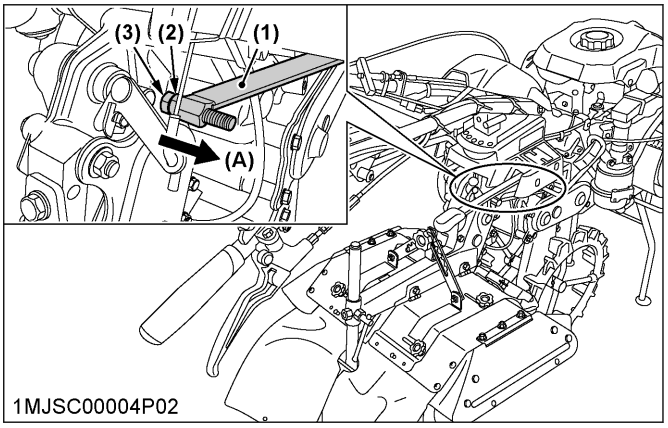
4. ハンドルを逆位置から正位置に調整した際は、ロータリ牽制装置のボルトを元の位置に戻してください。
（詳細はロータリ牽制装置（17 ページ）を参照）

ハンドル正位置



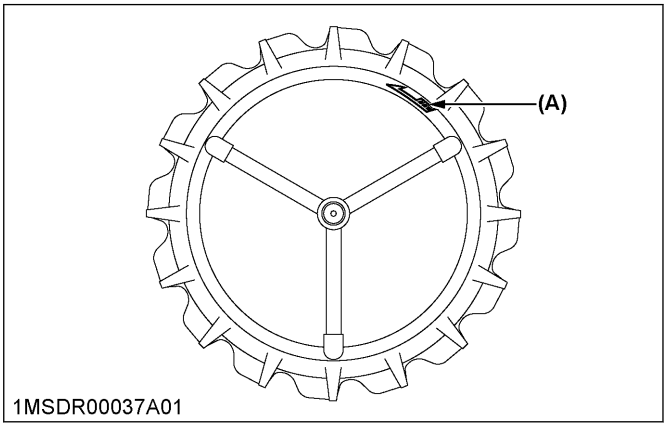
(1) ロータリ牽制装置　　*(A)* そろえる
(2) ボルト先端
(3) ロータリ牽制装置の端面

ハンドル逆位置



(1) ロータリ牽制装置　　*(A)* 締め込む
(2) ナット
(3) ボルト

5. **［ゴムクローラ仕様以外］**
ハンドルを正位置から逆位置に、もしくは逆位置から正位置に回動した際は、必ずタイヤの矢印方向が進行方向に向いているか確認してください。

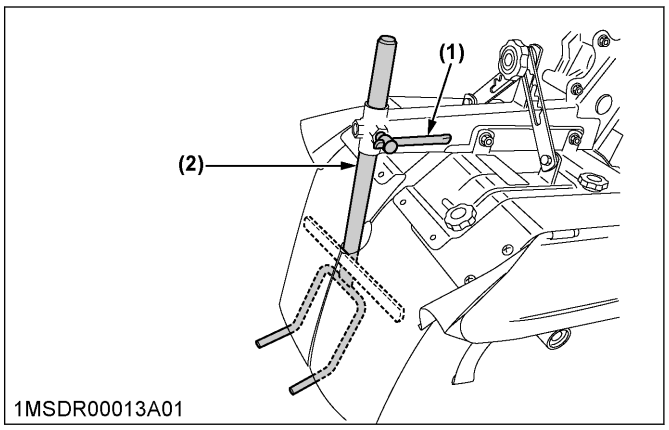


(A) 矢印を進行方向に合わせる

5. 耕深調節のしかた

⚠ 警告
- **調節時は必ずエンジンを停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **耕深を深くし過ぎると、思わぬ方向に機体が飛び出し傷害事故につながるおそれがあります。浅めの耕深から徐々に調節してください。**

［F 仕様以外］
抵抗棒の高さを調整することで耕深調節ができます。
1. 機体を前傾させてエンジン側を接地してください。
2. 締付けボルトをゆるめ抵抗棒を上下し、耕深を調節してください。
3. 耕深を浅くする場合は、抵抗棒を下げてください。
耕深を深くする場合は、抵抗棒を上げてください。



(1) 締付けボルト
(2) 抵抗棒

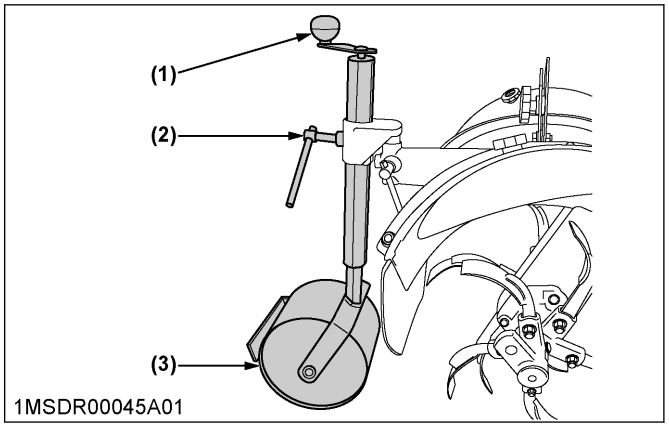
重要：

- **調節後、締付けボルトを確実に締め付けてください。**

[F 仕様]

尾輪の高さを調整することで耕深調節ができます。

1. 機体を前傾させてエンジン側を接地してください。
2. 耕深を大きく調整するときは、ジャッキボルトをゆるめて尾輪の高さを調節してください。
3. 耕深を微調整するときは、ハンドルを回して尾輪の高さを調節してください。
   - 耕深を浅くする場合は、ハンドルを左に回して尾輪を下げてください。
   - 耕深を深くする場合は、ハンドルを右に回して尾輪を上げてください。



(1) ハンドル
(2) ジャッキボルト
(3) 尾輪

重要：

- **調節後、ジャッキボルトを確実に締め付けてください。**

6. 正転作業［F 仕様以外］

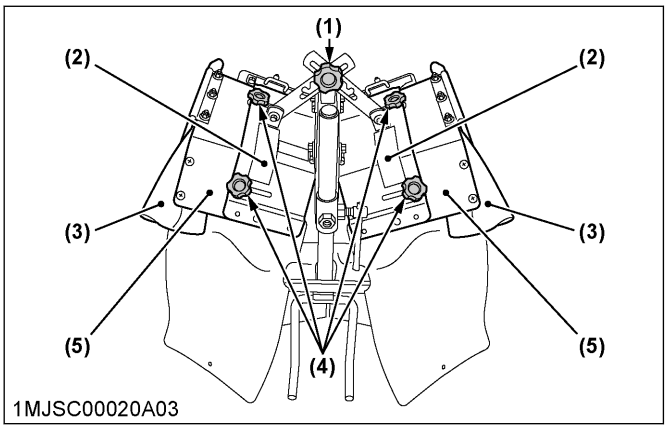
⚠ 警告

- **爪軸やロータリの各カバー調整前は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **ロータリの各カバー調整時は、カバー周辺の土を落としてから調整してください。**

補足：

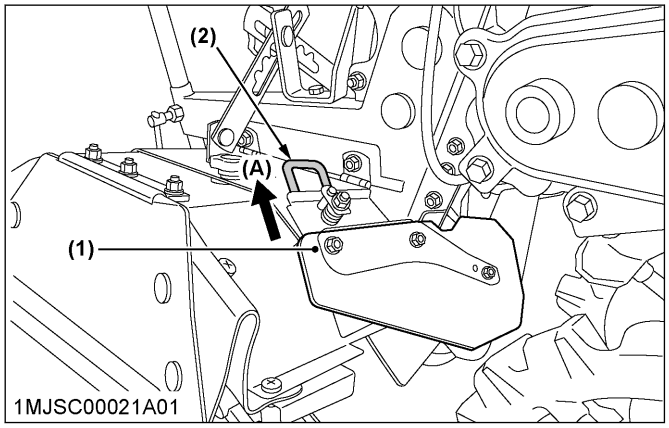
- **アタッチメントを使用して作業をする場合は、アタッチメントの取扱説明書を参照して取付けと取外しを行ってください。**

1. 爪軸を正転作業の向きに取り付けてください。（詳細は耕うん爪と爪軸の取付けかた（51 ページ）を参照）
2. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを水平から 1 段上の位置にします。次に締付けナットで確実に締め付けてください。
3. ロータリカバースライドボルトをゆるめてロータリ延長カバーをスライドさせ、耕うん幅に合うように幅を調整してください。次にロータリカバースライドボルトで確実に締め付けてください。サイドカバーは下まで下げてください。



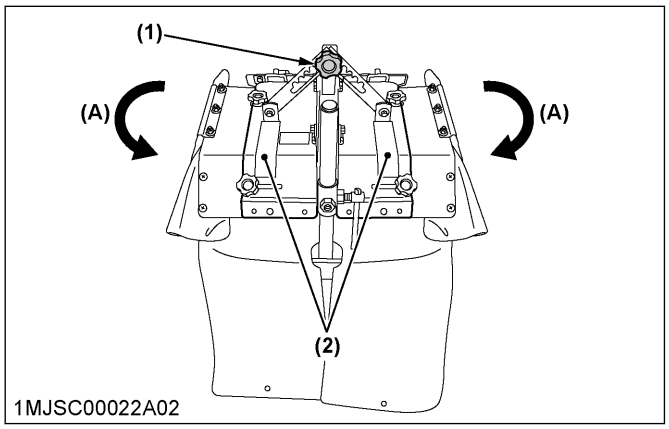
(1) 締付けナット
(2) ロータリカバー
(3) サイドカバー
(4) ロータリカバースライドボルト
(5) ロータリ延長カバー

4. 防土カバーの取っ手をつまんで、防土カバーを最上部まで上げてください。



(1) 防土カバー　　*(A)* 最上部まで上げる
(2) 取っ手

5. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを水平まで下げます。次に締付けナットで確実に締め付けてください。



(1) 締付けナット　　*(A)* 下げる
(2) ロータリカバー

6. ロータリは正転で作業を行ってください。

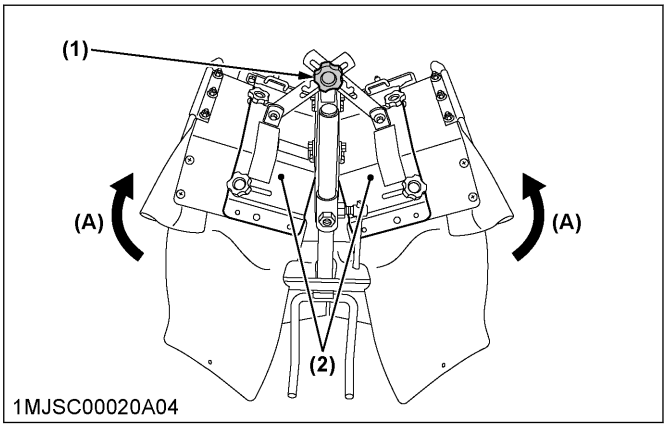
補足：
- **作業に合わせて適正な爪と爪軸を選定することでより良い作業ができます。**

7. 逆転作業

⚠ 警告
- **爪軸やロータリの各カバー調整前は、エンジンを必ず停止してください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **ロータリの各カバー調整時は、カバー周辺の土を落としてから調整してください。**

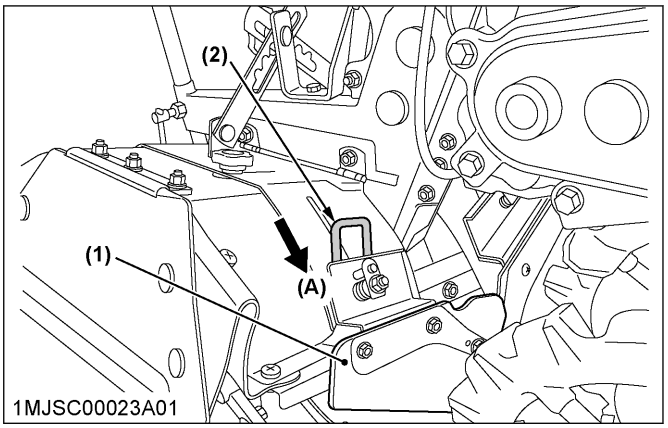
補足：
- **アタッチメントを使用して作業をする場合は、アタッチメントの取扱説明書を参照して取付けと取外しを行ってください。**

[F 仕様以外]
1. 爪軸を逆転作業の向きに取り付けてください。（詳細は耕うん爪と爪軸の取付けかた（51 ページ）を参照）
2. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを水平から 1 段上の位置にします。次に締付けナットで確実に締め付けてください。



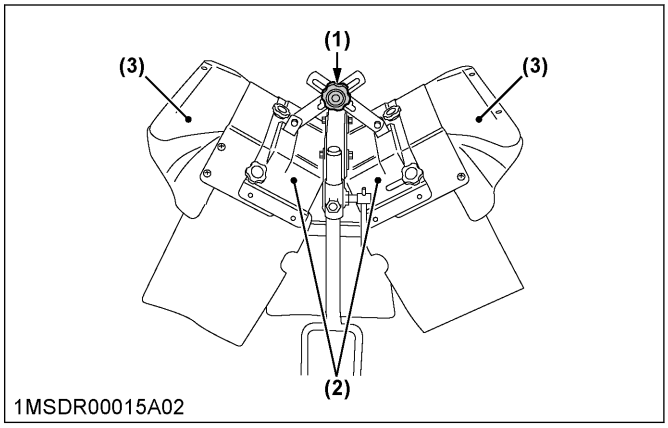
(1) 締付けナット　　*(A)* 上げる
(2) ロータリカバー

3. 防土カバーの取っ手をつまんで、防土カバーを最下部まで下げてください。



(1) 防土カバー　　*(A)* 最下部まで下げる
(2) 取っ手

4. 締付けナットをゆるめてロータリカバーを用途に合わせた位置に調節し、締付けナットを確実に締め付けてください。サイドカバーも用途に合わせて調節してください。



(1) 締付けナット
(2) ロータリカバー
(3) サイドカバー

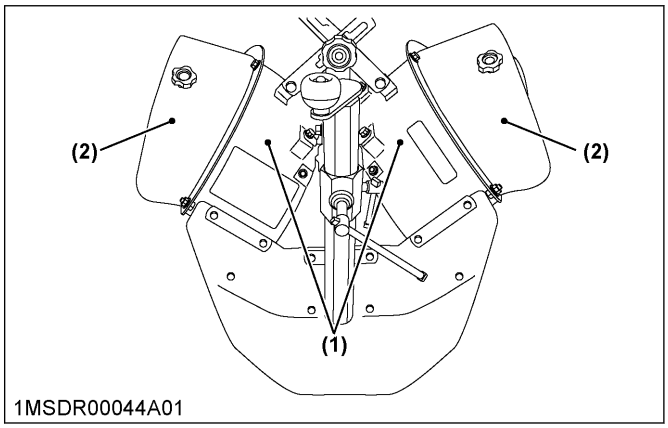
5. ロータリは逆転で作業を行ってください。

補足：

- **作業に合わせて適正な爪と爪軸を選定することでより良い作業ができます。**

[F 仕様]

1. 爪軸を逆転作業の向きに取り付けてください。
（詳細は耕うん爪と爪軸の取付けかた（51 ページ）を参照）

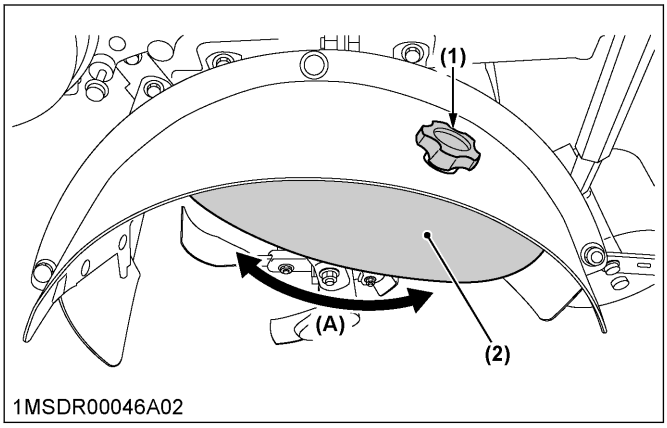


(1) ロータリカバー
(2) サイドカバー

補足：

- **ロータリカバーとサイドカバーは固定式です。開閉調整はできません。**

2. うねの大きさによって小羽根（左右）を回転させて角度を変えることで、土の飛びを調整します。小羽根はノブボルトをゆるめて調整してください。



(1) ノブボルト
(2) 小羽根
(A) 回転

補足：

- **ノブボルトは調整後に確実に締めてください。**

3. ロータリは逆転で作業を行ってください。

8. 輪距の調節のしかた［二輪仕様のみ］

⚠ 警告

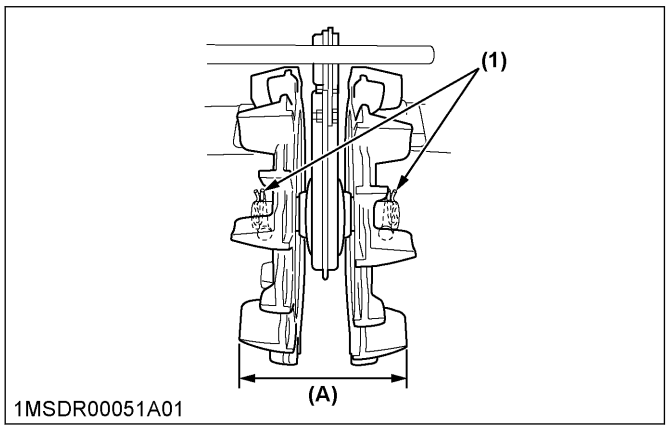
- **輪距の調節時は、かたい地面の平たんで安定した場所に停止してください。**
- **作業前はエンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。**

作業条件に応じて、輪距調節を行います。

1. スタンドを立てます。
（詳細はスタンドとスタンドレバー［二輪仕様、クローラ仕様］（19 ページ）を参照）
2. ピンを抜きます。
3. 車輪の左右を入れ替えます。

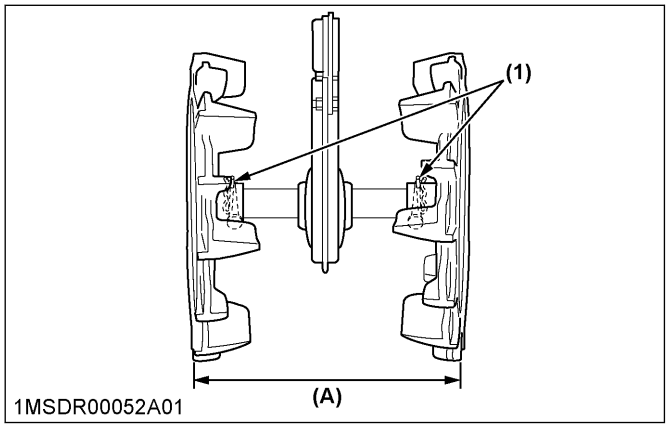
4. 車輪を入れ替えた後、ピンを必ず付けて固定してください。

幅狭調整時（進行方向から見た場合）



(1) ピン　　*(A)* *150 mm*

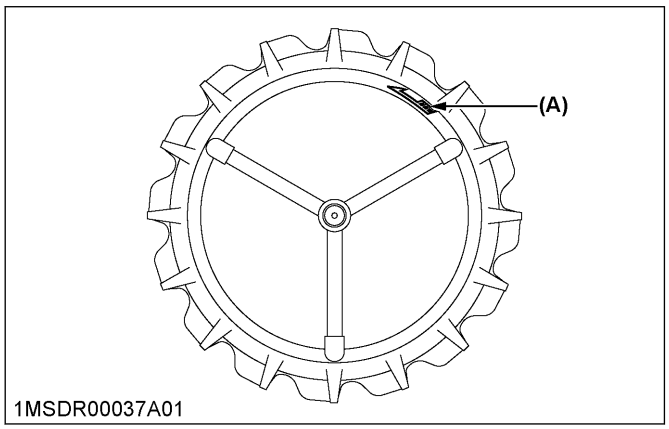
幅広調整時（進行方向から見た場合）



(1) ピン　　*(A)* *200 mm*

重要：

- **タイヤ表面の矢印方向と車輪の回転方向が進行方向と合うようにタイヤを取り付けてください。**



(A) 矢印を進行方向に合わせる

管理機の点検・整備のしかた

⚠ 警告

給油および点検整備するときは

- **給排油や点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。**
- **平たんな場所に機械を安定させて行ってください。これらの作業をおこたると、傷害事故のおそれがあります。**

廃棄物の処理について

⚠ 警告

廃棄物をみだりに捨てたり、焼却すると、環境汚染につながり、法令により処罰されることがあります。
廃棄物を処理するときは、次の事項を守ってください。

- **機械から廃液を抜く場合は、容器に受けてください。**
- **地面へのたれ流しや河川、湖沼、海洋への投棄はしないでください。**
- **廃油、燃料、冷却水（不凍液）、尿素水(AdBlue)、冷媒、溶剤、フィルタ、バッテリ、ゴム類、その他の有害物を廃棄、または焼却するときは、購入先、または産業廃棄物処理業者などに相談して、所定の規則に従って処理してください。**

洗車時の注意

高圧洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損、損傷、故障させることがありますので、高圧洗車機の取扱説明書、ラベルに従って、正しく使用してください。

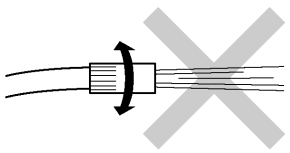
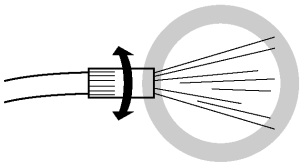
⚠ 注意

洗浄ノズルを拡散にし、2 m 以上離して洗車してください。
もし、直射にしたり、不適切に近距離から洗車すると、電気配線部被覆の損傷や断線により、火災のおそれがあります。

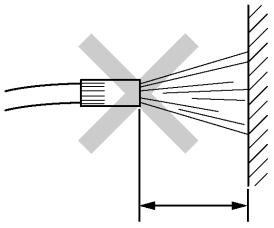
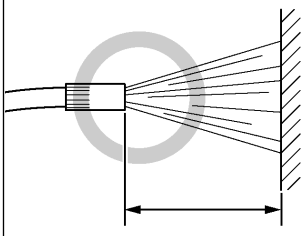
重要：

- **洗車のしかたが不適切な場合、次のような機械の破損、損傷、故障の原因になります。**
  （例）
  - **シール、ラベルの剥がれ**
  - **電子部品、エンジン、トランスミッション室内などへの浸入による故障**
  - **オイルシールなどのゴム類、樹脂類の破損**
  - **塗装、メッキ面の皮膜剥がれ**

直射洗車厳禁

直射	拡散
	
1LMSE00008A01	1LMSE00008B01

近距離洗車厳禁

	
1LMSE00036A01	1LMSE00036B01
2 m 未満	2 m 以上

定期点検箇所一覧表

No.	項目		条件	使用時間	参照ページ
1	主クラッチケーブル	調節	使用開始から	使用初期は 5 時間使用後。 その後は必要に応じて。	47
2	エンジンオイル	交換	交換第 1 回目	20 時間使用後	42
			交換第 2 回目以降	50 時間使用ごと	
3	ミッションオイル	交換	交換第 1 回目	20 時間使用後	43
			交換第 2 回目以降	1 年ごと	
4	エアクリーナ	エレメントの清掃	ホコリの多い場合	毎日	44
		エレメント（オイル）の交換	使用開始から	50 時間使用ごと	
		エアクリーナネットの清掃	ホコリの多い場合	必要に応じて	
		エアクリーナネットの交換	使用開始から	2 年ごと	
5	燃料フィルタ 燃料タンク	フィルタポットの清掃	使用開始から	50 時間使用ごと	45
		タンクの清掃	使用開始から	300 時間使用ごと	
6	点火プラグ	調節、清掃	使用開始から	6 か月に 1 回	45
7	ゴムクローラ [MSDC6C(V)のみ]	調節	ゴムクローラの異常時	必要に応じて	46
8	サイドスタンドケーブル [一輪仕様]	調節	動作異常時	必要に応じて	50
	スタンドケーブル [二輪仕様、クローラ仕様]	調節	動作異常時	必要に応じて	49
9	副変速ケーブル	調節	動作異常時	必要に応じて	48
10	ハンドル上下ケーブル	調節	動作異常時	必要に応じて	48
11	チェーンケース	注油	動作異常時	必要に応じて	50
12	ロータリクラッチケーブル	調節	動作異常時	必要に応じて	49
13	耕うん爪	交換	摩耗、曲がり、損傷があれば	必要に応じて	51
14	燃料チューブ	交換	傷、亀裂があれば	必要に応じて	44
			使用開始から	2 年ごと 購入先にご相談ください。	
15	ファンカバー	清掃	ゴミやワラクズの付着があれば	必要に応じて	45
16	スロットルレバー	調節	動作異常時	必要に応じて	51

重要：

- **専門的な技術や手入れなどでご不明な点は、購入先にご相談ください。**

管理機の給油一覧表

給油項目		容量	種類
燃料		2.3 L	自動車用レギュラーガソリン
エンジンオイル	MSD4C(W)	0.5 L	純正オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30
	MSD6C(W) MSDC6C	0.55 L	純正オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30
ミッションオイル		0.7 L	純正オイル（ミッション用）NEW UDT、スーパー UDT2
エアクリーナ		オイルカップの規定量 **[OIL LEVEL]**	純正オイル（ガソリンエンジン用）スーパー G 10W-30

日常点検

⚠ 警告

給油および点検整備するときは、次の注意事項を守ってください。おこたると、傷害事故のおそれがあります。

- **給排油、点検、調節、清掃は、エンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶんに冷えてから行ってください。**
- **平たんな場所に機械を安定した状態で置いて行ってください。**

1. 前回の異常箇所

前回の作業中に異常を感じた所があれば、使用前に支障が無いか点検してください。

2. 機械の周りを歩いて

- ボルトやナットのゆるみが無いか確認してください。
- 車体各部の変形や損傷が無いか確認してください。
- 油漏れなど異常が無いか確認してください。

3. 燃料の給油

⚠ 警告

- **給油するときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **給油漏れを防ぐため、サイドスタンドを立てての給油はしないでください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での給油は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**
- **燃料は規定量（赤色ゲージ）以上入れないでください。**
- **給油後、燃料キャップはガソリンが漏れないようしっかり締めてください。**
- **これらの作業をおこたると、爆発や火災のおそれがあります。**

1. センタースタンドを立てた状態で燃料を入れてください。
2. 自動車用レギュラーガソリンを補給します。
3. 燃料キャップを外し、給油口内の赤色ゲージを超えないように補給してください。

重要：

- **水やゴミを混入しないようにしてください。**

4. エンジンオイルの交換

重要：

- **粗悪なオイルを使用しますと、エンジンの寿命を急激に縮めますので、購入先で純正オイルスーパー G 10W-30 とご指定のうえ、お求めください。（詳細は管理機の給油一覧表（41 ページ）を参照）**
- **排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。**

オイルの点検と交換表

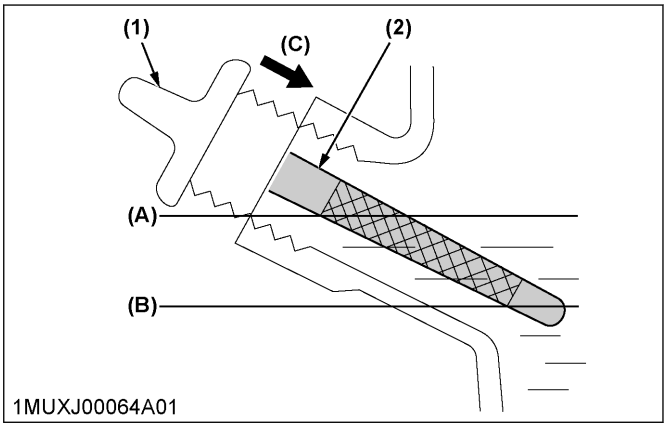
型式名	MSD4C(W)	MSD6C(W)(F) MSDC6C
オイル量	0.5 L	0.55 L
点検方法	機体水平	
交換第 1 回目	20 時間使用後	
交換第 2 回目以降	50 時間使用ごと	
オイルの種類	純正オイル（ガソリンエンジン用） スーパー G 10W-30	

給油のしかた

1. エンジンを水平にし油量上限位置まで入れてください。

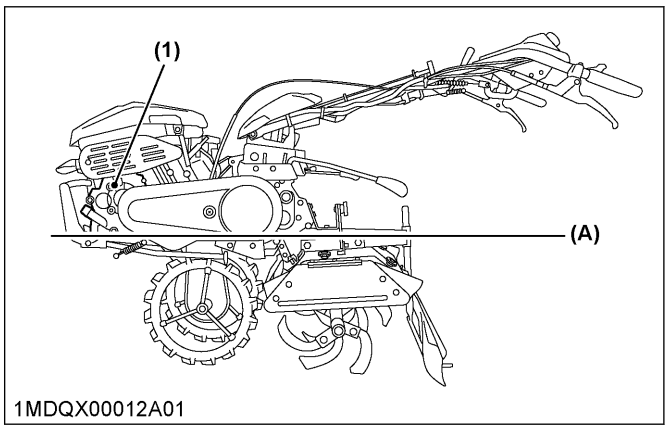
   重要：

   - **オイル給油後は、必ずオイルゲージを用いて上下限の範囲内にあるか確認してください。**



(1) 給油プラグ
(2) オイルゲージ
(A) オイルが溢れない位置（上限）
(B) ゲージの先端（下限）
(C) ねじ込まずに差し込む

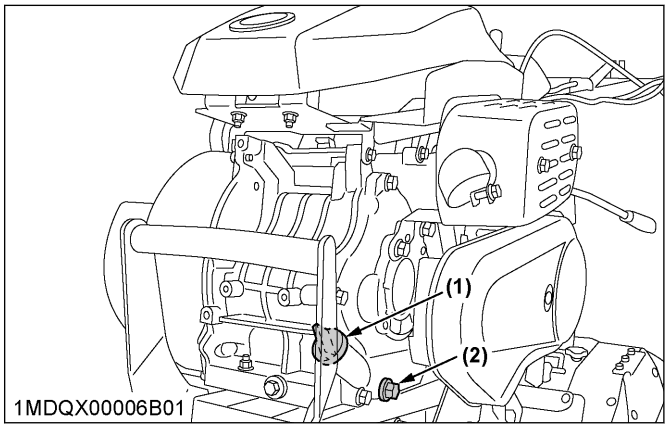
エンジン水平状態



(1) エンジン　　*(A)* 水平

排油のしかた

1. エンジンを水平に安定させプラグを外し、排油してください。このとき、必ずオイルパンなどの容器で受けてください。



(1) 給油プラグ
(2) 排油プラグ

5. ミッションオイルの交換

重要：

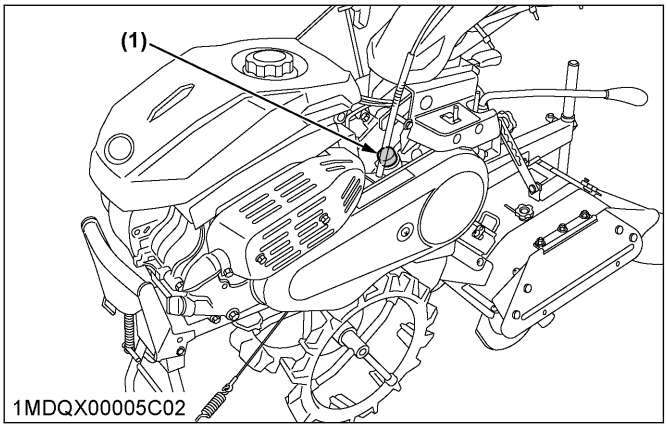
- **粗悪なオイルを使用すると、機械の寿命を急激に縮めますので、購入先で純正オイル NEW UDT、スーパー UDT-2 とご指定のうえ、お求めください。（詳細は管理機の給油一覧表（41 ページ）を参照）**
- **排油、検油、給油後はプラグを確実に締めてください。**

オイルの点検と交換表

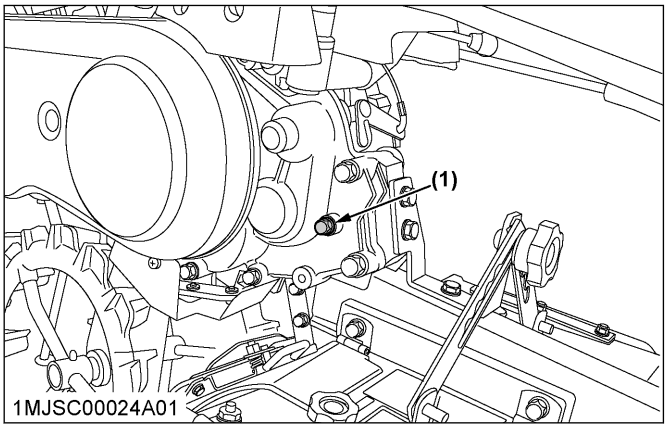
型式名	MSD4C(W)	MSD6C(W)(F) MSDC6C
オイル量	0.7 L	
点検方法	機体水平	
交換第 1 回目	20 時間使用後	
交換第 2 回目以降	年 1 回	
オイルの種類	純正オイル（ミッション用） NEW UDT またはスーパー UDT-2	

給油のしかた

1. スタンドを立てて、エンジンを水平にし、検油プラグまで給油します。



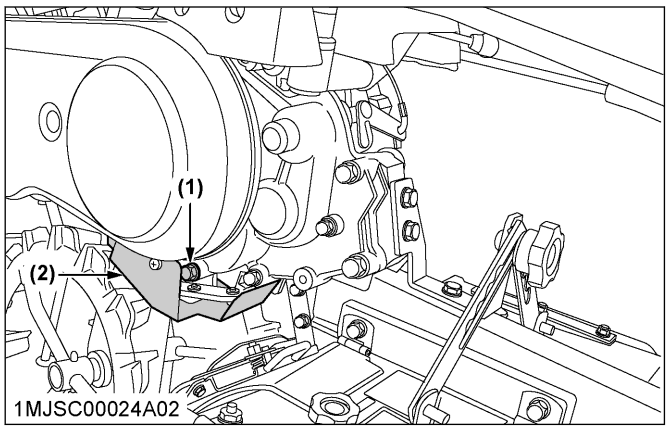
(1) 給油プラグ



(1) ミッションオイル検油プラグ

排油のしかた

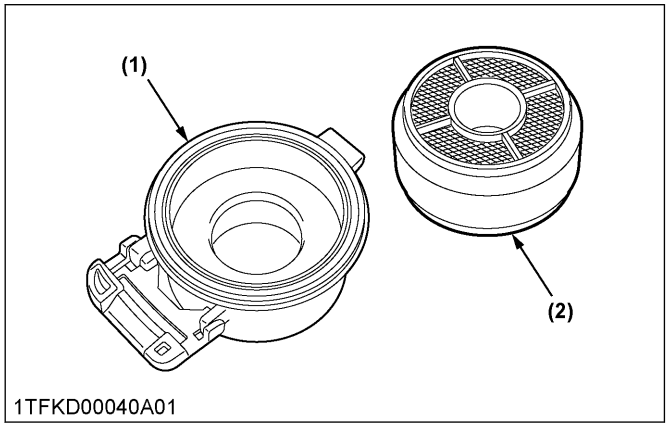
1. 防土カバーを取り外す。（ボルト 2 本）
2. ミッションオイル排油プラグを外して排油します。このとき、必ずオイルパンなどの容器で排油を受けてください。



(1) 排油プラグ
(2) 防土カバー

6. エアクリーナの清掃とオイル交換

1. 新車（納車）時は、エンジンオイルをオイルカップに入れてください。
2. エレメントは灯油で洗い、エンジンオイルを塗布して、よく振り切って、余分なオイルを取り除いてから取り付けてください。



(1) オイルカップ
(2) エレメント

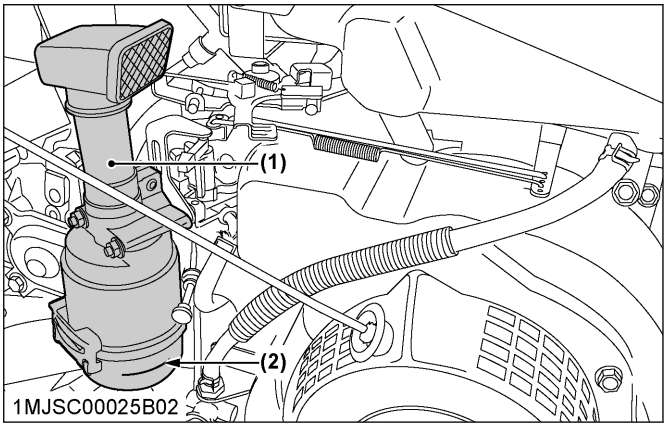
3. オイルカップはよく洗浄し、新しいエンジンオイルを規定量入れてください。
   - 規定量 ： **[OIL LEVEL]**と記載されている所

重要：

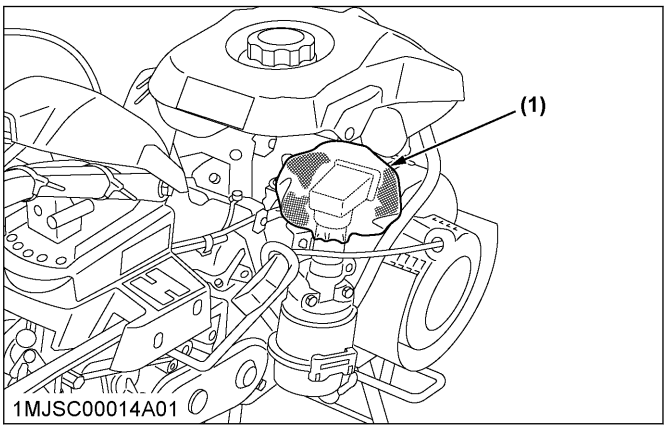
- **エアクリーナを取り外したままエンジンを運転しないでください。ゴミやホコリを吸い込み、エンジン不調やエンジン異常摩耗の原因となります。**
- **汚れたまま使用しますと、エンジンの出力低下や故障の原因になります。**

エアクリーナの点検		
エレメント	清掃	毎日：ホコリの多い場合
エレメント、オイル	交換	50 時間ごと
エアクリーナネット	清掃	毎日：ホコリの多い場合
	交換	2 年間ごと

- **チリやホコリが多く発生する土入れ作業などで使用する場合は、**
  - **ホコリの少ない方向にエアクリーナ吸込口を向けてください。**
  - **エアクリーナネットをエアクリーナ吸込口に装着してください。**
  - **毎日点検してください。**
- **規定量よりエンジンオイルを入れすぎると、エンジン不調の原因となります。**
- **エアクリーナネットにゴミが付着した場合は、本機からネットを外し手で払ってください。汚れがひどい場合には水洗いにて洗浄してください。漂白剤など薬品を使った洗浄は変形の原因となります。**



(1) エアクリーナ
(2) ***[OIL LEVEL]***



(1) エアクリーナネット

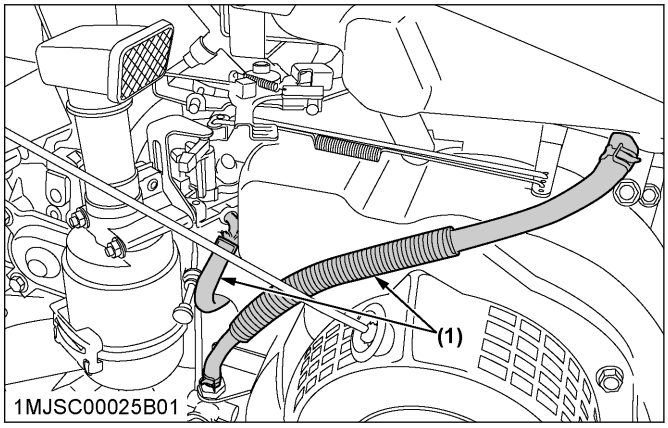
7. 燃料チューブの交換

⚠ 警告

- **燃料チューブは自然劣化したり傷があると、ガソリン漏れして火災の原因となります。**
  作業前に毎回点検し、ヒビや割れが発生した物は、新しい燃料チューブと交換してください。

交換にあたっては、購入先にご相談ください。

交換	2 年間ごと



(1) 燃料チューブ

8. 燃料フィルタとタンクの清掃

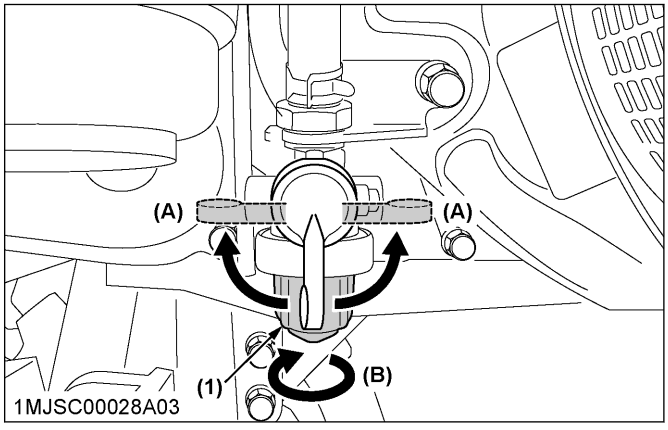
⚠ 警告

- **取付け後、ガソリン漏れがないか確認してください。**

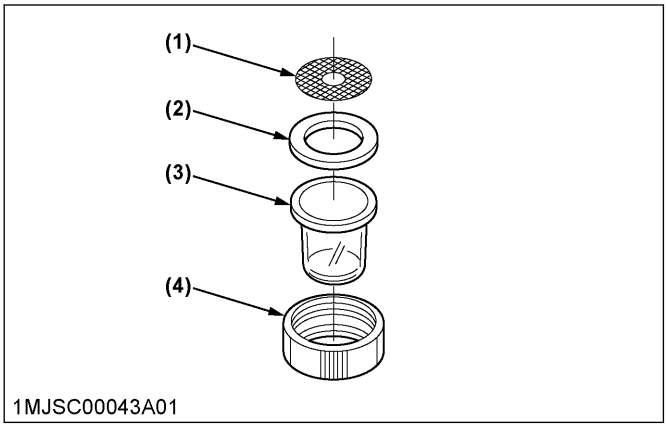
1. 燃料フィルタは、燃料のゴミを取り除きます。取り除かれたゴミは、ポットの底にたまります。
2. 燃料コックレバーを**[OFF]**（閉）位置にし、フィルタポットを外し、ポットの底にたまっているゴミや水を捨ててください。
3. 燃料タンク内を点検し、底に異物がたまっている場合は、取り除いてください。

フィルタポットの清掃	50 時間使用ごと
タンクの清掃	300 時間使用ごと

4. フィルタポットを再装着するときは、確実に締め付け、燃料漏れが無いか必ず確認してください。



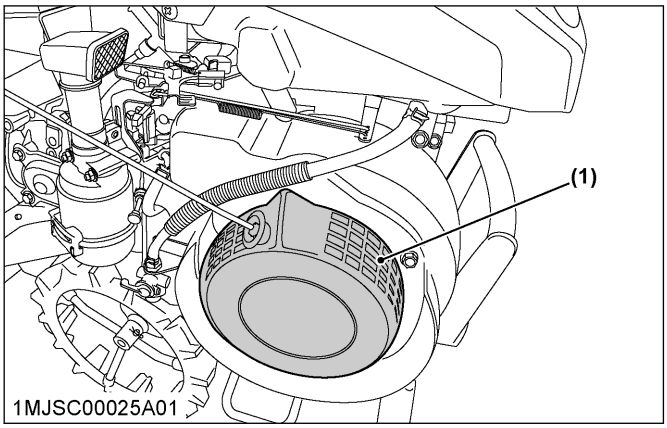
(1) 燃料コックレバー
(A) ***[OFF]***（閉）位置
(B) ゆるめて取り外す



(1) ネット
(2) パッキン
(3) フィルタポット
(4) ポットオサエ

9. ファンカバーの清掃

ファンカバーの吸気口は、きれいに清掃します。ここからエンジンの冷却風が吸い込まれますので、ゴミやワラクズなどの付着があるとエンジンの過熱や出力低下の原因になります。



(1) ファンカバーの吸気口

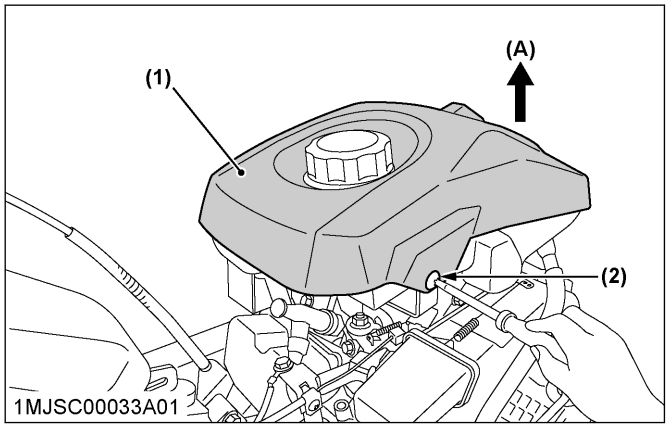
10. 点火プラグの点検

⚠ 警告

- **高温部が冷えてから行ってください。**

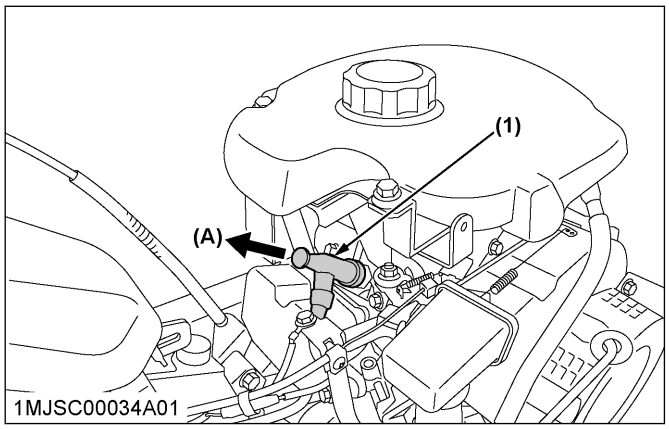
点検は 6 か月に 1 回行ってください。

1. ボンネットの左右のプラスネジをプラスドライバーで外し、上方にカバーを持ち上げ取り外してください。



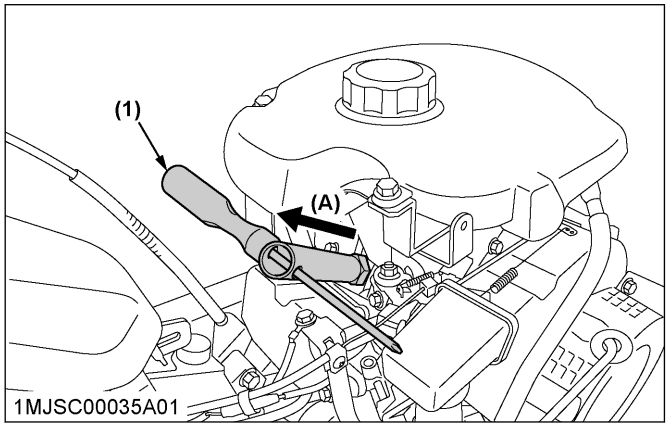
(1) ボンネット　　*(A)* 取り外す
(2) プラスネジ

2. 点火プラグキャップを取り外します。



(1) 点火プラグキャップ　　*(A)* 取り外す

3. プラグ用ボックススパナでプラグを取り外します。

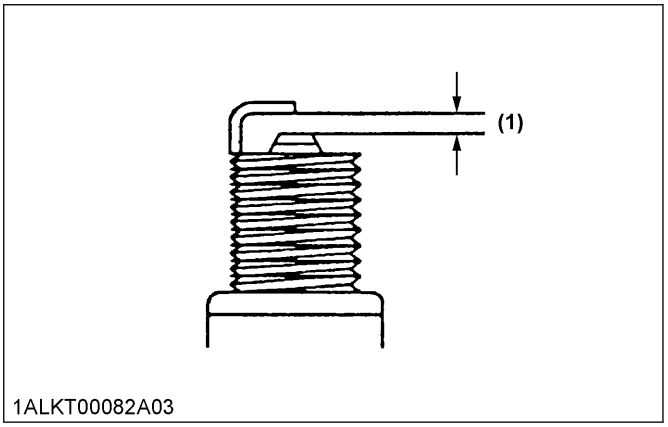


(1) プラグ用ボックススパナ　　*(A)* 取り外す

4. 電極の隙間が 0.6 mm~0.7 mm になっているか確認します。

重要：

- **隙間が前述の数値になっていないときは、新しいプラグと交換してください。交換については、購入先にご相談ください。**



(1) 隙間

使用点火プラグ	(NGK) BPR6HS

5. 作業が終わったら、プラグとボンネットを元の位置に戻してください。

重要：

- **プラグ締め付け時は、ネジ山をつぶさないように、はじめ手で締め込んでから、ボックススパナで締め付けてください。**

締付けトルク	25 N·m～30 N·m

- **プラグを外したまま始動操作しないでください。**

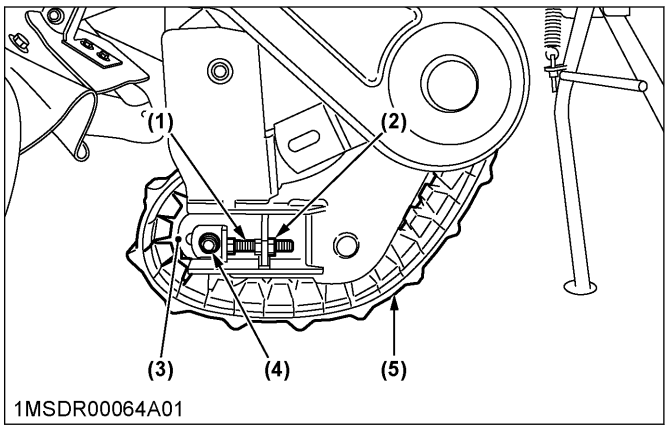
11. ゴムクローラの調節［ゴムクローラ仕様のみ］

⚠ 警告

- **ゴムクローラの調節時は、かたい地面の平たんで安定した場所に停止してください。**
- **エンジンを必ず停止してください。傷害事故のおそれがあります。**

ゴムクローラがたるんだ状態では脱輪などを引き起こす場合がありますので、たるんでいるときには、ゴムクローラを張るようにします。

1. 可動転輪を止めているボルトを軽くゆるめます。
2. ナットをゆるめて張りボルトを反時計方向にまわし、ゴムクローラを張ります。
3. ゆるめたボルトとナットを締め付けます。



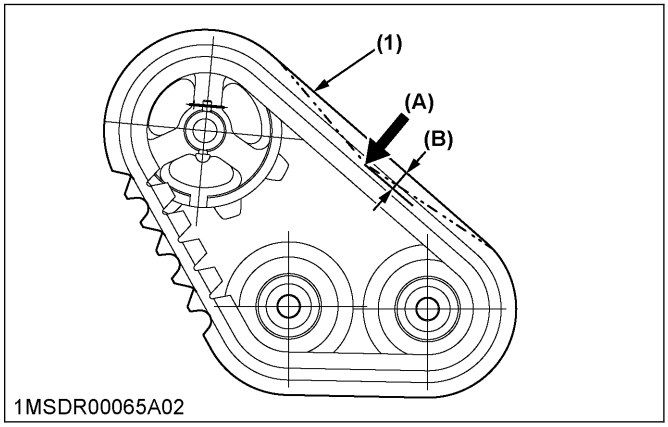
(1) 張りボルト
(2) ナット
(3) 可動転輪
(4) ボルト
(5) ゴムクローラ

適正張り強さ

次図、クローラの中間部を手のひらで強めに押さえて、たわみ量が 10 mm～15 mm 程度であれば張り強さは適正です。

重要：

- **クローラの張り過ぎはクローラの早期破損につながりますので、必ず適正な張りに調節してください。**



(1) クローラ
(A) 押さえる
(B) たわみ量

クローラを押さえる力	50 N
クローラの適正たわみ量	10 mm～15 mm

脱輪したときの処置

作業中にゴムクローラの内部へ大きい石などが入り、脱輪したときにはいったん可動転輪をはずし、ゴムクローラを張るようにします。

1. ナットをゆるめて張りボルトを右回り（時計方向）へまわし、可動転輪がはずれるようにします。
2. 可動転輪のボルトをゆるめて可動転輪をはずし、脱輪を直したあとに可動転輪を取り付けます。
3. 張りボルトでゴムクローラを張り、ゆるめたナットを締め付けます。

締付けトルク	43.1 N·m～50 N·m

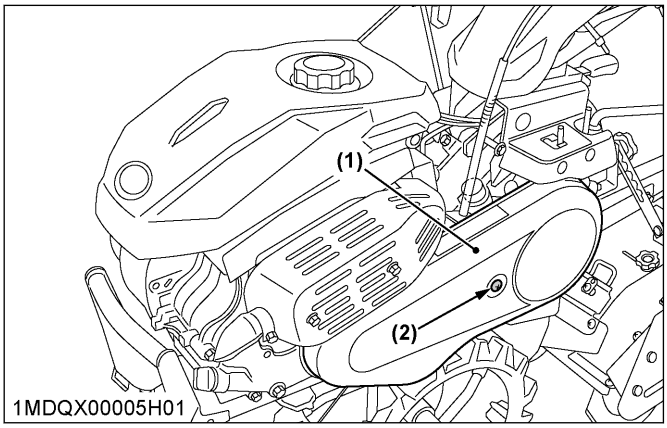
12. 主クラッチケーブルの調節

⚠ 警告

- **ベルト調節を行う場合は、必ずエンジンを停止して行ってください。**
- **調節が終わったら必ずベルトカバーを取り付けてください。巻き込まれるなど傷害事故を引き起こすおそれがあります。**
- **主変速レバーを中立位置にしてください。**
- **調節、確認時は周囲に人や動物を近づけないでください。傷害事故を引き起こすおそれがあります。**

主クラッチケーブルによる調節

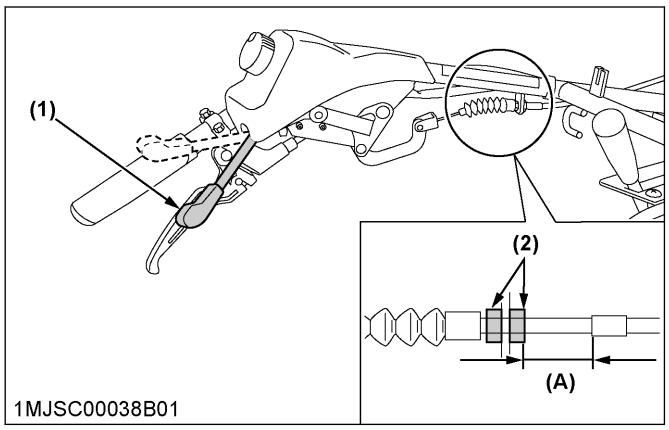
1. ベルトカバーの取付けボルトをゆるめて、ベルトカバーを取り外します。



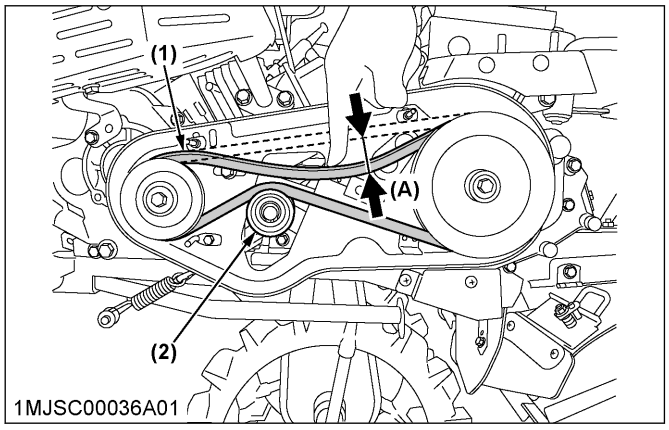
(1) ベルトカバー
(2) 取付けボルト

2. 主クラッチを入れた状態でベルトの中央部を指で押さえて 10 mm～15 mm たわむ程度にケーブル調節金具でテンションプーリを調節してください。なお、使用初期はベルトが伸びやすいため、5 時間使用後ケーブルを再調節してください。

ベルトがスリップする場合	調節金具の A 部を長くする
主クラッチレバーが重すぎる場合	調節金具の A 部を短くする



(1) 主クラッチレバー　　*(A)* *A* 部
(2) ロックナット



(1) ベルト　　*(A)* たわみ量
(2) テンションプーリ

ベルトの適正たわみ量	10 mm～15 mm

重要：
- **主クラッチケーブルを調節した場合、エンジンを始動してクラッチの[入]と[切]が確実に作動するか確認してください。**
- **調節後は、調節金具のロックナットを確実に締め付けてください。**

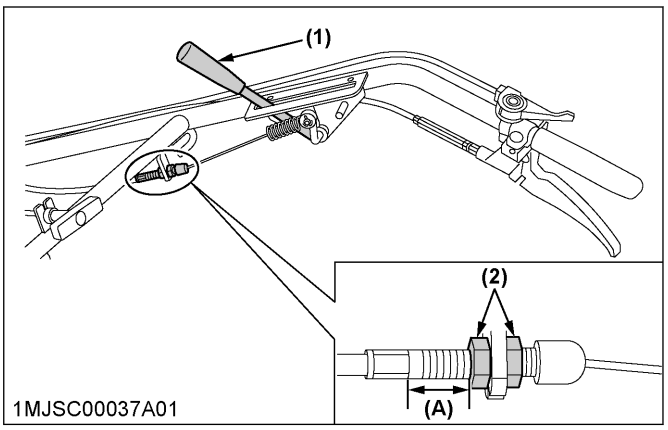
補足：
- **ケーブルで調整できない場合は、購入先にご相談ください。**

3. ベルトカバーをボルトで取り付けます。

13. 副変速ケーブルの調節

副変速レバーを操作しても低速、高速に切り替わらないときに行ってください。

1. スタンドを立てます。このとき、サイドスタンドは使用しないでください。
2. 副変速レバーを**[高]**位置にし、調節金具の調節範囲部が短くなる方向へロックナットを最後までゆるめ、副変速レバーに遊びがある状態に調節します。



(1) 副変速レバー　　*(A)* 調節範囲
(2) ロックナット

3. メインスイッチを**[停止]**位置、ロータリ変速レバーを中立位置、主クラッチレバーを**[入]**位置、主変速レバーを**[1]**位置にします。
   リコイルスタータハンドルを数回引っ張り、ギヤをかみ合わせて車輪が回ることを確認します。
4. 調節金具の調節範囲部を長くして、副変速レバーの遊びがなくなるようにロックナットを調節します。
5. 続けて、調節金具の調節範囲部が短くなる方向へロックナットを 1/4 回転～1/2 回転させてロックナットを固定し、副変速レバーに少し遊びがあることを確認します。
6. 主クラッチレバーを**[切]**位置、主変速レバーを中立位置に戻します。

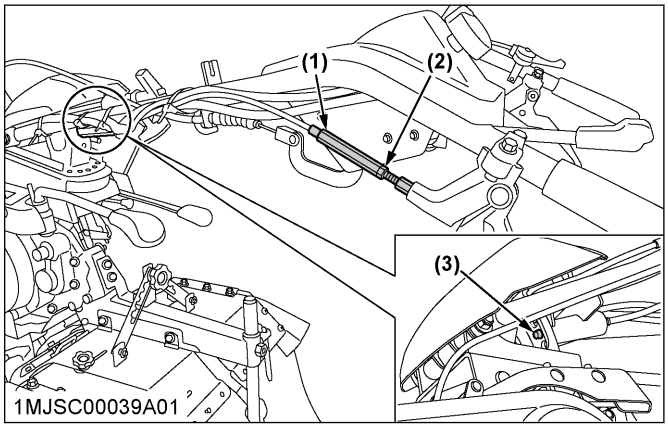
補足：
- **副変速ケーブルの調節をしても、低速と高速の切替えができない場合は、購入先にご相談ください。**

14. ハンドル上下ケーブルの調節

ハンドル高さ調節レバーを握ってハンドルが上下に動かない、または調子が悪いときに行ってください。

1. ロックナットをゆるめてワイヤのアジャスタで調節します。
2. ハンドルを上下にセットしたときにプレートの穴にピンが確実に入っていることを確認します。

3. アジャスタ部のロックナットを確実に締め付けます。

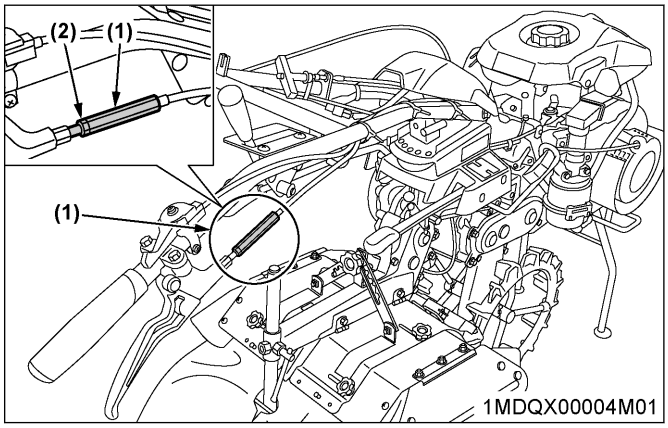


(1) アジャスタ
(2) ロックナット
(3) ピン

15. ロータリクラッチケーブルの調節

ロータリクラッチレバーを握り、ロータリが止まらなかったり、入らない場合は、ロータリクラッチケーブルの調節を行ってください。

1. ロックナットをゆるめてロータリクラッチワイヤのアジャスタで調節します。
   - **ロータリクラッチがきれにくいとき**
     アジャスタを長くします。
   - **ロータリクラッチが入りにくいとき**
     アジャスタを短くします。
2. アジャスタ部のロックナットを確実に締め付けます。

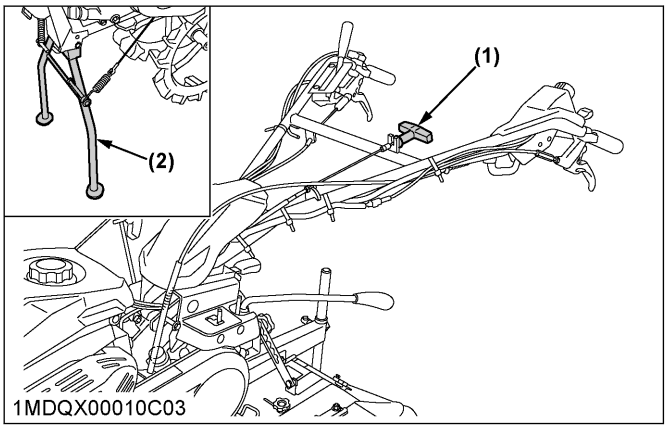


(1) ロータリクラッチワイヤアジャスタ
(2) ロックナット

16. スタンドケーブルの調節［二輪仕様、クローラ仕様］

スタンドレバーを手前に引いても収まりが悪い場合、またスタンドレバーを前に出しても完全に立たない場合に行ってください。

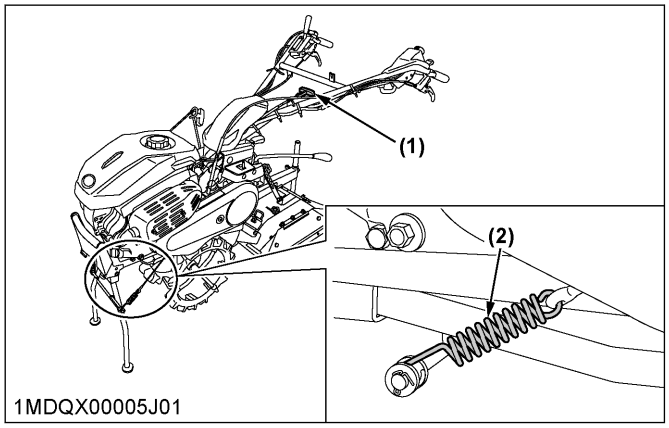
1. スタンドケーブルワイヤの調節金具で調節します。



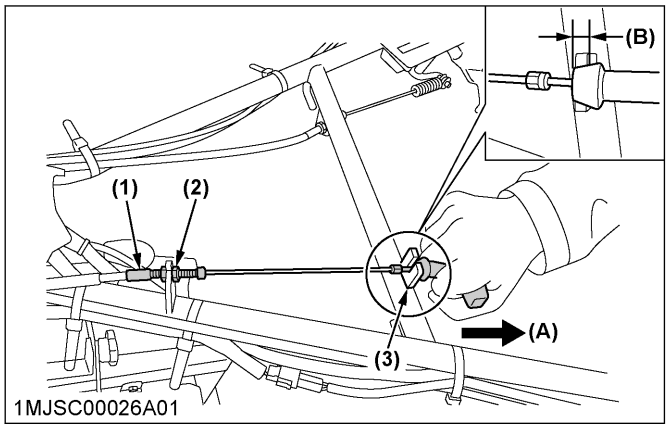
(1) スタンドレバー
(2) スタンド

2. スプリングが伸びない（遊びがない）程度にワイヤを引っ張ります。
3. ワイヤを軽く引っ張ったときのワイヤ受けと、スタンドレバーの B 部の距離が 4 mm～5 mm になるように、調節金具で調節してください。

4. 調節後は、調節金具のロックナットを確実に締め付けてください。



(1) ワイヤ
(2) スプリング



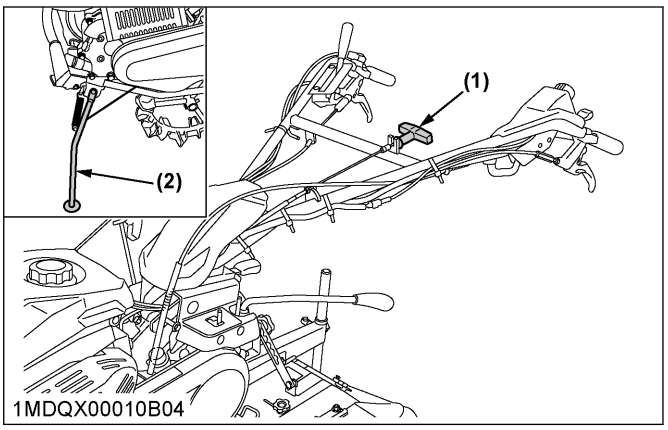
(1) 調節金具
(2) ロックナット
(3) ワイヤ受け
(A) 引く
(B) ワイヤ受けとスタンドレバーの距離

ワイヤ受けとスタンドレバーの距離	4 mm～5 mm

17. サイドスタンドケーブルの調節［一輪仕様］

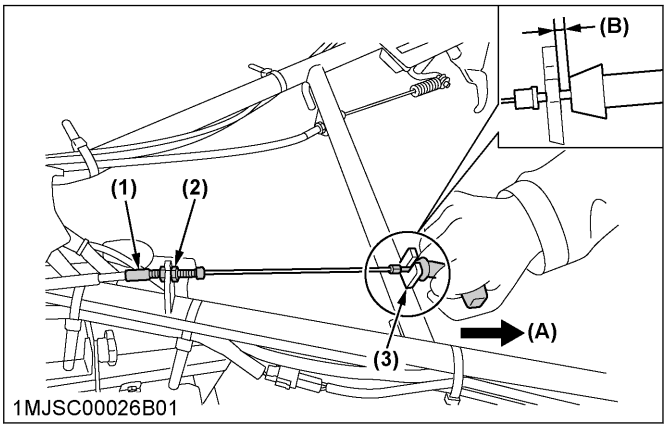
スタンドレバーを手前に引いても収まりが悪い場合、またスタンドレバーを前に出しても完全に立たない場合に行ってください。

1. スタンドケーブルワイヤの調節金具で調節します。



(1) スタンドレバー
(2) サイドスタンド

2. ワイヤを引っ張ったときのワイヤ受けと、スタンドレバーの B 部の隙間を 1 mm～3 mm になるように、調節金具で調節してください。
3. 調節後は、調節金具のロックナットを確実に締め付けてください。



(1) 調節金具
(2) ロックナット
(3) ワイヤ受け
(A) 引く
(B) 隙間

ワイヤ受けとスタンドレバーの隙間	1 mm～3 mm

18. チェーンケースの注油

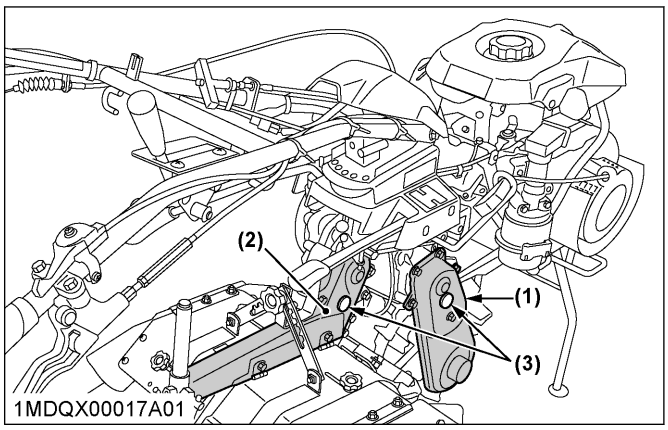
チェーンケースから異音がするときに注油してください。

1. キャップを開けて、グリース注入穴の下端までチェーンに注油します。

グリースの種類	純グリース No.2 または、コスモ集中グリース No.2

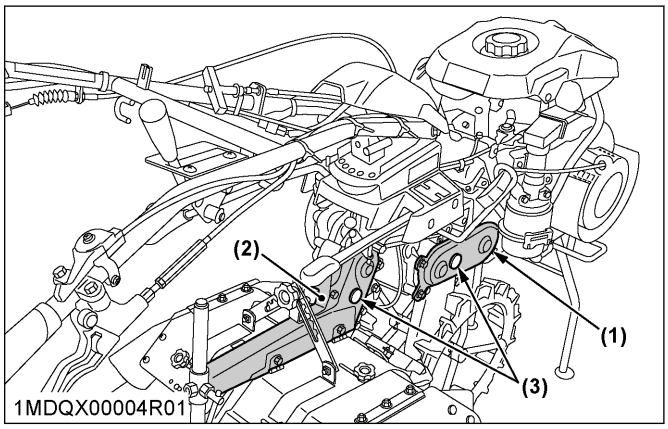
2. 注油後、キャップを元に戻します。

[二輪仕様以外]



(1) 車軸ケース
(2) ロータリケース
(3) キャップ

[二輪仕様]



(1) *CT*ケース
(2) ロータリケース
(3) キャップ

19. スロットルレバーの点検

スロットルレバーを最高回転にしてもエンジン回転が上がらないときや、スロットルレバーが**[高]**位置のときに主変速レバーを**[後進]**位置にしても、エンジン回転が下がらないときは、購入先にご相談ください。

20. 耕うん爪と爪軸の取付けかた

⚠ 警告

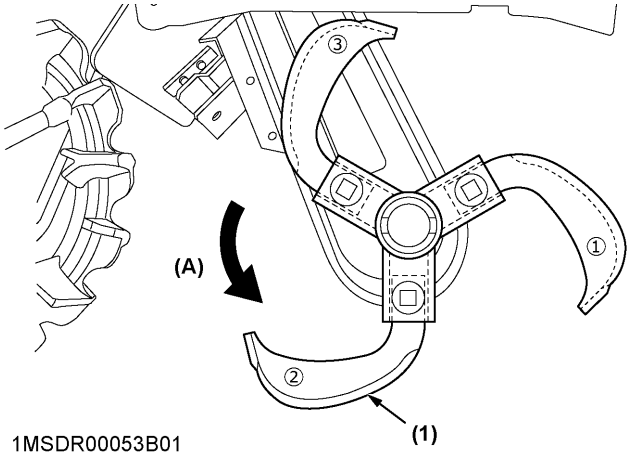
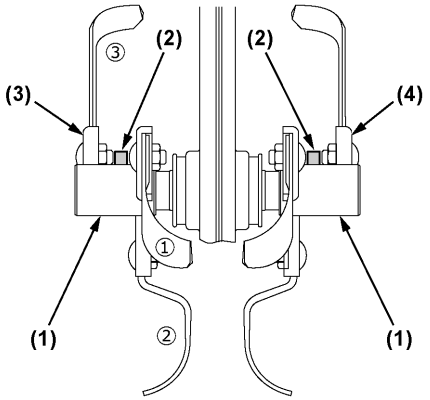
- **爪の交換時は、エンジンを停止してください。**
- **爪の交換時は、手袋を使用してください。**
- **危険ですから必ず、爪交換後サイドカバーを確実に取り付けてください。**
- **爪交換時はロータリに付いた土を落とし、ロータリ部が落下しないようにしてください。**
- **これらの手順を怠ると、傷害事故のおそれがあります。**

20.1 中耕ロータリ［標準仕様］の取付けかた

正転作業

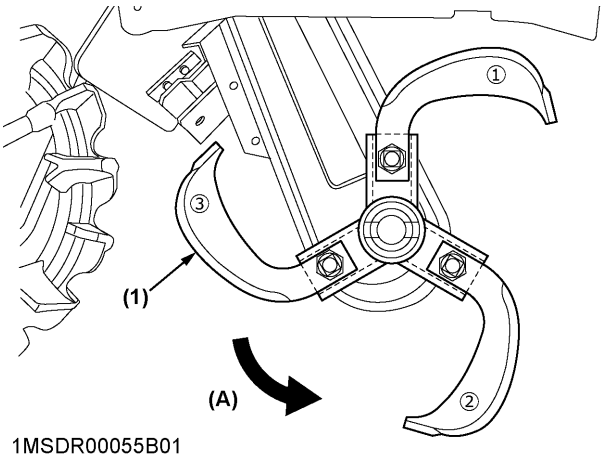
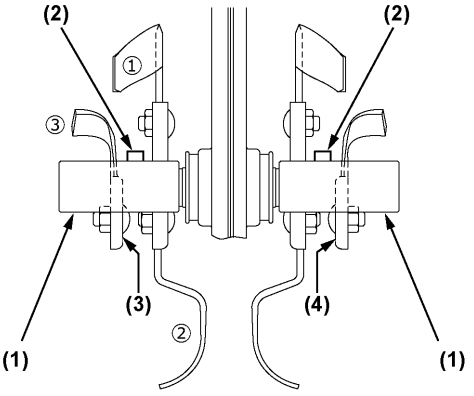
1. 左右の爪軸を左右対称にして耕うん軸に組み付けます。
2. 打刻**[L]**がある爪軸をロータリの左側に、打刻**[R]**がある爪軸をロータリの右側に組み付けます。

耕幅 190 mm

左から見る	後ろから見る
	
1MSDR00053B01 *(1)* 爪　*(A)* 回転方向	1MSDR00053C01 *(1)* 短い爪軸　*(2)* ピン　*(3)* 打刻***[L]***　*(4)* 打刻***[R]***

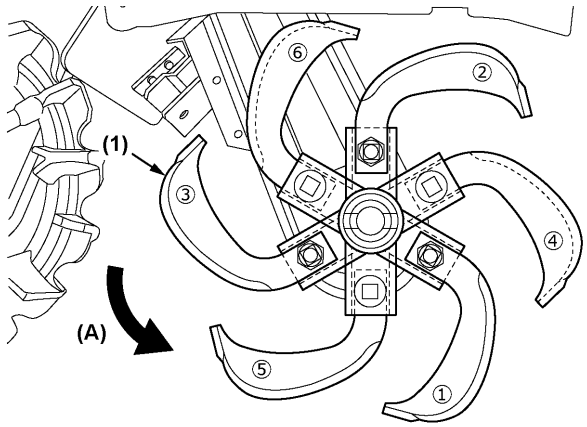
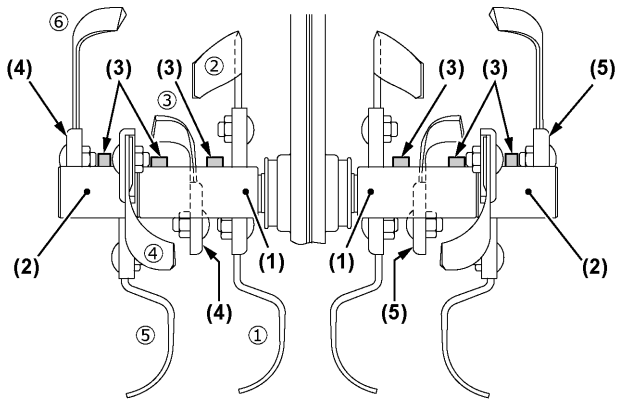
イラストはハンドル正位置時のイラストです。

耕幅 240 mm

左から見る	後ろから見る
	
1MSDR00055B01 *(1)* 爪　*(A)* 回転方向	1MSDR00055C01 *(1)* 長い爪軸　*(2)* ピン　*(3)* 打刻***[L]***　*(4)* 打刻***[R]***

イラストはハンドル正位置時のイラストです。

耕幅 360 mm

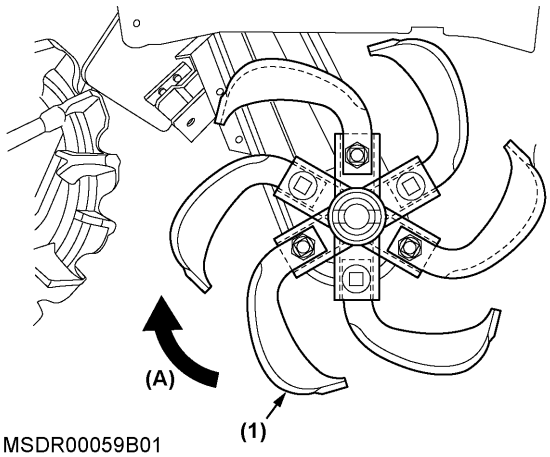
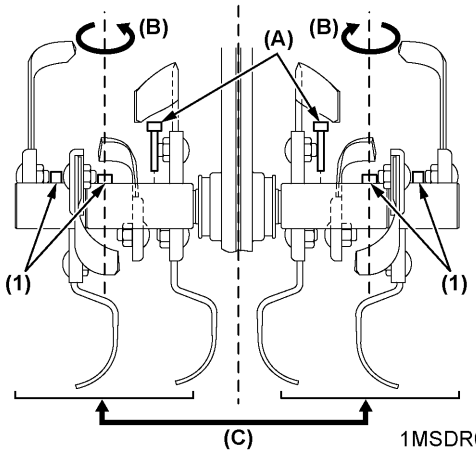
左から見る	後ろから見る
 1MSDR00057B01 *(1)* 爪　*(A)* 回転方向	 1MSDR00057C01 *(1)* 長い爪軸　*(3)* ピン　*(5)* 打刻***[R]*** *(2)* 短い爪軸　*(4)* 打刻***[L]***

イラストはハンドル正位置時のイラストです。

逆転作業

耕幅 360 mm

1. 正転作業時の最内側ピンを取り外し、爪軸を抜いてください。
2. 左右の爪軸をそれぞれ 180°反転し左右を入れ換え、図のように取り付けてください。
3. 左右の爪軸は対称に取り付けてください。

左から見る	後ろから見る
 1MSDR00059B01 *(1)* 爪　*(A)* 回転方向	 1MSDR00059C01 *(1)* ピン　*(A)* ピン取り外し　*(B)* *180°*反転　*(C)* 入換え

イラストはハンドル正位置時のイラストです。

締付けトルク

全機種（M10）	43.1 N·m～50.0 N·m

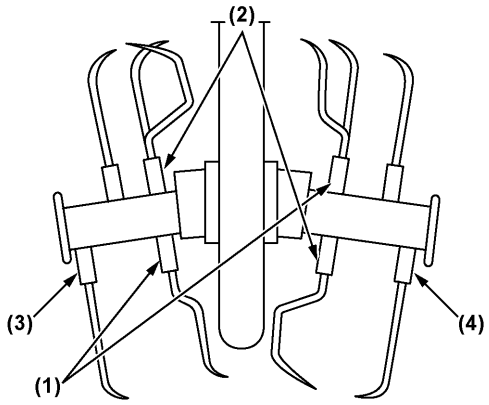
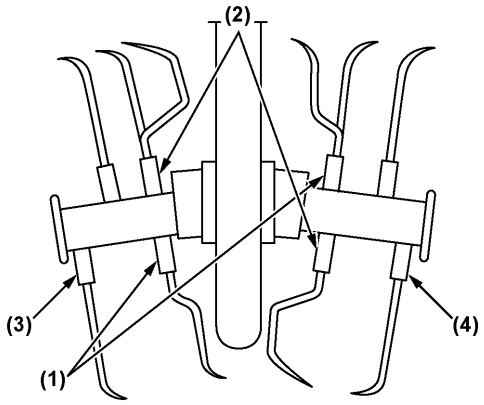
重要：

- **爪の内外の向き、ならびに種類を間違えないようにしてください。**
- **作業前には爪の取付けボルトとナットにゆるみが無いか確認し、増締めをしてください。**
- **爪を交換後は、ボルトとナットを確実に締めてください。**

20.2 V センタロータリ［V 仕様］の取付けかた

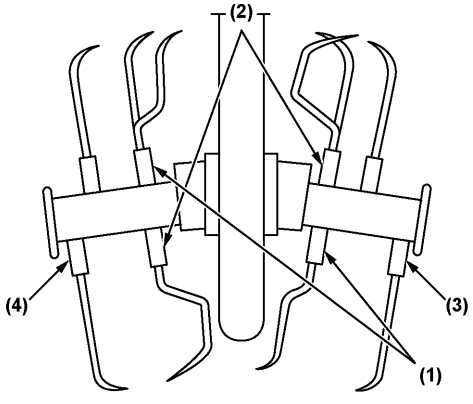
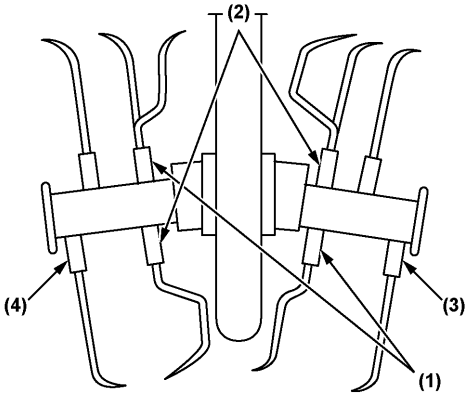
正転作業

1. 左右爪軸ブラケットの打刻**[A]**部と**[B]**部に次図のように爪を取り付けてください。
2. 内盛りまたは外盛り耕うんに応じ、爪を取り付けてください。
   打刻**[L]**のある爪軸を左側、打刻**[R]**のある爪軸を右側に取り付けてください。
   爪とブラケットのマークを合わせ、同時打込みにしてください。

内盛り	外盛り
 1MSDR00062B01	 1MSDR00062C01
(1) 打刻***[A]*** *(2)* 打刻***[B]*** *(3)* 打刻***[L]*** *(4)* 打刻***[R]***	*(1)* 打刻***[A]*** *(2)* 打刻***[B]*** *(3)* 打刻***[L]*** *(4)* 打刻***[R]***

逆転作業

1. 左右の爪軸をそれぞれ 180°反転し左右を入れ換え、図のように取り付けてください。

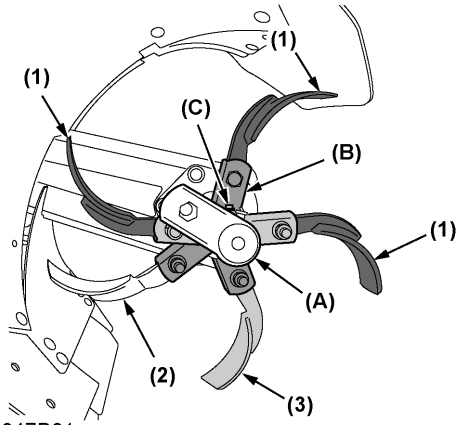
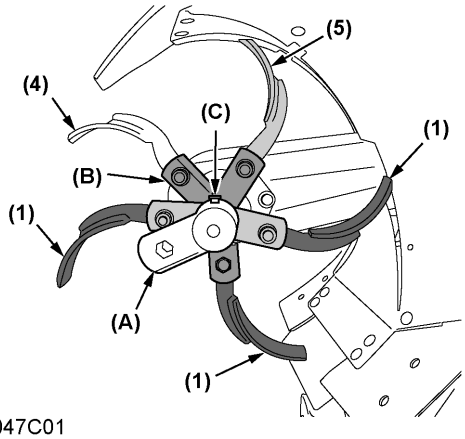
内盛り	外盛り
 1MSDR00063B01	 1MSDR00063C01
(1) 打刻***[A]*** *(2)* 打刻***[B]*** *(3)* 打刻***[L]*** *(4)* 打刻***[R]***	*(1)* 打刻***[A]*** *(2)* 打刻***[B]*** *(3)* 打刻***[L]*** *(4)* 打刻***[R]***

重要：

- **爪の内外の向き、ならびに種類を間違えないようにしてください。**
- **作業前には爪の取付けボルトとナットにゆるみが無いか確認し、増締めをしてください。**
- **爪を交換後は、ボルトとナットを確実に締めてください。**

20.3 F 仕様の取付けかた

逆転作業

左から見る	右から見る
 1MSDR00047B01 *(A)* 手前側の爪ブラケット *(空)*　*(B)* 奥側の爪ブラケット　*(C)* ピン	 1MSDR00047C01 *(A)* 手前側の爪ブラケット *(空)*　*(B)* 奥側の爪ブラケット　*(C)* ピン

イラストはハンドル正位置時のイラストです。

爪の品名と品番

No.	品名	品番	個数
(1)	ツメ（フクドロータ）	91850000150	6
(2)	ツメ（シロ、ヒダリ）	91850000130	1
(3)	ツメ（キイロ、ヒダリ）	91850000140	1
(4)	ツメ（シロ、ミギ）	91850000160	1
(5)	ツメ（キイロ、ミギ）	91850000180	1

補足：

- **回転方向から見て白色、黄色、黒色×3 の順に装着します。**
- **手前側の爪ブラケットは予備用です。**

締付けトルク

全機種（M10）	43.1 N·m～50.0 N·m

重要：

- **爪の内外の向き、ならびに種類を間違えないようにしてください。**
- **作業前には爪の取付けボルトとナットにゆるみが無いか確認し、増締めをしてください。**
- **爪を交換後は、ボルトとナットを確実に締めてください。**

使用後の手入れ

使用後は、必ずその日に清掃を行い、各部に付いている土やゴミを落とし、各しゅう動部は錆びないように油やグリースおよび防錆剤を適宜塗布してください。特にファンカバー内にゴミが詰まりますと、エンジンの焼付きなどの原因になりますので、よく点検および清掃を行ってください。

重要：

- **水洗いのとき、エアクリーナ吸込口から水が入らないようにカバーをしてください。**

1. エンジン始動不良を防ぐために

エンジン停止後、必ず燃料コックレバーを閉めてください。

重要：

- **燃料コックレバーを開いたままの状態で、保管したり、前に倒したり、また車両で運搬したりすると、エンジン始動が困難となる場合があります。また、クランクケース内へガソリンが流入することもあります。**

2. 長期格納時の手入れ

⚠ 警告

- **機械にカバーをかけるときや、納屋に格納するときは火災のおそれがあるため、エンジンが冷えてからにしてください。**
- **燃料がこぼれたときは、きれいに拭き取ってください。爆発・火災のおそれがあります。**

- 主クラッチレバーは**[切]**位置にして保管してください。
- 1 か月以上使用しないときは、燃料タンク・キャブレタ・フィルタポットの中のガソリンをすべて抜き取ってください。
- オイルを交換し、各部をきれいに掃除してください。
- エアクリーナエレメントを、掃除してください。
- エアクリーナネットは本機から取り外し、屋内で保管してください。
- エンジンのシリンダ内に湿気が入って、始動が困難になるのを防止するため、リコイルスタータハンドルを引っ張って、圧縮位置（ゆっくり引っ張って手ごたえがある場所）で止めて、手を離してください。
- カバーをかけ、湿気や草・ワラおよびホコリのない場所に置いてください。
- 錆を防ぐため、爪軸を外し、耕うん軸と爪軸の内側を清掃し、油またはグリースを塗布してください。

重要：

- **ほ場などの屋外に保管していると、地面からの湿気が多いので錆びやすくなります。**

3. 燃料の抜取り

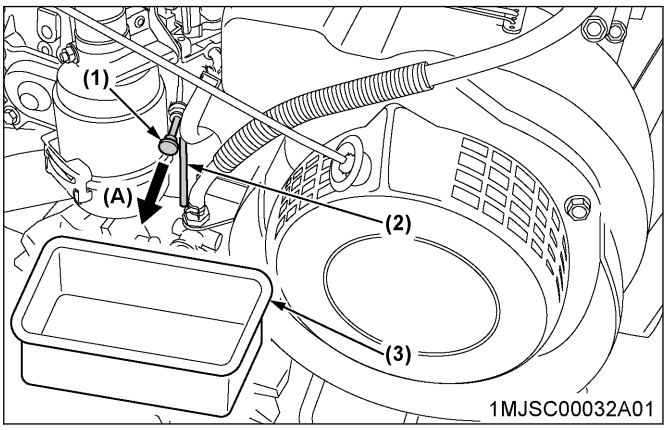
⚠ 警告

- **燃料を抜き取るときはエンジンを停止し、エンジンやマフラがじゅうぶん冷えてから行ってください。**
- **火気厳禁。くわえ煙草での作業は絶対にしないでください。**
- **燃料がこぼれたときはきれいに拭き取ってください。**

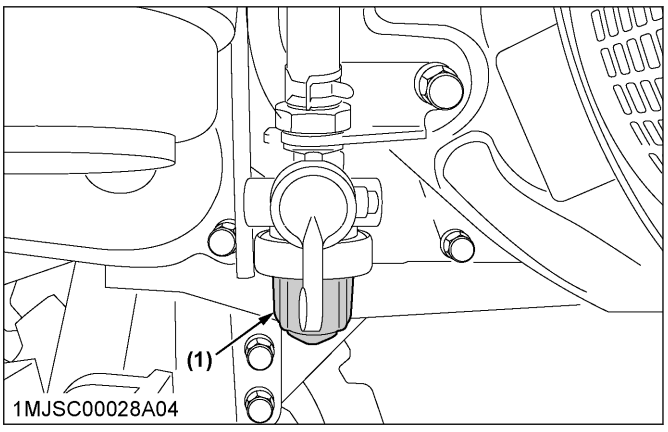
1 か月以上使用しないとき、燃料タンク内のガソリンはポンプなどを使用して抜き取り、キャブレタ内はクイックドレンを引いてドレンチューブから抜き取り、フィルタポットを外しフィルタ内の燃料を全部抜き取ります。その際、ガソリンは容器で受けて抜き取ってください。

重要：

- **燃料をそのままにしておくと、燃料タンクやキャブレタ内のガソリンが変質し、次の始動が困難になります。**



(1) クイックドレン　*(A)* 引く
(2) ドレンチューブ
(3) 容器



(1) フィルタポット

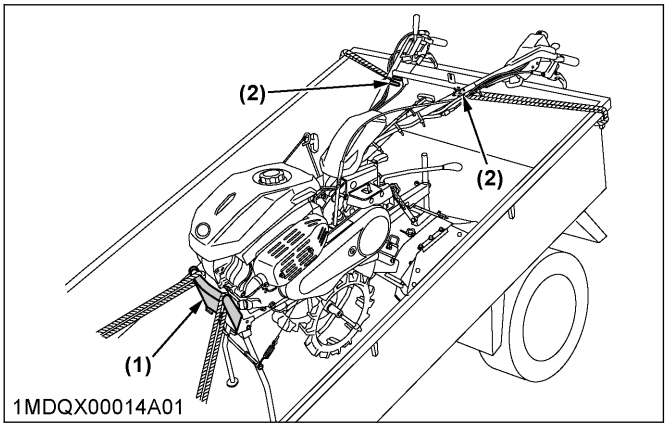
管理機を運搬するとき

⚠ 警告
- **積込みや積降ろしは、平たんで交通の邪魔にならない安全な場所で行ってください。**
- **アユミ板はすべり止めの付いた、機体重量に耐える物で、トラックの荷台の高さ 1 に対しアユミ板の長さ 4 以上の物を使用し、確実に固定してください。**
- **足元に注意し、車速は最低速で上りは前進 1 速、下りは後進で行ってください。**
- **途中で主クラッチを切ったり、変速操作を絶対にしないでください。落下や転倒のおそれがあります。**
- **トラックは、荷台に天井がない車を使用してください。首や体をはさまれるおそれがあります。**
- **トラックでの運搬時は、タンク内のガソリンの量を、積込みや積降ろしに必要な最低量とし、残りのガソリンは、別に用意しておいた法で定められたタンクに移して運搬してください。火災のおそれがあります。**

自動車（トラック）への積込み、運搬

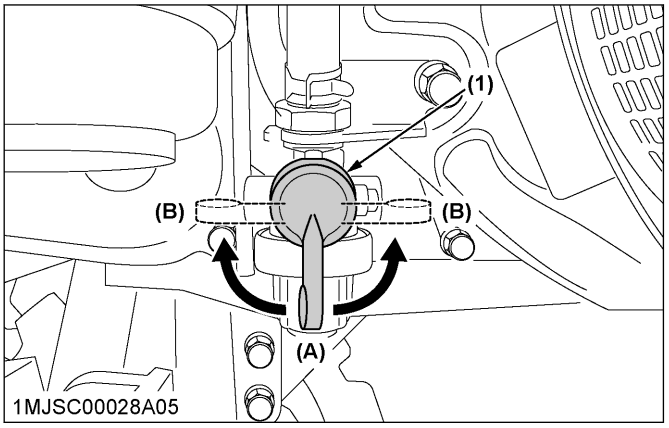
重要：
- **ロープを掛けるとき、樹脂レバーや樹脂カバー、小物部品にロープが触れないように気をつけ、ケーブルやハーネスをしばらないでください。**
  破損したり機能が損なわれるおそれがあります。
- **エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせないで運搬すると、雨水や砂ホコリが入り、エアクリーナ性能が低下します。**
- **本機に付属しているエアクリーナネットは運搬用や雨天用ではありません。運搬時や雨天時はエアクリーナネットを本機から取り外してください。**
- **燃料コックレバーを[ON]（開）位置のまま運搬すると、キャブレタ内でガソリンがオーバーフローし、エンジン始動が困難となります。また、クランクケース内にガソリンが流入することもあります。**

1. トラックを平たんな場所に止め、駐車ブレーキを掛けます。
2. アユミ板を荷台に確実に固定します。
3. 車速は最低速で、上りは前進 1 速で、下りは後進 1 速にします。
4. スタンドを立て、機体を荷台にロープで確実に固定します。
5. 機体にロープを掛けるときは、前部プロテクタとロープ掛け用フックの 2 箇所を固定します。



(1) 前部プロテクタ
(2) ロープ掛け用フック

6. 燃料コックレバーを**[OFF]**（閉）位置にします。



(1) 燃料コックレバー
(A) ***[ON]***（開）位置
(B) ***[OFF]***（閉）位置

7. 雨天時には、エアクリーナの吸込口にカバーをかぶせます。

付表

主要諸元

販売型式名				MSD4C	MSD4CW	MSD6C [MSD6CV]	MSD6CW [MSD6CWV]	MSDC6C [MSDC6CV]
機体寸法	全長（ハンドル 3 段目）		(mm)	1470	1480	1470 [1455]	1480 [1465]	1470 [1455]
	全幅（ハンドル幅）		(mm)	615				
	全高（ハンドル 3 段目）		(mm)	1020 [1040]				
機体質量（重量）			(kg)	74.5	77.0	76.5 [77.0]	79.0 [79.5]	87.0 [87.5]
エンジン	型式			GB131		GB181		
	種類			空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン				
	総排気量		L (cc)	0.126 (126)		0.181 (181)		
	出力		kW/rpm (PS/rpm)	2.0 / 1600 (2.7 / 1600)		3.0 / 1600 (4.1 / 1600)		
	最大出力		kW(PS)	3.0 (4.2)		4.6 (6.3)		
	使用燃料			自動車用レギュラーガソリン（無鉛）				
	燃料タンク容量		(L)	2.3				
	始動方式			リコイルスタータ式				
走行部	車輪（ゴムラグ車輪）			1 輪用 1 個	2 輪用 2 個	1 輪用 1 個	2 輪用 2 個	–
	輪距		(mm)	90 （ラグ幅）	150・200 （ラグ外幅）	90 （ラグ幅）	150・200 （ラグ外幅）	–
	車輪径		(mm)	φ 330				–
	ゴムクローラ （幅 mm × ピッチ mm × リンク数）			–				幅 110 × ピッチ 60 × リンク 17
	主クラッチ方式			ベルトテンション式				
	車軸の形状・寸法		(mm)	丸軸・直径 20				
	変速段数	ハンドル正位置	（段）	前進 4 段・後進 2 段				
		ハンドル逆位置	（段）	前進 2 段・後進 2 段				
	走行速度	ハンドル正位置 （定格回転時）	(km/h)	前進 1.24～3.48 後進 1.24～1.57				前進 1.17～3.29 後進 1.07～1.36
		ハンドル逆位置 （定格回転時）	(km/h)	前進 1.24～1.57 後進 1.24～1.57				前進 1.07～1.36 後進 1.17～1.48
	車軸トルクリミッター装置			有り				
ハンドル回転（回動角度）				レバーワンタッチピン式 (-30°、-15°、0°、15°、30°、165°、180°、195°)				

（次へ続く）

販売型式名			MSD4C	MSD4CW	MSD6C [MSD6CV]	MSD6CW [MSD6CWV]	MSDC6C [MSDC6CV]
ハンドル上下調節		（段）	レバーワンタッチ式 5 段（ハンドル逆転時 5 段）				
ロータリ	駆動方式		センタードライブ				
	変速段数	（段）	正転 2・逆転 2				
	爪軸回転数（定格回転時）	(rpm)	低速 246・高速 471				
	耕うん幅	(mm)	190・240・360（分割式）、V センタロータリ［V 仕様］280				
	爪回転径	(mm)	φ 330				
	爪軸形状・寸法	(mm)	丸軸・直径 29				
	ロータリカバー形状		前カバー：スライド式 左右カバー：開閉・スライド式				
安全性検査合格番号			申請中				

補足：

- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

付表

販売型式名				MSD6CWVF
機体寸法	全長（ハンドル 3 段目）		(mm)	1465
	全幅（ハンドル幅）		(mm)	615
	全高（ハンドル 3 段目）		(mm)	1040
機体質量（重量）			(kg)	85.5
エンジン	型式			GB181
	種類			空冷 4 サイクル傾斜型 OHV ガソリンエンジン
	総排気量		L (cc)	0.181 (181)
	出力		kW/rpm (PS/rpm)	3.0 / 1600 (4.1 / 1600)
	最大出力		kW (PS)	4.6 (6.3)
	使用燃料			自動車用レギュラーガソリン（無鉛）
	燃料タンク容量		(L)	2.3
	始動方式			リコイルスタータ式
走行部	車輪（ゴムラグ車輪）			2 輪用 2 個
	輪距		(mm)	150・200 （ラグ外幅）
	車輪径		(mm)	φ 330
	ゴムクローラ （幅 mm × ピッチ mm × リンク数）			–
	主クラッチ方式			ベルトテンション式
	車軸の形状・寸法		(mm)	丸軸・直径 20
	変速段数	ハンドル正位置	（段）	前進 4 段・後進 2 段
		ハンドル逆位置	（段）	前進 2 段・後進 2 段
	走行速度	ハンドル正位置 （定格回転時）	(km/h)	前進 1.24～3.48 後進 1.24～1.57
		ハンドル逆位置 （定格回転時）	(km/h)	前進 1.24～1.57 後進 1.24～1.57
	車軸トルクリミッター装置			有り
ハンドル回転				レバーワンタッチピン式 (-30°、-15°、0°、15°、30°、165°、180°、195°)
ハンドル上下調節			（段）	レバーワンタッチ式 5 段（ハンドル逆転時 5 段）
ロータリ	駆動方式			センタードライブ
	変速段数		（段）	正転 2・逆転 2
	爪軸回転数 （定格回転時）		(rpm)	低速 246・高速 471
	耕うん幅		(mm)	180
	爪回転径		(mm)	φ 330
	爪軸形状・寸法		(mm)	丸軸・直径 29
	ロータリカバー形状			左右カバー：固定式（覆土専用）
安全性検査合格番号				申請中

補足：

- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

走行速度一覧表

販売型式名						MSD4C MSD4CW MSD6C(V) MSD6CW(V) MSD6CWVF	MSDC6C MSDC6CV
走行部						ゴムラグ車輪	ゴムクローラ
車輪径 (mm)						330	–
ゴムクローラ						–	幅 110×ピッチ 60×リンク 17
エンジン回転数 (rpm)						1600	
単位						km/h (m/min)	
ハンドル正位置 （定格回転時）	前進 1	主変速	1	副変速	低	1.24 (20.6)	1.17 (19.4)
	前進 2				高	1.57 (26.1)	1.48 (24.7)
	前進 3		2		低	2.75 (45.8)	2.59 (43.2)
	前進 4				高	3.48 (58.1)	3.29 (54.8)
	後進 1		R		低	1.24 (20.6)	1.07 (17.9)
	後進 2				高	1.57 (26.1)	1.36 (22.7)
ハンドル逆位置 （定格回転時）	前進 1		1		低	1.24 (20.6)	1.07 (17.9)
	前進 2				高	1.57 (26.1)	1.36 (22.7)
	後進 1		R		低	1.24 (20.6)	1.17 (19.4)
	後進 2				高	1.57 (26.1)	1.48 (24.7)

補足：

- **この主要諸元は、改良のため予告なく変更することがあります。**

標準付属部品

品名	数量/台	備考
プラグボックス	1	プラスドライバー付き
取扱説明書	1	
保証書	1	
ガソリンメンテナンス要領書	1	
エアクリーナネット	1	

主な消耗部品一覧表

本機関連

品名	品番	数量				備考
		MSD4C MSD6C [MSD6CV]	MSD4CW MSD6CW [MSD6CWV]	MSDC6C [MSDC6CV]	MSD6CWVF	
V ベルト（B38）	91850000240	1				
ケーブル（シュクラッチ）	91850000310	1				
ケーブル（ロータリクラッチ）	91890000020	1				
ケーブル（ハンドルジョウゲ）	91850000330	1				
ケーブル（スタンド）	91890000030	1	–	–	–	サイドスタンド
ケーブル（スタンド）	91890000040	–	1	1	1	センタスタンド
ケーブル（フクヘンソク）	91890000050	1				
ケーブル（スロットル）	91890000060	1				
フューエルチューブ	91850000250	1				燃料タンクからフィルタポット
シャジクピン	91850000210	1	2	–	2	車輪取付用
スナップピン	99100003410	1	2	1	2	車輪取付用
オイルシール	91850000200	1	2	–	2	車軸用
オイルシール	91850000020	–		1	–	車軸用
ピン（シャジク）	91850000260	–		1	–	駆動スプロケット取付用
プラグ	91890000070	–		2	–	転輪表側
オイルシール	91850000030	–		2	–	転輪裏側
オイルシール	91850000030	2				耕うん軸用
アタマツキピン	91890000080	6［2］			–	爪軸用
ピン（ロータ）	91850000190	–			2	爪軸用
スナップピン	95340001210	6［2］			2	爪軸用
チュウコウヅメ　ヒダリ	91850000080	4［3］			–	
チュウコウヅメ　ミギ	91850000090	4［3］			–	
ヘンケイチュウコウヅメ　ヒダリ	91850000100	2［–］			–	
ヘンケイチュウコウヅメ　ミギ	91850000110	2［–］			–	
ヘンケイチュウコウヅメ　ヒダリ	91850000040	–［1］			–	
ヘンケイチュウコウヅメ　ミギ	91850000050	–［1］			–	
ギャクヘンケイチュウコウヅメ　ヒダリ	91850000060	–［1］			–	
ギャクヘンケイチュウコウヅメ　ミギ	91850000070	–［1］			–	
ツメ（シロ、ヒダリ）	91850000130	–			1	
ツメ（キイロ、ヒダリ）	91850000140	–			1	
ツメ（フクドロータ）	91850000150	–			6	
ツメ（シロ、ミギ）	91850000170	–			1	
ツメ（キイロ、ミギ）	91850000180	–			1	
ボルト	K0117351020	–			10	爪取付用、M10
ツメトリツケボルト	91850000120	12［10］			–	爪取付用、M10
バネザガネ	99100002590	12［10］			10	爪取付用、M10
ナット	99660001570	12［10］			10	爪取付用、M10
ゴムタレ（マエセンタ）	91850000300	1			–	
ゴムタレ（マエスライド）	91850000290	2			–	

エンジン関連

品名	品番	数量				備考
		MSD4C MSD6C [MSD6CV]	MSD4CW MSD6CW [MSD6CWV]	MSDC6C [MSDC6CV]	MSD6CWVF	
スパークプラグ	KE41022BD	1				
スクリーン	FA24262XX011	1				燃料コック
ガスケット	FA24262XX009	1				燃料コック
フューエルホース	KF90308AA180	1				フィルタポットからキャブレタ
エアクリーナエレメント	KA01069AA003	1	–			エアクリーナ用
エアクリーナネット	91890000090	1				エアクリーナ用
エレメント（エアクリーナ）	KA01069AA003	–	1			エアクリーナ用
スタータロープ	KS20199ED106	1	–			リコイル用
スタータロープ	KS20201ED106	–	1			リコイル用

トラブルと処置

エンジンが始動しないとき

原因	処置
• 始動の手順が間違っている。	正しい順序で始動する。（詳細は運転のしかた（26 ページ）を参照）
• タンクにガソリンを入れたまま 1 か月以上保管しガソリンが劣化した。	タンクやキャブレタ内の劣化したガソリンを排出し、新しいガソリンを入れる。
• フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外してフィルタエレメントを清掃する。また新しい物と交換する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
• チョークを閉じた（**[始動]**位置）状態でリコイルを何回も引過ぎガソリンを吸い過ぎた。	チョークを開き（**[運転]**位置）リコイルを引くか、点火プラグを外して乾燥させる。
• エンジン停止後、燃料コックレバーを閉じないで本機を前に倒したり、車両で運搬したためキャブレタがオーバーフローした。	クランクケース内にガソリンが混入していたら、新しいエンジンオイルと交換する。
• エアクリーナエレメントが目詰まりしている。	エレメントを外して清掃する。 または新しい物と交換する。
• 点火プラグの火花が弱い、飛ばない。	点火プラグを外して付着したカーボンを清掃する。または、新しい物と交換する。

エンジン回転が上がらない、不安定、出力が不足するとき

原因	処置
• エンジンが暖まってもチョークを閉じた（**[始動]**位置）まま運転している。	チョークを開く（**[運転]**位置）。
• フィルタポットに水やゴミが混入している。	ポットを外して清掃する。 キャブレタ内のガソリンも排出する。
• エアクリーナエレメントが汚れている。	エレメントを外して清掃する。
• エアクリーナネットが汚れている。	エアクリーナネットを外して清掃する。
• スロットルケーブルの引っ張りが不足している。	ケーブルのセット位置を調節する。

エンジンが振れる、異音が発生する

原因	処置
• エンジン取付けボルトがゆるんでいる。	取付けボルトを締め付ける。

補足：

- **処置をしてもトラブルが直らないときは、購入先にご相談ください。**

索引

アルファベット

F 仕様
　取付けかた....55
V センタロータリ［V 仕様］
　取付けかた....54

あ

安全ラベル
　手入れ....10
　貼付け位置....9
運転前の日常点検....26
エアクリーナ....20
　オイル交換....44
　清掃....44
　調節....32
エアクリーナネット
　交換....44
　清掃....44
　装着....32
エンジン
　始動のしかた....26
　停止のしかた....28
エンジンオイル
　交換....42
エンジン始動不良を防ぐために....56

か

管理機
　外観....12
　給油一覧表....41
　自動車（トラック）での運搬....57
　自動車（トラック）への積込み....57
　主要諸元....58
　使用前の準備....26
　発進のしかた....29
逆転作業....36
耕うん作業手順....31
耕うん爪
　取付けかた....51
耕うん爪軸
　取付けかた....51
耕深調節のしかた....34
ご相談窓口....11
ゴムクローラ［ゴムクローラ仕様のみ］
　調節....46

さ

サイドスタンドケーブル［一輪仕様］
　調節....50
サイドスタンド［一輪仕様］....18
作業前の準備....31
始動のしかた
　リコイルスタータ....26
主クラッチケーブル
　調節....47
主クラッチレバー....13
主変速レバー....16
使用後の手入れ....56
上手な作業のしかた....31
消耗部品一覧表....62
スタンドケーブル［二輪仕様、クローラ仕様］
　調節....49
スタンドレバー［一輪仕様］....18
スタンドレバー［二輪仕様、クローラ仕様］....19
スタンド［一輪仕様］....18
スタンド［二輪仕様、クローラ仕様］....19
スロットルレバー....13
　点検....51
正転作業［F 仕様以外］....35
旋回手順
　ハンドル逆位置....31
　ハンドル正位置....31
洗車時の注意....39
走行速度一覧表....61

た

タイヤ［二輪仕様のみ］
　輪距の調節のしかた....37
チェーンケース
　注油....50
注意事項
　移動するとき....5
　運転してはいけない人....3
　運搬するとき....5
　エンジンを回すとき....4
　回転している爪に注意....6
　格納するとき....8
　カバー類は必ずつける....7
　機械から離れるとき....6
　機械の改造禁止....8
　給油や注油するとき（火気厳禁）....4
　耕うん作業するとき....6
　坂道を移動するとき....5
　作業に適した服装....3
　周囲への注意....3
　掃除をするとき....7
　正しい運転方法....3
　他人に貸すときの注意....3
　積み降ろすとき....5
　積み込むとき....5
　点検、整備、アタッチメント脱着時の注意....7
　点検および整備時の服装と保護具....7
　排ガスに注意....4
　廃棄物の処理について....8
　ハウス、車庫など屋内での移動....5

発進するとき....4
ほ場がかたいとき....6
夜間作業の禁止について....8
中耕ロータリ［標準仕様］
取付けかた....52
長期格納時の手入れ....56
調子よく作業するために....22
チョークレバー....15
定期点検箇所一覧表....40
抵抗棒....20
点火プラグ
点検....45
トラブルと処置....64
トルクリミッター....20

な

ならし運転（最初の 10 時間まで）....26
日常点検
安全に作業するための点検....24
機械の周りを歩いて....42
前回の異常箇所....42
認定番号....11
燃料
抜取り....56
燃料キャップ....16
燃料コックレバー....16
燃料タンク....16
燃料チューブ
交換....44
燃料の給油....42
燃料フィルタとタンク
清掃....45

は

廃棄物
処理....39
ハンドル
高さ調節....32
ハンドル回動レバー....14
ハンドル上下ケーブル
調節....48
ハンドル高さ調節レバー....13
ハンドルの回動....33
標準付属部品....61
ファンカバー
清掃....45
副変速ケーブル
調節....48
副変速レバー....17
補修用部品
供給年限....11

ま

マフラ....18
ミッションオイル
交換....43
メインスイッチ....13

ら

リコイルスタータ....15
ロータリクラッチケーブル
調節....49
ロータリクラッチレバー....14
ロータリ牽制装置....17
ロータリ変速レバー....14
ロープ掛け用フック....21